

# 天正寺遺跡

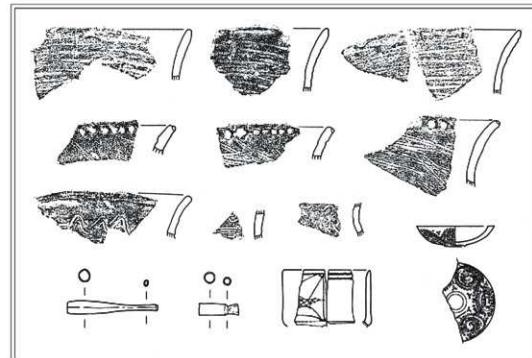
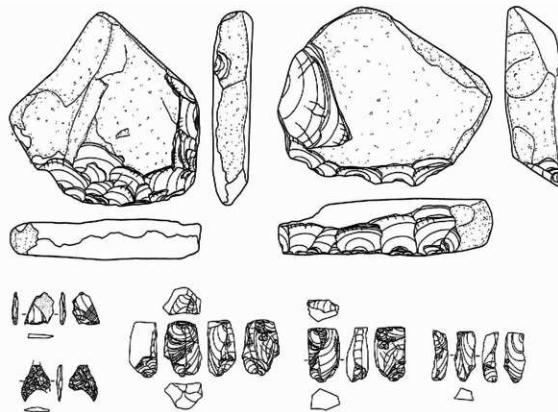
—国道139号線（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書—

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第248集

天正寺遺跡

二〇〇七・一〇

山梨県  
国土交通省  
甲府河川国道事務所  
教育委員会



2007.10

山梨県教育委員会  
国土交通省 甲府河川国道事務所

# 天正寺遺跡

—国道139号線（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書—

2007.10

山梨県教育委員会  
国土交通省 甲府河川国道事務所



1区完掘状况



2区北侧完掘状况



2区南侧完掘状况



3区完掘状况



4区完掘状况

# 天正寺遺跡の概要

天正寺遺跡は、山梨県都留市井倉字赤沢平にあります。今回、調査した場所は山の中腹にあり、林に覆われていました。

この山中に都留バイパスを建設することとなったため、試掘調査を行ったところ、遺跡が発見されました。

発掘調査は2回に分けて行われ、様々な成果が得られました。ここではそのうちのいくつかをご紹介したいと思います。

天正寺遺跡の位置



星印の位置が天正寺遺跡です。

調査した場所



点線が調査区の範囲です。

試掘調査の様子



試掘調査とは、工事範囲に溝状の掘り込みをいくつか設け、地下に遺構・遺物があるかどうか確認する調査です。

出土した遺物



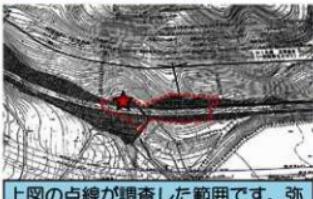
試掘調査範囲



試掘調査は4回に分けて、上図の破線内を対象に行いました。この結果、縦線の範囲から遺構・遺物が確認されたため、発掘調査が行われることとなりました。

試掘調査で出土した遺物を撮影したものが左の写真です。上段は縄文時代の土器、下段が江戸時代の陶磁器です。調査を始める前では、天正寺遺跡は縄文時代の遺跡と考えていました。しかし、調査の結果、縄文時代以外にも弥生時代や中世以降の遺構が確認され、興味深い成果が得られました。

## 弥生時代の調査



上図の点線が調査した範囲です。弥生時代の土器は星印の場所から見つかりました。

## 弥生時代の土器が出土した範囲



### 土器が出た状況



土の柱にのっているのが土器です。

### 土器が出た状況



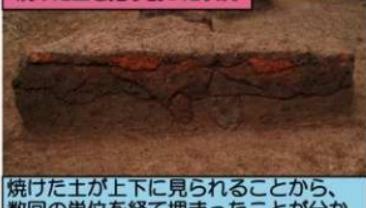
赤い点線に囲まれた黒い土の中から多くの土器が出てきました。

### 焼けた土が出た状況



焼けた土は2ヶ所見つかりました。

### 焼けた土を掘り割った状況



焼けた土が上下に見られることから、数回の単位を経て埋まったことが分かります。

### 弥生土器が出た状況



底に穴があいているこの土器は甑形土器と言います。これはお米の煮炊きの時に使われた土器です。

### 弥生土器が出た状況



この破片についている模様は波状文といわれるもので、櫛歯状の工具でつけられました。この模様が使われたのは弥生時代後期です。

**中世以降の調査**

**1区を上から撮った写真**

**穴が見つかった状況**

1区からは細長い溝や穴が規則的に並んだり、直交して見つかりました。左の写真の中にある窪んだ場所が溝や穴です。上下の写真はそれぞれ点線の範囲を写したもので、これらの溝や穴はどのような目的で掘られたものなのでしょうか？

**溝が見つかった状況**

**溝が見つかった状況**

天明4年（1784）に作られた与縄村絵図の中には、江戸時代の天正寺遺跡も描かれています。天正寺遺跡の位置を絵図に描かれた天正寺との配置から推定すると、青線の範囲が考えられます。この範囲は赤く塗られ、「大豆場」と書かれていますが、これは畑地を意味しています。このことから、今回見つかった溝は畑の畝だと考えられます。

都留市史 資料編より  
＜与縄村絵図 天明4年（1784） 清水一夫家蔵＞

## 序 文

本書は都留バイパス建設に伴い実施した、都留市井倉字赤沢平に位置する天正寺遺跡の調査成果をまとめた報告書です。

開発事業の照会にあたり、調査地点における埋蔵文化財の有無について検討を行ったところ、中世の城館跡や近世に創建された寺院などが周囲にあることから、試掘調査を実施しました。その結果、遺構・遺物が確認されたため、今回報告する本調査を平成17・18年度に行いました。調査によって、縄文・弥生・中世以降という幅広い時代の遺構・遺物が確認され、これまで包蔵地として周知されなかつた場所で、新しい知見が得られました。

天正寺遺跡の北西には生出山山頂遺跡がありますが、今回の調査でも弥生時代中期の遺構・遺物が確認されました。これにより、生出山周辺の山麓において弥生時代の集落が展開することが分かりました。また、中世以降において、山腹を広く使用して生業を行っていたことも把握できました。

調査により、山林の中にも埋蔵文化財包蔵地が広がっていることが周知され、限られた土地を有効に活用しようとする先人の努力を知ることができました。

最後に、調査にあたって御協力頂いた関係者、関係機関、調査・整理作業に従事された皆様方に厚く御礼を申し上げます。

2007年10月

山梨県埋蔵文化財センター

所長　末木　健

## 例 言

1. 本書は、山梨県都留市井倉字赤沢平地内に所在する天正寺遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は国土交通省甲府河川国道事務所からの委託を山梨県教育委員会が受け、発掘調査・整理作業・報告書作成を山梨県埋蔵文化財センター（甲府市下曾根町所在）が担当した。
3. 発掘調査は平成17（2005）年7月22日から同年11月2日（第1次調査）、平成18（2006）年6月21日から同年7月28日（第2次調査）まで実施した。また、整理作業・報告書作成については、平成17～19年度に実施した。発掘調査・整理作業・報告書作成は、網倉邦生・酒井玄曉が担当した。
4. 本書の編集及び天正寺遺跡の概要・第1章から第V章の執筆は、網倉邦生が担当した。
5. 本書に掲載した遺構写真及び作業風景写真は網倉邦生が撮影した。
6. 本書に掲載した遺跡空中写真・図化測量は株式会社こうそくに委託し、撮影した。
7. 本書に掲載した写真図版の95・96頁に掲載した遺物写真は、塚原写真事務所に委託し、塚原明生（日本写真家協会会員）が撮影したものである。
8. 発掘調査に係る国土座標測量・グリッドポイント設定・基準標高測量は、株式会社一瀬調査設計（平成17年度）・昭和測量（平成18年度）に委託した。
9. 出土遺物（石器の一部）の写真実測図化およびデジタル図化は、株式会社アルカに委託した。また、写真図版97・98頁に掲載した遺物写真は、株式会社アルカが撮影したものである。
10. 鉄・銅製品の保存処理は帝京大学山梨文化財研究所に委託した。
11. 「天正寺遺跡の概要」及び「第V章 第2節 3. 中世以降」中に使用した与郷村絵図は、『都留市史』に掲載されたものを転載した。掲載にあたっては、都留市教育委員会及び絵図所有者清水一夫氏の許可を得ている。
12. 本報告書に係る出土品及び記録図面・写真・出土遺物・デジタル化したデータ等は、一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。
13. 調査にあたって、次の組織や方々にご指導及び協力を戴いた。記して謝意を表したい。  
都留市教育委員会、清水一夫

## 凡 例

1. 掲載した遺構図面の縮尺は原則として下記の通りである。  
遺跡関連図 遺跡位置図 1/25,000 グリッド設定図 1/1,000 基本土層図 1/20  
遺構関連図 平面図 1/40 1/60 1/80 1/200 断面図・土層図 1/40 1/60 1/80
2. 遺物実測図の縮尺は下記の通りである。  
土器・陶磁器類 1/3 石器・剥片類 1/1 1/3 金属製品 1/2・1/3 その他 1/3
3. 遺構平面図の網目は次の通りである。  

4. 遺構平面図中の表記は次の通りである。

1～4区平面図	● 土器・陶磁器類	■ 石器・剥片	▲ 金属製品	◆ その他
1号住居状遺構	〔土器〕 ★ 第1類	▲ 第2類	■ 第3類	● その他
	〔石器〕 ▲ 石鏽	■ 石核	▲ 楔形石器	◆ 両極剥片
	◆ 微細剥離を有する剥片・二次加工剥片		● 剥片	
5. 遺構図中の断面図脇にある数値は標高を示す。
6. 遺構図・全体図などに示した方位（N）は国土座標による真北である。
7. 天正寺遺跡は起伏に富んだ地形であるため、平面図中に等高線を挿入した。等高線の間隔は20cmである。
8. 遺物分布図中の表記「 - 」は、「図版番号-図版中番号」である。

## 本文目次

天正寺遺跡の概要	
序文	
例言	
凡例	
本文目次	
図版目次・表目次・写真図版目次	
第Ⅰ章 調査経緯と経過	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査経過	1
1. 発掘調査の経過	1
2. 整理作業の経過	2
3. 調査に係る事務手続き	2
第3節 調査組織	3
第Ⅱ章 地理的環境と歴史的環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4
1. 埋蔵文化財包蔵地	4
2. その他の文化財	4
3. 埋蔵文化財包蔵地と微地形との関係	6
4. 文献資料	6
第Ⅲ章 調査の方法と基本層位	7
第1節 発掘調査の方法	7
1. 調査区の規模	7
2. 調査グリッドの設定	7
3. 表土層の除去	7
4. 表土層除去後の調査	7
第2節 基本層位	7
第Ⅳ章 検出された遺構・遺物	9
第1節 調査の概要	9
第2節 検出された遺構・遺物	9
1. 1区の遺構・遺物	9
2. 2区の遺構・遺物	9
3. 3区の遺構・遺物	9
4. 4区の遺構・遺物	10

## 図版目次

第1図 天正寺遺跡調査範囲図	3
第2図 遺跡分布図	5
第3図 グリッド設定図・基本土層図	8
第4図 横堀遺跡・原平遺跡出土罐器	12
第5図 与郷村絵図における天正寺遺跡の位置図	18
第6図 1区平面図(B-E-2~5グリッド)	34
第7図 1区平面図(E-H-4~8グリッド)	35
第8図 1区平面図(G-I-1~3グリッド)	36
第9図 1区平面図(E-I-8~10グリッド)	37
第10図 1区平面図(H-K-6~9グリッド)	38
第11図 1区平面図(H-K-5~7グリッド)	39
第12図 1区遺構平面・断面図1	40
第13図 1区遺構平面・断面図2	41
第14図 1区遺構平面・断面図3	42
第15図 2区北側平面図(H-J-9~12グリッド)	43
第16図 2区北側平面図(G-J-11~14グリッド)	44
第17図 2区南側平面図(L-N-15~18グリッド)	45
第18図 2区遺構平面・断面図	46
第19図 3区平面図(U-X-19~22グリッド)	47
第20図 3区平面図(T-V-21~25グリッド)	48
第21図 3区平面図(T-W-26~29グリッド)	49
第22図 3区1号住居状遺構 平面・断面図	50
第23図 3区1号住居状遺構 遺物分布図1	51
第24図 3区1号住居状遺構 遺物分布図2	52
第25図 3区2号汎平面・断面図	53
第26図 3区遺構平面・断面図1	54
第27図 3区遺構平面・断面図2	55
第28図 3区遺構平面・断面図3	56
第29図 3区遺構平面・断面図4	57
第30図 4区平面図(I-L-12~15グリッド)	58
第31図 4区平面図(I-L-8~11グリッド)	59
第32図 4区平面図(K-M-10~14グリッド)	60
第33図 4区遺構平面・断面図1	61
第34図 4区遺構平面・断面図2	62
第35図 1区全体図	63・64
第36図 2区全体図	65・66
第37図 3区全体図	67・68
第38図 4区全体図	69
第39図 1・2区出土遺物(土器・陶磁器)	70

第40図 3区出土遺物1(土器・陶磁器)	71
第41図 3区出土遺物2(土器・陶磁器)	72
第42図 3区出土遺物3(土器・陶磁器)	73
第43図 3区出土遺物4・4区・試掘等出土遺物 (土器・陶磁器)	74
第44図 金属製品等	75
第45図 石製品1	76
第46図 石製品2	77
第47図 石製品3	78
第48図 石製品4	79
第49図 石製品5	80
第50図 石製品6	81
第51図 石製品7	82
第52図 石製品8	83

## 写真図版目次

図版1 1区調査1	87
図版2 1区調査2	88
図版3 1区調査3・2区調査1	89
図版4 2区調査2・3区調査1	90
図版5 3区調査2	91
図版6 3区調査3	92
図版7 3区調査4・4区調査1	93
図版8 4区調査2	94
図版9 出土遺物1	95
図版10 出土遺物2	96
図版11 出土遺物3	97
図版12 出土遺物4	98

## 表目次

第1表 遺跡一覧表	6
第2表 土坑一覧表	20
第3表 溝状遺構一覧表	25
第4表 土器・陶磁器一覧表	28
第5表 金属製品等一覧表	32
第6表 石器・剥片類一覧表	32

## 第Ⅰ章 調査経緯と経過

### 第1節 調査に至る経緯

発掘調査を実施した地点は富士急行線生駅の東南側1.5kmほどに位置している。調査地点周辺は山林であり、調査区は緩・急斜面、沢など多様な地形により構成される。今回の調査は、都留バイパス（国道139号線）建設に伴う発掘調査である。都留バイパスは都留市十日市場から田野倉に至る2車線道路として整備されている。天正寺遺跡が所在する赤沢平は井倉から玉川に抜ける都留バイパス第2トンネルの北側に位置する。道路施工予定地点は埋蔵文化財包蔵地ではなかったが、東側に創建が1615年である天正寺、沢を隔てた反対側に中世城館跡など周間に中近世の文化財があることや、人為的な土地の変更が認められることから、試掘調査の必要性があるとされた。

平成15年12月19日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所用地課・東洋測量が参加し、試掘調査事前協議が行われた。この協議で、用地取得分に係わる幅杭の打設を県埋蔵文化財センターが要請した。幅杭の打設が終わった範囲を対象に、平成16年2月24日に試掘調査を実施した。調査は4×2mのトレチを1本設定し、掘り下げを行った。この結果、地表下60cmの位置において縄文時代の土坑1基が確認され、遺構外からも縄文時代後期の土器・剥片・近世の陶磁器などが出土した。このため、当該地点を埋蔵文化財包蔵地として新たに登録した。

平成16年3月8日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課が参加した協議により、2月24日の試掘調査でトレチを設定することができなかつた調査区の北側を対象として、天正寺遺跡の範囲を確定させるため、再度試掘調査を行うことに決定した。これを受け、平成16年3月15日に実施した試掘調査では2×2mのトレチを12ヶ所設定して、掘り下げを行った。この結果、遺構・遺物は確認されなかつたが、調査対象地より南側において、未取得地が点在しており試掘調査ができないため、来年度も試掘調査を継続し、遺跡全体の範囲確認を行うこととした。

平成17年3月10日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課が参加した協議により、用地取得状況に応じ昨年度調査が行えなかつた地点を対象に試掘調査を行うことが決定した。試掘調査は平成17年3月14～17日の間、13本のトレチを設定して、掘り下げを行った。この結果、複数のプランと共に、剥片や近世の陶磁器片が出土したため、第1回の範囲を対象に本調査が行われることとなつた。

平成17年6月20日に学術文化財課・県埋蔵文化財センター・国土交通省甲府河川国道事務所調査二課・岡谷組が参加した協議により、重機等搬入路造成などについて打ち合わせが行われ、国土交通省甲府河川国道事務所調査二課・岡谷組が対応して調査に入るための工事を行うことになった。この後、7月中旬まで道路造成工事を行い、7月22日より発掘調査に着手した。平成17年度に実施した発掘調査の当初、調査区の中に未買収地が存在していた。これについては、事前協議において早い段階に買取できた場合には平成17年度に調査するものとされた。しかし、買取が可能となったのが9月中旬であったため、9月20日に国土交通省甲府河川国道事務所調査二課と現地協議を行い、当該地点は平成18年度に調査を行うことになった。この後、平成17年度の発掘調査は11月2日まで行われた。

平成18年度の発掘調査について、平成18年5月19日に現地協議を行つた。この協議により、調査地点までの搬入路造成などが決定した。これらの工事の後、6月21日より調査に着手し、7月28日に調査を終了した。

### 第2節 調査経過

#### 1. 発掘調査の経過

平成17年度調査を行うにあたり、調査区を調査範囲における地形にあわせて3つに分けた。東向きの緩斜面を1区、沢沿いの緩斜面を3区とし、1区と3区の中間に位置する地区を2区とした。2区を南北に分け、間に平成18年度に調査した4区を設定した。年度ごとの調査経過は、以下の通りである。

(平成17年度)

プレハブと発掘調査用の機材を平成17年7月21日に搬入した後に、天正寺遺跡に係わる発掘調査を開始した。調

査はまず1区から着手し、7月22・25日、8月1・2日に1回目の表土剥ぎを実施した。(降雨のため、断続的な工程となった)この後、一瀬調査設計に委託し、基準点測量を8月4日、グリッド杭・標高杭設置を8月5日に行った。8月中旬の段階において調査工程上、2区南側・3区の表土剥ぎを先行して行う必要性があると判断し、8月29・30日、9月1・2・8・12~26日まで2区南側および3区を対象に2回目の表土剥ぎを実施した。9月16日に株式会社こうそくによる1区の空中写真撮影や光波による測量を行い、9月26日に1区の調査を終了した。また、2回目の表土剥ぎと並行して、1区・2区南側・3区の調査を実施し、11月27日に3区の空中写真撮影を行った。10月6・7日に2区北側を対象とした3回目の表土剥ぎを実施し、10月31日に2区の空中写真撮影を終えた。11月1日にプレハブ・発掘調査用機材の借用期限を迎えたため、これらを撤去した。11月2日に光波測量を行い、2・3区の調査を終了した。また、10月28・31日に3区以南を対象とした試掘調査を行ったが、遺構・遺物は検出されなかつたため、調査対象外と判断し、調査を終えた。

(平成18年度)

調査に際し、プレハブと発掘調査用の機材を平成18年6月19日に搬入した後に、天正寺遺跡に係わる発掘調査を開始して、6月21・23日に表土剥ぎを実施した。昭和測量に委託し、基準点測量を6月26日、グリッド杭・標高杭設置を6月27日に行った。4区の調査は7月26日までに掘り下げなどの作業を終え、7月27日に株式会社こうそくによる空中写真撮影を実施した。7月28日にプレハブ・発掘調査用機材の借用期限を迎えたためこれらを撤去し、同時に光波測量を行い、調査を終了した。

また、調査の進捗に応じ、現場速報「天正寺ニュース」を作成し、遺跡の周知に努めた。なお、「天正寺ニュース」は県埋蔵文化財センターのホームページ上に掲載している。

(山梨県埋蔵文化財センターのURLは<http://pref.yamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm>である)

## 2. 整理作業の経過

整理作業は平成17年度(平成17年11月1日~平成18年3月17日)と平成18年度(平成18年5月8日~11月30日)、平成19年度(平成19年6月4日~8月29日)に実施した。年度ごとの作業内容は、平成17年度に水洗・注記・接合・拓本・図面整理、平成18年度に遺物実測・遺物トレース・遺物図版作成・遺構台帳作成、平成19年度に遺構トレース・遺物図版作成・遺構図版作成・写真図版作成・遺物台帳作成を行った。原稿執筆は、平成19年2月20日より開始し、平成19年7月12日に終了した。報告書の入稿は8月16日であり、報告書は10月31日に刊行された。委託業務としては石器団化、鉄・銅製品保存処理を実施した。なお、平成17・18年度に実施した県埋蔵文化財センター主催の遺跡展に出土遺物を出した。

## 3. 調査に係る事務手続き

発掘調査に際しては、文化財保護法に基づく手続きの他に、発掘調査の成果に係る報告を行った。それらの事務手続きは以下の通りである。

(平成17年度)

平成17年7月14日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成17年11月8日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を都留警察署長に提出

平成17年11月25日 発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成18年3月16日 発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

(平成18年度)

平成18年5月29日 文化財保護法第99条第2項に基づく発掘通知を山梨県教育委員会教育長に提出

平成18年7月31日 文化財保護法第100条第2項に基づく発見通知を都留警察署長に提出

平成18年8月8日 発掘調査の完了報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成19年3月15日 発掘調査・整理作業の実績報告を山梨県教育委員会教育長に提出

### 第3節 調査組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

所長 渡辺 誠（平成17年度）（平成17年度3月退任） 末木 健（平成18・19年度）（平成18年度4月就任）

次長 齋田守忠・末木 健（平成17年度） 小澤 稔（平成18・19年度） 小野正文（平成19年度）

調査課長 坂本美夫

担当リーダー 小林広和（平成17年度） 山本茂樹（平成18年度） 保坂和博（平成19年度）

発掘調査・整理報告担当 主任文化財主事 網倉邦生・非常勤嘱託 酒井玄曉

作業員（五十音順）

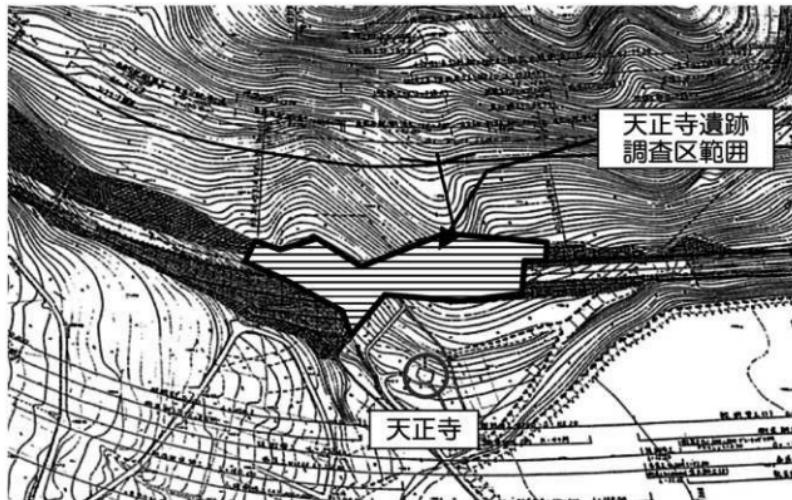
発掘調査 阿左美博資・天野武子・天野美津子・石井昇・磯京子・入倉大東・岩倉里珠・牛田幸子・大澤正吾・

斧田文夫・加藤麻弓・小林昭子・小林清子・小林信平・小林定・小林正子・小林正彦・酒井仙一・酒

井富作・酒井幸男・佐々木寛幸・佐藤あさ子・鷹野亨・椿孝二・遠木常久・中井愛・服部綾子・林正

之・原清吉・宮崎彩・武藤朝雄・元木公英・渡辺裕子

整理作業 梶原初美・齊藤律子・西山和子・樋口久子・樋口昭子



第1図 天正寺遺跡調査範囲図

## 第Ⅱ章 地理的環境と歴史的環境

### 第1節 地理的環境

天正寺遺跡は、都留市井倉字赤平に位置している。北西側にある生出山より東南側に稜線が続く山塊中の東向き斜面に遺跡は立地している。遺跡の北東側は朝日川の開析により形成された平地であり、朝日川の対岸には九鬼山が位置している。都留市は山梨県東部にある郡内地域に位置しており、山地がその面積の多くを占め、平地は少ない。この地形は郡内地域に共通する特徴であるが、天正寺遺跡周囲の地理的環境も例外ではない。

巨視的に見ると都留市はフォッサマグナの中に位置しており、隆起と沈降が繰り返された結果、現在の地形が形成された。都留市の地形は、一連の地殻変動によって極めて急峻な渓谷と山地になったと言える。郡内地域は富士山の近郊であるため、火山灰が厚く確認される地域である。都留市内で確認される火山灰としては富士山起源のものだけではなく、広域火山灰も認められている。(上杉 1987)。

遺跡の周囲を微視的に見ると、西南側には山頂の稜部があり、西南側と東南側の山の間に位置する沢が調査区の東側を流れ、朝日川に合流している。遺跡の立地は調査区によって大きく異なっているが、緩斜面が数段の異なる傾斜を持って展開している。1区と2区北側は北東側に傾斜しており、等高線がほぼ同じ間隔で推移する緩斜面である。調査区の東側は崖であり、急斜面となって北東側に向かっている。2区の南側は南向きの斜面となり、3区の枯沢（2号沢）に向けて傾斜している。2区と3区の間は傾斜が急になっている。3区は朝日川に合流する沢に面し、西南から北東に向かって走向する枯沢（2号沢）を凹部として、北東から南東にかけて掃鉢状に傾斜する地形を呈する。枯沢（2号沢）の始点である調査区西端は傾斜が緩まり、平坦地に近い緩斜面が展開している。4区の中央において等高線が大きく変化する。これまで、西南→北東方向に傾斜していた斜面が、北西→南東側に変化する。これは、山の稜部が4区中央で変化することによる。

### 第2節 歴史的環境

#### 1. 埋蔵文化財包蔵地

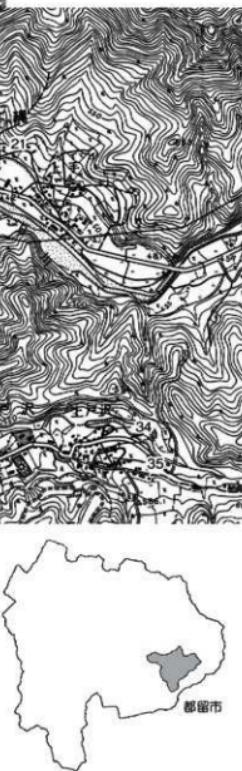
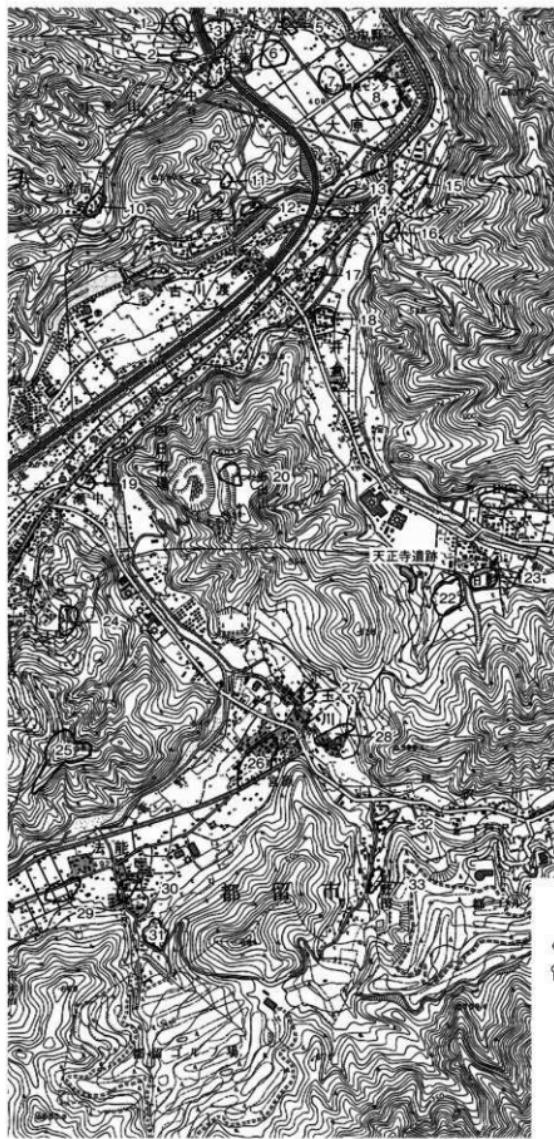
都留市内において埋蔵文化財包蔵地に係わる調査は戦前から行われており、研究史も長い期間にわたっている。文化財保護法が整備される以前においては、大学の研究室や郷土史家を中心に調査が進められていった。戦前において既に都留市内の遺跡一覧が報告されており、この段階で把握された遺跡の中には、戦後の調査によって大きな成果を得たものも含まれている。行政が調査の主体となる時期において、都留市における埋蔵文化財包蔵地は段階的に増加していった。行政の報告事例として、山梨県埋蔵文化財包蔵地分布調査により都留市内では昭和37年に34ヶ所、昭和47年に57ヶ所の遺跡、昭和56年に刊行された『全国遺跡地図 山梨県』では都留市内において60ヶ所の遺跡が報告された。平成19年の都留市教育委員会による遺跡一覧データによると都留市内には82ヶ所の遺跡が登録されている。

天正寺遺跡の周辺にある遺跡としては、東南側と北東側に縄文時代の散布地である日影松原遺跡・与縄日向遺跡があり、東側には与縄館跡が立地する。与縄館跡は朝日川の左岸段丘に位置しており、中世の在地土豪層の居館と考えられている。南北方向に主軸を持つ2本の谷に挟まれた段丘先端において、谷に並行する堀を2本刻み、東西に並ぶ3つの郭を作り出している。史料や伝承を欠いており、築城の時期ならびに築城者は不明である（山梨県史2004）。また、天正寺遺跡の北西側には縄文時代早期の集落跡・弥生時代の散布地である生出山山頂遺跡、西南側には縄文時代早期～中世の遺跡である玉川金山遺跡が周知されている。

#### 2. その他の文化財

山梨県内において、板碑は国中と郡内で分布が明確に異なる。郡内地域では武藏型板碑、国中地域では在地型板碑が確認される。また、石輪は国中地域のみ分布しており、武藏型板碑と在地型板碑・石輪は排他的な分布傾向を示す。これは、郡内と国中の差異を示すとともに、郡内の関東からの影響を示唆している事例と言えよう。

都留市において、武藏型板碑は文献などにより10点の資料が推定されるが、現在確認されるのは8点である。



第2図 遺跡分布図

紀年銘が最も古いもので真福寺にある延文二（1357）年の資料であり、最も新しいもので大平薬師堂にある嘉吉二（1442）年の資料が挙げられる。郡内で確認される武藏型板碑の年代は1350～1390年代が最も多いが、都留市の年代が判明している資料の内、2点を除いて1350～1390年代の間である。

天正寺遺跡の東南側には、天正寺が所在している。「甲斐国志」によると、天正寺とは元和元（1615）年に創建された寺院で、当初は朝日川の対岸に位置する西谷所という場所にあった。現在の場所に移った時期は不明で、開基は小山田氏の娘であるという。

### 3. 墓藏文化財包蔵地と微地形との関係

都留市内の遺跡は、桂川水系におけるいすれかの河川沿いに位置すると要約できるが、遺跡が立地する場所の標高にはばらつきがある。その要因を考えるために、遺跡の標高データから垂直分布を探ってみると、時代ごとに偏りがあることが分かる。分布の検討により、縄文時代においては500～549mを中心に正規分布し、弥生時代には標高が高い位置に占地するものの、古墳・奈良時代にはより低い場所に遺跡が分布する傾向が得られた。平安時代は400～599mを中心に分布するものの、650～749mの位置にも確認されている。中世において500m以下の遺跡が欠落しているが、対象としているデータが城館跡などであり、現在の住宅街となっている地名に中世の遺称地が確認されていることから、低地も既に開発されていたとみなすべきであろう。

### 4. 文献資料

天正寺遺跡に係わる文献資料としては、天明四（1784）年の与縄村絵図が挙げられる。与縄村とは遺跡周辺の近世段階における村落名である（調査地点における、現在の字名は井倉であるが、近世段階では与縄村に属していた）。この村絵図は与縄村から代官所に提出された天明四（1784）年7月のものであるが、山や耕地の利用状況などの記録を主眼に描かれている。また、地図圏にある「天神」・「八幡」・「御嶽」・「天正寺」などは現在と同じ位置に記載され、天正寺の創建当時の場所である西谷所も描かれている。

与縄村は寛文九（1669）年の検地を契機に朝日村から分村した。天明二（1782）年では、家数78・人数366・馬29（寛政二（1790）年『水帳 去寅人別稼之儀書上帳』）、文化初（1804）年では家数75・人数341・馬25（『甲斐国志』）、天保十一（1840）年では家数70・人数356・馬25・天正寺・氏神宮・天神祠（『書上帳』）という記録がある。（平凡社『山梨県の地名』 1995）

第1表 遺跡一覧表

	遺跡名	種別	時代		遺跡名	種別	時代
1	宮道遺跡	散布地	縄文・平安	19	山梨道跡	散布地	縄文
2	中谷入道跡	散布地	縄文・平安	20	生出山山頂道跡	聚落跡	縄文・弥生・平安
3	松葉道跡	散布地	縄文	21	弓綱日向道跡	散布地	縄文
4	中谷道跡	集落跡	縄文・古墳・奈良	22	日影伊原道跡	散布地	縄文
5	原道跡	散布地	縄文・平安	23	弓綱城跡	城館跡	中世
6	大原中溝道跡	集落跡	縄文・古墳	24	深田道跡	散布地	縄文・古墳
7	中溝道跡	集落跡	縄文	25	谷村の烽火台	城館跡	中世
8	沖大原道跡	散布地	縄文	26	宮原道跡	散布地	縄文
9	大樅道跡	散布地	縄文・古墳	27	玉川道跡	散布地	縄文・古墳
10	古谷戸道跡	散布地	縄文	28	玉川金山道跡	集落跡	縄文・奈良・中世
11	楊久保道跡	散布地	縄文・平安	29	住吉道跡	集落跡	縄文
12	亀石道跡	散布地	縄文・平安	30	海戸道跡	散布地	縄文
13	下久保道跡	散布地	縄文	31	天神山道跡	散布地	縄文・古墳
14	大久保道跡	散布地	縄文	32	桃曾根道跡	散布地	縄文・弥生
15	九鬼Ⅱ道跡	散布地	縄文・平安	33	引の田道跡	散布地	縄文
16	九鬼Ⅰ道跡	散布地	縄文・奈良・平安	34	西畠道跡	散布地	縄文
17	前ヶ久保道跡	散布地	縄文・奈良・平安	35	金山道跡	散布地	縄文
18	美通道跡	集落跡	縄文				

## 第Ⅲ章 調査の方法と基本層位

### 第1節 発掘調査の方法

#### 1. 調査区の規模

平成17年度において、調査区を調査の進捗に応じ、北側より1～3区まで設定した。この内、2区は南北に分けて調査を行い、2区の間にある調査区を4区と呼称し、平成18年度に調査を行った。

1区は長軸約43m・短軸約40mの長方形に近い形状を呈し、西南から北東方向に傾斜する緩斜面に位置する。面積は1,553m<sup>2</sup>である。2区北側は長軸23m・短軸18mの長方形、2区南側は長軸23m・短軸18mの三角形に近い形状である。2区北側は1区と同じく西南から北東方向に傾斜するが、2区南側は北から南方向に傾斜する緩斜面である（3区の中央にある沢に向かって傾斜する）。2区北側は374m<sup>2</sup>、2区南側は278m<sup>2</sup>である。3区は長軸62m・短軸31mの不整形な形状を呈する。傾斜する向きは地点によって異なり、北側では北西から東南、中央では西から東、南側では西南から北東へ傾斜する。面積は1,417m<sup>2</sup>である。4区は長軸34m・短軸30mのL字形を呈し、1区と同じく西南から北東方向に傾斜する。面積は615m<sup>2</sup>である。なお、2区南側と3区の間は急傾斜地であるため、本調査の対象外とし、掘削部分については立会により対応した。

#### 2. 調査グリッドの設定

発掘調査の実施に際し、国土座標に基づく5mグリッドを設定した。方角杭については、南北ラインを西から東へアルファベット大文字でA・B・Cの順に、東西ラインを北から南へアラビア数字で1・2・3の順に記号を付し、ラインが交差してできる方角を、A-1・B-2の様に呼称した。

第35～38図の左端・下端に示した値は世界測地系の座標値「測地成果2000（日本測地系2000=JDG2000）」いわゆる新座標値である。新座標と旧座標は、国土地理院作成・配布のフリーソフトTKY 2JDにより変換することができる。このソフトは国土地理院のホームページ上で公開されている。

#### 3. 表土層の除去

天正寺遺跡は各調査区で地形・構成土壤が大きく異なっている。1～2・4区は緩斜面に位置しているため土層堆積が基本的に薄いが、3区は沢沿いの低地であり、1～2・4区より標高が低いため土砂の堆積が比較的厚い。このため、1～2・4区においては一枚の遺構確認面より異なる時代の遺構が検出されたが、3区では2枚の遺構面が確認できた。ただし、上面の遺構は局所的だったため、遺構の無い範囲は下面まで掘り下げた。1～2・4区では明茶褐色土層、3区の上面は暗灰褐色土層、3区の下面は明茶褐色土層を基準に掘削を行った。掘り下げを行う際には0.4クラスの重機を使用した。

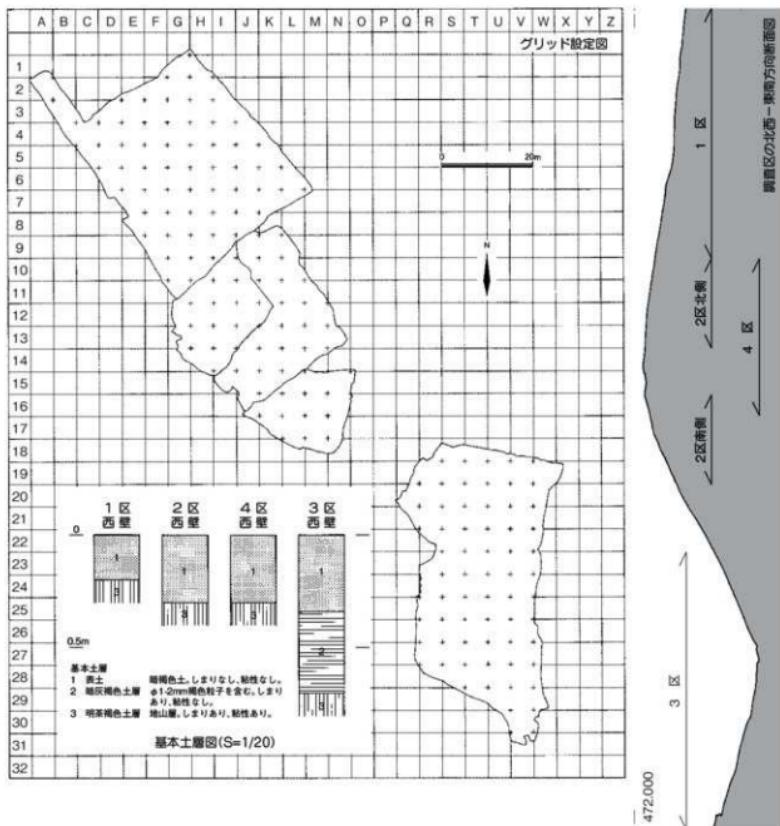
#### 4. 表土層除去後の調査

表土層の除去後の掘り下げと遺構確認は人力で行った。遺構確認は、試掘調査の際に確認された遺構確認面を基準に掘り下げを行った。作業の手順としては、ジョレンを用いてプラン確認を行い、移植ごてを使用して遺構を掘り下げた。平面プランが検出された遺構については、遺構の規模を勘案し、土層観察用のベルトを設けるか、半截した。記録図面については、遺構平面図・断面図・土層堆積状況図などを調査の進捗に応じ、適宜作成した。測量方法については、平面図は空中写真撮影による図化測量を行い、補助的にグリッド杭を基準とした平板測量を実施した。また、立面図は方眼紙への計測図化により作成した。出土遺物は原位置の記録に努め、グリッド杭を基準とした光波測量により出土位置を記録した。また、遺構・遺物の平面図中に高さのデータを記入し、3次元データとしての記録に努めた。写真については、遺構検出・半截・完掘状況・遺物出土状況などを中心に撮影した。撮影機材は、小型一眼レフカメラによる35mmモノクロネガ・カラーボジを主体に使用し、デジタルカメラも補助的に用いて記録した。

### 第2節 基本層位

天正寺遺跡は地点により多様な地形に立地しており、遺構面まで堆積が厚い調査区も存在する。ただし、基本的

な層序関係は複雑ではない。1～4区まで共通する造構確認面は明茶褐色土層であり、この土層までの深さは1区で20cm、2区で30cm、3区で70cm、4区30cmである。1～2・4区では表土から確認面まで非常に浅いことにより、時代の異なる造構が明茶褐色土層中から確認される。これは調査範囲が傾斜地に立地するため、土壤が調査区の外側へ流出することに原因がある。1～2・4区は基盤層である明茶褐色土層の上に、暗褐色土・表土が確認されるが、層厚は非常に薄い。これに対し、3区には明茶褐色土の上に暗灰褐色土が堆積し、暗灰褐色土の上面からは部分的に造構が検出された。3区のみ暗灰褐色土が確認される原因としては、1～2・4区より低地であり、沢に面した緩斜面上にあることから、土壤の供給を多く受けるためと考えられる。



第3図 グリッド設定図・基本土層図

## 第Ⅳ章 検出された遺構・遺物

### 第1節 調査の概要

平成17年度に行った調査では、調査区を3つに分けて調査を行い（1～3区）、平成18年度に実施した調査では、4区の調査を行った。以下に調査区の結果を記述する。なお、遺構・遺物データは一覧表として掲載し、遺構・遺物の検討については、第V章の第1節・第2節に記載した。

### 第2節 検出された遺構・遺物

#### 1. 1区の遺構・遺物

1区の確認面は明茶褐色土層であり、深さは地表下約20cmに位置する。調査区からは土坑150基・溝状遺構53条・沢跡1が検出された。調査区を斜面から分類すると、E-8～H-10・F-2～L-7にかけて走向する、2つの急傾斜間に隔てられた3つの緩斜面より構成される。この内、中央の緩斜面に多くの遺構が分布する。

溝状遺構は幅広で深いものと、幅狭で浅いものに分化される。どちらも地形の傾斜方向に対して直交する方向に走行しており、幅広で深い136号溝状遺構は急傾斜となる地点にあり、幅狭で浅い溝状遺構は調査区の中央から南側にかけて広く分布する。これらの溝状遺構は覆土中に江戸時代の陶磁器片や錢貨を包含している。土坑は梢円形・長方形で浅いものが多い。その配置としては、傾斜と平行する西南から東北方向に向かって連続するものとランダムに分布するものに分けられる。連続する土坑群の中でも、G・H-5～7グリッドに位置するものは水平距離で13m程にわたり、12基の土坑が連続する。他にも3～6基の土坑が傾斜と平行する向きに連続して確認された。調査区の中央北寄りに位置する1号沢は底面より近世の陶磁器片が確認されていることから、近世段階まで沢として機能し、その後徐々に埋没したと推測できる。また、1号沢の北側からは幅狭で浅い溝状遺構や連続する土坑は確認されていない。136号溝状遺構より南側においても幅狭で浅い溝状遺構は確認されておらず、これらの遺構が土地の境界を示すものとして構築された可能性を有している。遺物としては6号土坑より縄文土器、136号溝状遺構より近世陶磁器片、1号沢からは近世陶磁器片や石器などが出土している。また、一括資料として、遺構外からも縄文土器、近世・近代陶磁器片などが確認されている。

#### 2. 2区の遺構・遺物

2区の確認面は明茶褐色土層であり、深さは地表下約30cmに位置する。調査区の北側からは土坑32基・溝状遺構2条が検出された。調査区を斜面から分類すると、G-13～I-14・H-9～J-10にかけて走向する、2つの急傾斜間に隔てられた3つの緩斜面より構成される。調査区の北側から検出された64・65号溝状遺構は地形が急傾斜になる場所に構築されているが、遺構の底面までは浅い。ただし、平面的には1区の136号溝状遺構と対応する位置にあり、土地の境界を示すものとして構築された可能性を有している。土坑はランダムに分布しており、1区の様に連続的には確認されない。330～333号土坑は地形が急斜面となる地点に立地する。

調査区の南側からは土坑27基・溝状遺構10条が検出された。調査区を斜面から分類すると、L-15～L-17にかけて走向する急傾斜間に隔てられた2つの緩斜面より構成される。また、斜面の傾斜は1区・2区北側と異なり、西側から東側に傾斜する。これは4区の南側から2区南側の北端にかけて地形が大きく回りこんでいることに起因している。2区南側からは溝状遺構が検出されており、これらは傾斜と直交する位置にある。これらは1区の幅狭で浅い溝状遺構と同じ性格を有する遺構だと考えられる。また、溝状遺構が位置する傾斜面は、1区の幅狭で浅い溝状遺構が位置する傾斜面と対応している。調査区の西端と中央南からは焼土集中が検出されている。土坑の配置はランダムである。遺物としては、2区南側の305号土坑から寛永通寶が1点出土している。

#### 3. 3区の遺構・遺物

U-21・22グリッドとR-22グリッドの暗灰褐色土から焼土集中が1基ずつ確認されたため、表土剥ぎをこの位置で止めた。この土層より下から、明茶褐色土が確認されているが、この土層は調査区の全面に広がっている。

遺構面までの層厚は地点により大きく異なっているが、調査区の西側では暗茶褐色土まで35cm、明茶褐色土まで70cmである。調査区からは住居状遺構1基・土坑153基・溝状遺構3条・沢跡1基が検出された。調査区を斜面から分類すると、R-26~28より西側は平坦に近い地形が広がっている（ここからは住居状遺構が1基確認された）がこれ以外は、東側に向けた指鉤状の地形を呈する。傾斜は地点により異なっており、北側では北西から東南、中央では西から東、南側では西南から北東に傾斜している。調査区からは土坑が多く検出されているが、平面形状が不整形なものが多い。掘り込みが深いものと浅いものに分けられるが、配置に意図性を感じさせるものはない。U-20・V-19~21・W-20~21からは柱穴状の土坑群が確認されている。調査区中央には西南から北東方向に走向する2号沢が位置している。焼土集中以外にも覆土中に焼土粒子を含む土坑が確認されている（172号土坑）。遺物としては、244・279・400号土坑から縄文土器、1号住居跡から弥生時代中期の土器・石器、2号沢からは弥生時代から近世までの遺物が出土している。また、遺構外の一括資料として、縄文土器、近世・近代の陶磁器片などが出土している。

#### 4. 4区の遺構・遺物

4区の確認面は明茶褐色土層であり、深さは地表下約30cmに位置する。調査区からは土坑39基・溝状遺構69条が検出された。4区にはI-14・J-15に位置する北西から南東、J-16~L-14に位置する西南から北東、K-11~L-12に位置する北西から南東に走向する凹地という3ヶ所の人為的な地形変更が認められる。これらの凹地は、近世の遺物を包含する幅狭で浅い溝状遺構を切っていることから非常に新しい地形変更と想定される。凹地の底面から土坑が検出されているが、これらは新しい掘り込みであると判断される。

K-11~L-12に位置する北西から南東に走向する凹地に隔てられ、上下に遺構群が確認されている。J・K-13・14、K-12グリッドに広がる緩斜面には幅狭で浅い溝状遺構が斜面と直交する向きに広がっている。これらは1区・2区南側から検出されている溝状遺構と同じ性格のものであると推測される。土坑は長方形で深いものと不整形で浅いものに分けられるが、配置に規則性はない。J・K-9・10グリッドに広がる緩斜面にも幅狭で浅い溝状遺構が斜面と直交する向きに広がっている。土坑は浅いものが多くその配置はランダムである（376号土坑は例外的に深く126cmを測る）。J・K-13・14、K-12グリッドの緩斜面は2区北側と地続きであるものの、幅狭で浅い溝状遺構が確認される点から土地の使用法が異なることを指摘でき、J・K-9・10グリッドに広がる緩斜面が1区の同じ傾斜面から連続する形状を示している点とは大きく異なっている。遺物としては、71号溝状遺構より煙管が検出されている。また、一括資料として縄文時代の土器片、平安時代の土師器片、近世・近代の陶磁器片などが出土している。

## 第V章 調査の成果と課題

### 第1節 検出された遺物

#### 1. 碠器の技術的分析

天正寺遺跡からは、硃器が5点検出されている。しかし、全ての資料が遺構外から出土しているため、時期決定は非常に困難である。ただし、比較可能な類似する属性を有す資料もあるため、技術的な分析を行うこととする。分析を通して資料相互の関連性や特徴の抽出について検討を加えていきたい。

第47図14は裏面からの調整により刃部を作出した硃器である。平面形は多角形状を呈し、縦断面は板状である。調整が加えられた範囲は限定的であり、素材の形状を大きく残している。刃部が作出されている部位は、素材の形状も斜めであり、素材の形態に準拠して製作されたことが分かる。また、素材の形状から、刃部再生は進行していないと推測される。刃部は鋸歯状を呈しており、直接打撃によって生じた凹凸がそのまま刃部の縁辺となっている（左辺から生じている剥離痕は節理によって生じた割れである可能性が高い）。打点は使用によって生じたと考えられる小剥離によって切られているが、想定される打点間の距離は3cm幅のものが多いため、刃部を設けた辺に対し、均等に剥離が加えられたと評価できる。

第48図15は表裏面から調整が加えられた硃器である。平面形は多角形状を呈し、縦断面は板状である。刃部は調整によって緩く外済している。調整の単位・機能はいくつかに分化される。表面において右辺から加えられた剥離群は素材の厚さを減じるための剥離と考えられ、端部に階段状剥離が発達する。また、刃部形成のための剥離も數単位に分けられるが、これは求心状に剥離を加えたことに起因している。

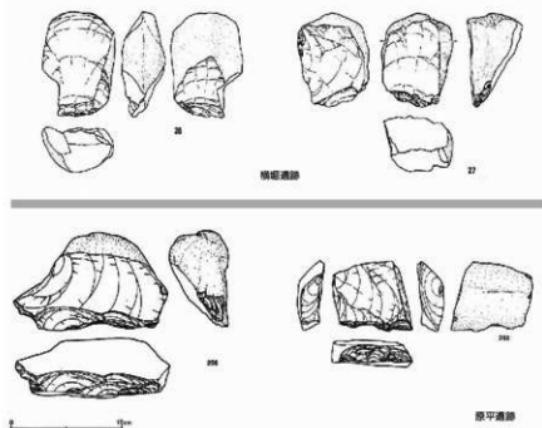
第48図16は鋭角な素材縁部に微弱な調整を加えた硃器である。平面形は楕円形を呈し、縦断面は台形である。刃部とした部位に素材の形状を大きく残しており、素材段階で鋭角であるため、深い調整が加えられなかったと考えられる。刃部と対向する辺には裏面から剥離が加えられており、硃器のサイズを変更しようとする意図が認められる。左辺にも細かい剥離痕が観察される。

第48図17は素材の薄い辺に調整を加えることによって刃部を作出した硃器である。平面形は多角形状を呈し、縦断面は凸レンズ状である。表面には節理に起因する複数の剥離痕があり、裏面には硃面が大きく広がる。刃部と対向する左辺には素材の厚さを減じるための剥離が加えられており、右辺には折れ面があるが、これも意図的な切断の可能性を有する。刃部としては2単位が想定される。下辺の中央には階段状剥離が発達した鋸歯状の刃部が設けられており、裏面の左辺には調整により凸部を形成されている。

第49図18は裏面からの調整により刃部を作出した硃器である。平面形は多角形を呈し、縦断面は台形である。刃部を設定した部位は素材の形状も斜めであり、剥離により形成された刃部は鋭角なものとなっている。素材の辺に對して、1枚の剥離しか加えられていないが、刃部の縁辺には小剥離痕が連続している。

天正寺遺跡における硃器を大別すると、素材の形状を生かして刃部を設定するものと、調整により素材形状に大きな変更を加えるものに分けられる。第47図14は素材の縁部形状を生かして刃部を設定しているのに対し、第48図15は表裏に調整を加えることにより、素材の形状を大きく変更している。その結果、第47図14は鋭角、第48図15は厚く頑丈な刃部を獲得している。刃部形態の差異は石器の機能差に起因していると考えられ、おそらく第47図14はホウイットリング、第48図15はウェッジングを行った可能性が強い。

出土した硃器の年代的な位置づけについてであるが、硃器は幅広い時代に製作・使用されており、形態的にも多様であるため、断定するのは困難である。ただし、硃器が石器組成の中で一定の量を組成し、特徴的な形態を有する時期はある程度限定される。山梨県内の資料から検討すると、縄文時代早期と弥生時代前期に比較可能な資料群が求められる（硃器の出土位置から、旧石器である可能性は否定される）。弥生時代前期としては、南アルプス市在家塚に所在する横堀遺跡出土資料が挙げられる。横堀遺跡からは多様な形態を有する硃器が出土しているが、いわゆるチョッパー・チョッピングツール状に素材の一辺に対して調整による刃部を作出している硃器は第



第4図 横堀遺跡・原平遺跡出土器

4図26・27である。これらの資料は大きな剥離によって鋭角な辺を作出した後、細かい調整を加えることによって刃部を整えており、縦断面は三角形～多角形を呈する。これに対し、天正寺遺跡出土の櫛器は板状の素材の長辺に連続的な調整を加えている点で異なる。この特徴を持つ資料として、大月市大月町真木に所在する原平遺跡（第4図256・292）などに共通する点が多い。256の縦断面形は三角形であるが、一つの辺に連続した調整を加えて刃部としており、292は板状の素材に連続した調整を加えている点で、天正寺遺

跡資料と類似している。したがって、天正寺遺跡出土の櫛器を縄文時代早期の資料として位置づけたい。

## 2. 小形石器の技術的分析

天正寺遺跡において、小形剥片石器の集中地点が2地点（W-20・21グリッド内・1号住居跡状遺構内）確認されている。これらの集中地点から出土した資料に係わり、技術的分析を加えたい。W-20・21グリッド内の資料については周囲から縄文時代晩期の土器片が出土していることから、該期の可能性を有しており、1号住居跡状遺構内の資料については弥生土器の出土レベルと同一であるため、弥生時代の資料であると位置づけられる。なお、分析を通じて場の機能を考察することが、本項の目的である。

W-20-21グリッド内の資料は剥片2点・碎片1点である。小形の剥片が見られることから、剥片剥離作業の場として想定可能であるが、肉眼で見る限り、産地は共通していない。

1号住居跡状遺構出土の黒曜石製石器・剥片類の器種組成は、石錐1点・楔形石器1点・石核5点・二次加工剥片1点・微細剥離を有する剥片2点・両極剥片1点・剥片4点・碎片2点である。これ以外にも、ホルンフェルス製の剥片1点、安山岩製の磨石1点が出土している。第45図1は脚部が尖った凹基盤であるが、先端部と右脚部が欠損している。第45図2は腹面に押圧剥離による調整が加えられ、下辺からも調整が認められる。その形状と剥離技術から石錐の未製品である可能性を有している。第45図3は腹面の線辺に微細な剥離痕が認められる剥片である。ただし、素材剥片を剥離した後に打撃を加えており、剥片素材石核としても捉えられる。（右側縁の上端から彫器状の剥離が加えられている）第45図4には腹面の右辺に微細剥離が認められている。背面構成より剥片剥離段階において、180°の打面転移を行ったことが分かる。

石核は5点確認されている。これらを概観すると、1) 作業面を固定して剥片剥離を行うものと、2) 作業面を固定せずに、打面転移を繰り返して剥片剥離を行うものに分けられる。また、直接打撃と両極打撃の痕跡を併せ持っている石核も確認されている。第45図6は下端が折れたため失われているが、表面右側と右側縁の剥離痕を見る限り両極打撃によって生じた可能性が高い。第46図8も下端の線辺が潰れており、両極打撃が推定されるが、腹面には打点が明瞭な直接打撃による剥離痕も存在している。第45図7と第46図9は全体的な形状が共通するものの、第45図7は打面転移を繰り返しているのに対し、第46図9は作業面を固定している。

第46図10・11は接合資料である。石核は表裏面の上下両端から剥離が加えられており、作業面を固定しようとする意識が認められる。(右側縁の下端からも剥離が認められる)剥片が剥離された部位を見る限り、打面の稜部に剥離を加える意識が看取される。打面は平坦な單剥離打面である。第47図12・13は両極打撃によって生じた、接合資料である。第47図12の下端縁辺には潰れが広がっている。

天正寺遺跡からは接合資料が2点確認されたが、いずれも1号住居状遺構出土の黒曜石製の資料である。縄文時代の集落遺跡などで住居跡単位の出土資料を対象に、接合資料を行う場合、多くの場合は資料数に比して接合個体は極端に少ないか、全く接合しない。このことは、剥片剥離作業後に不要物を廃棄するためと考えられる。換言すると、定住化が進行するにしたがって石器製作に伴う廃棄行為が一般的となる縄文時代以降においては、接合個体が確認されるという事象は、その場所において剥片剥離作業を行った可能性が高いことを示唆している。また、石器に対して石核が多く確認されていることから製作した石器の持ち出しを行っている可能性がある。

### 3. 弥生土器

弥生土器は3区の1号住居状遺構から検出された。出土している資料群には縄文時代晩期の資料が混入する(第40図6)ものの、弥生時代の土器群が主体を占めており、平面・垂直分布からもいくつかの傾向に分けられる。

弥生土器の分類を行ったところ、施文や形態以外にも胎土が大幅に異なっていることが観察された。当初、胎土の差異については、胎土ごとに異なる土器の個体を示していると考えたが、類似する胎土の中でも細別可能であることが分かった。このため、胎土・施文に類似性が看取されるものを3つに分類した。また、胎土の種類によるグルーピングが施文技法とも相關しているため、分類ごとに以下に記述する。(なお、これらの分類以外の特徴を持つ土器も確認されたが、一定量を組成しないため、項目として扱わないこととする)

第1類 焼成不良、胎土は黒色を呈し、金雲母を多く含む。口縁部に押捺を施し、押捺下から条痕文が施される。

口縁端部はやや先が尖っており、条痕文の形状は条溝断面が半円形を呈しているものが多く、横位や斜位から施された条痕文が接して共存しているものや羽状を呈するものなどが確認される。

第2類 焼成良好、胎土は褐色を呈し、長石を多く含む。口縁端部上に刻みが施されるもので、体部に条間の幅が不揃いな条痕文が施される。これは、「植物の枝茎を束ねた簡単な工具」によるささら状の条痕文と捉えられる。条痕文の方向としては、横位に加えられるものも確認されるが、单斜方向が主体的である。

第3類 焼成やや不良で、胎土は灰色を呈し、含有物は目立たない。口縁から頭部において波状文が施されるものである。体部に相当する資料が確認できないため、体部の施文については不明である。

遺構内から出土した土器の垂直分布を見ると、第1類と第2類がほぼ同一のレベルでまとまって出土しており、同じ時期の資料と評価される。これに対し、第3類は第1類・第2類に比して、より上位のレベルに位置している。このため、出土位置から第3類のみが新しい時期の資料であることを指摘できる。

第2類における口唇部の刻みは弥生時代前期から中期に求めることができ、体部に施されている条痕はささら状の工具を使用した浅いものである。ささら状工具による条痕は弥生時代前期から中期初頭まで認めることができるが、前期の条痕が深く施されるのに対し、中期初頭の条痕は浅い点に特徴がある。また、中期中葉になると、条痕に装飾性が認められるようになるが、第2類は斜め方向の条痕文しか確認されない。これらのことから、天正寺遺跡出土の弥生土器第2類は中期初頭に位置づけられる。第1類における条痕の断面形状は、第2類とは異なり半円形を呈するが、浅いという点で共通する。また、第1類は第2類と出土レベルがほぼ同一であることから、中期初頭に位置づけたい(ただし、「口縁部を押捺する」という属性は前期後半にも認められる属性であるため、資料の増加に応じた再検討が必要かもしれない)。第3類は、口縁から頭部において櫛描波状文が施されており、弥生時代後期前半の土器群に比定される。第42図63には櫛描縦状文が施文される。第3類には体部の資料が欠けているが、口縁部の形状から壺に比定される。底部に穿孔が行われている、壺形土器も出土している(第42図65)。

天正寺遺跡の北西側に位置する、生出山山頂遺跡からも遺構外において弥生時代中期の土器が出土しており、器種として壺・甕などが認められている。これに対し、天正寺遺跡出土の弥生土器は甕しか確認されない。ただし、

口縁部にヘラ状工具による刻みを施し、体部に単斜方向の条痕文をめぐらす（第2類）など、壺に加えている整形技法は共通している。

#### 4. 鉄砲玉

2号沢内から鉄砲玉が検出された。2号沢からは幅広い時代の遺物が出土しているため、厳密な時期決定は困難であるが、関連資料から類推することは可能である。天正寺遺跡の東側には弓繩館跡があり、中世において使用された可能性は十分考えられるが、鉄砲の使用に係わる記録は近世における資料の方が豊富に残されている。

江戸時代の村明細帳などの記録によると、弓繩村の北西側に位置する井倉村の「井倉村差出帳」[天保九(1838)年]には「獵師鉄炮空挺」「四季打鉄炮三挺」(第II章で述べたように、近世段階の調査地点周辺は弓繩村に属していた)、東側に位置する朝日馬場村の「朝日馬場村反別差出帳」[享保十五(1730)年]には「御押借鉄炮三挺」と記されている。また、「朝日馬場村反別差出帳」には、「是ハ山中之村方ニテ猪鹿大分出、作毛荒、百姓難儀ニ及申候ニ付奉願、咸シ鉄炮押借仕、昼夜共ニおい申候」との記述がある(都留市史 1989)。鉄砲玉が出土した地点の周囲は近世において畠だったことから、猪や鹿を威す目的で撃たれたと考えた方が妥当であろう。使用された年代についても江戸時代の方が資料的に充実しているため、蓋然性が高い。この鉄砲玉の重量は96.6gであり、鉄砲玉の成分については表面の色調から鉛製と推定される。

### 第2節 検出された遺構

#### 1. 繩文時代

繩文時代の遺物を包含する遺構は、6号土坑・279号土坑・294号土坑・400号土坑であり、遺構外からは散漫に遺物が出土する。各調査区の分布傾向から、繩文時代における土地利用のあり方について考察したい。

1区における繩文時代の遺構としては6号土坑が挙げられる。6号土坑は1号沢の北側、E-4グリッドに位置しており、長軸160cm・短軸153cm・深さ27cmであり、正円形を呈する。土坑中央から繩文時代後期の土器が確認された。また、所属時期については検討を有するものの、1号沢内より砾器2点・打製石斧1点・削器1点・二次加工剥片2点などが出土している。これらの資料は沢内の覆土から出土したものであるが、沢付近にある遺構ないしは調査区の西側(山頂側)に広がる遺構より流出して、堆積したものであるのかもしれない。2号土坑からは剥片を含む砾が集中して認められた。土器が出土していないため、時期決定が困難であるが繩文時代である可能性もある。遺構外の資料としては、五領ヶ台式期の土器片がI-3グリッドより出土している。

2区においては、繩文時代の遺構・遺物は確認されていない。しかし、2区北側から確認されている楕円形や不整形な土坑群は該期に比定される可能性を有している。

3区における繩文時代の遺構は244号土坑・279号土坑・400号土坑がある。244号土坑は2号沢の北側、T-26グリッドに位置しており、長軸162cm・短軸111cm・深さ25cmであり、楕円形を呈する。この土坑からは繩文時代早期の土器が出土した。279号土坑はV-28グリッドに位置しており、長軸100cm・短軸48cm・深さ9cmであり、長方形を呈する。400号土坑はR-26・27グリッドに位置しており、長軸252cm・短軸138cmであり、不整形を呈する。この土坑からは五領ヶ台式期の土器片が出土しているが、南側を1号住居状遺構により切られている。2号沢の中からは、打製石斧1点・剥片1点が出土しているが、時期決定に課題がある。遺構外の資料としては、2号沢の北側において繩文早期・中期の土器が出土している。244号土坑と同じく2号沢の付近に位置しているため、沢を利用した活動が推察されるが、沢の覆土内からは繩文土器は出土しておらず、弥生土器が最も古い資料である。ただし、周囲の地形から考えると繩文時代においても凹地であることは想定可能であり、地形を利用した生業活動が類推できる。また、W-20・21グリッドにおいては繩文時代晩期の土器片と共に、黒曜石の剥片・裂片などが出土している。

4区においては、J-9グリッドより繩文時代早期の土器片が出土したが、遺構は確認されていない。

遺構・遺物が検出されていることから、繩文時代においてなんらかの活動を行ったことは間違いないが、住居跡

などの構造物が確認されなかったため、調査範囲内が集落であるという積極的な根拠も見出せなかった。これは傾斜地であることから、居住域としては適さなかつたことに起因している。

天正寺遺跡の周辺には縄文時代の遺跡が複数確認されている。縄文時代早期では生出山頂遺跡・玉川金山遺跡、縄文時代中期では日影松原遺跡である。玉川金山遺跡では縄文時代後期の資料も確認されている。このため、天正寺遺跡の隣接地点において住居跡が存在するのか、居住地を異なる集団が向いて活動したと考えられる。ただし、出土した土器はいずれも破片資料であることから、石器を主に用いた生業であったことが推測される。

これらのことから、天正寺遺跡における縄文時代の遺跡形態は一時的な活動の場であったと位置づけられる。また、傾斜地に立地しながらも、地形を利用した狩猟を想定させるような遺構（陷穴）は確認されなかつた。

## 2. 弥生時代

3区の西側より弥生時代の遺物集中地点が検出された。遺物集中地点が確認されたR-27・28グリッドは沢に向かう傾斜が緩くなる地点であり、グリッド以西においては比較的平坦な地形が広がっている。遺構・遺物が検出されたことから、調査区内に弥生時代の活動域を含んでいることが明らかになった。このため、傾斜地に広がる年代決定が困難な土坑群も弥生時代である可能性を有す。調査の当初段階においては、遺物集中地点は2号沢のプランと重なっており、覆土も類似していたことから、遺構との認識がなく、調査を進行させた。しかし、遺物が集中して出土するのとともに、焼土の集中が3ヶ所確認され、柱穴状の掘り込みも確認された。ただし、立地に制約されたのか、壁面がしっかりと構築されておらず、特に東側はなだらかに立ち上がる形状を呈している。

山梨県においては弥生時代中期初頭の堅穴住居跡は確認されていない。このため、今回検出された焼土集中を伴う遺物集中地点を堅穴住居跡と認定しうるかどうかについては判断が分かれる。焼土集中の周間に遺物が分布し、土器・石器に接合個体を含むという点は、この場所において活動したことの明白な証拠である。ただし、前述のように、堅穴住居跡としての属性を満たす根拠がやや薄弱である点に注意すべきである。

今回の報告では「1号住居状遺構」として報告し、堅穴住居跡の認定については留保したい。発掘調査では、調査区の形状から、遺構の半分しか調査を行えなかつたためである。この遺構の評価および集落の評価などについては西側の平坦地が調査されることを待ちたい。なお、1号住居跡の各属性については下記の通りである。

### 1号住居状遺構（第22~24図）

**位置** Q・R・S-27、R-28グリッドに位置している（なお、遺構は西側に広がる形状を呈する）。

**重複** 縄文時代中期（五領ヶ台式）の遺構である400号土坑と時期不明の401号土坑が北側で重複する。また、南東側で2号沢と一部切り合っている。

**形状** 全体的な形状を捉えていないため、断定はできないが確認された範囲では不整形を呈する。

**規模** 長軸7.2m・短軸6.1m・深さ20~40cmを測る。

**柱穴** 3基検出されている。柱穴の径はどれも40cm程度であり、先端が細くなる形状を呈する。

**施設** 焼土集中が3ヶ所から確認されている。3号焼土集中は長軸20cm・短軸10cm・厚さ5cm、4号焼土集中は長軸100cm・短軸75cm・厚さ25cm、5号焼土集中は長軸60cm・短軸35cm・厚さ5cmを測る。

**遺物** 遺構内から出土した遺物は、縄文時代晩期の土器が1点（第40図6）、弥生土器第1類が46点、弥生土器第2類が53点、弥生土器第3類が4点である。弥生土器で分類に属さないものが26点ある。

石器としては、石錐1点・楔形石器1点・石核5点・二次加工剥片1点・微細剥離を有する剥片2点・両極剥片1点・洞片4点・碎片2点が出土している。

**時期** 遺構の底面から弥生土器第1類・第2類、覆土の上位から弥生土器第3類が出土している。第1類・第2類は県史編年の2期（弥生時代中期初頭）、第3類は5A-(1)期（弥生時代後期前半）に比定される。焼土集中の周囲には第1類・第2類しかないため、遺構が機能した年代は弥生時代中期初頭と考えられる。

## 遺物の分布

### 弥生土器の分布と接合関係（第23・24図）

弥生土器の分布は、R-27グリッドの東南隅（以下、北東土器集中地点と呼称）とR-28グリッド北側中央（以下、東南土器集中地点と呼称）に集中が分化するが、弥生土器の分類ごとにみると、さらに分布の偏りが顕著に窺える。第1類が北東土器集中地点を中心に分布するのに対し、第2類は北東土器集中地点から東南土器集中地点にかけて広がっている。第3類は東南土器集中地点のみ確認される。垂直分布としては、第1節述べた様に、第1類・第2類がほぼ同じレベルから出土したのに対し、第3類はより上のレベルから確認されている。

土器の接合関係では、分類単位での接合関係が19個体分確認された。分類ごとに接合固体の数を示すと、第1類は9例・第2類は9例・第3類は1例である。第1類は北東土器集中地点内の接合関係しか持たず、接合個体同士の距離もさほど離れていない。これに対し、第2類は北東土器集中地点の中で接合する例、東南土器集中地点の中で接合する例、北東土器集中地点と東南土器集中地点出土土器が接合する例の3パターンに分けられる。このため、接合個体同士の距離も第1類の接合関係に比して長い傾向がある。

### 石器の分布と接合関係（第24図）

石器も土器と同じくR-27グリッドの中央付近（以下、北側石器集中地点と呼称）とR-27グリッド南側からR-28グリッドの北側（以下、南側石器集中地点と呼称）に分布のまとまりが分化する。北側石器集中地点は等距離に分布し、石核が目立つ。これに対して、南側石器集中地点は4・5号焼土集中の周囲にやや散漫に分布している。北側石器集中地点は北東土器集中地点と対応するものの、やや西側に分布がずれ、南側石器集中地点は東南土器集中地点と対応するものの、やや北側に分布が偏る。石器の垂直分布をみると、土器よりレベルが下に位置するものが多い。

接合関係としては2個体分確認された。石核と剥片が接合したものと楔形石器と両極剥片が接合したものである。前者は北側石器集中地点、後者は南側石器集中地点に分布している。接合個体同士の距離であるが、70cmと90cmであり、近接しているといえる。

### 土器・石器と焼土との位置関係

遺物の出土位置から遺構の形成過程を分析したい。土器・石器と焼土の垂直位置での関係を見ると、おむね上から土器・石器・焼土の順で検出された。また、平面から土器と焼土の位置を分析すると、第1類が4号焼土集中の範囲を中心に分布しているのに対し、第2・3類は焼土集中とは関連を持たず広がる。また、石器と焼土との平面位置では、南側石器集中地点が4・5号焼土集中の周囲に分布し、その外側に北側石器集中地点が位置する。つまり、焼土集中と弥生土器第1類・石器は位置的な相関性が認められる。特に5号焼土集中の下位からは碎片が出土しており、焼土を中心にして剥片剥離作業を行った可能性がある。

まとめると、4・5号焼土集中の形成に伴い、弥生土器第1類・石器が使用・廃棄され、若干の時間差をもって弥生土器第2類が用いられた。この後、1号住居状遺構が埋没した段階で第3類が使われたという順序で遺構形成が進行したと考えられる。

### 3. 中世以降

天正寺遺跡の調査では、検出される遺構数に比して出土する遺物量が少なく、遺構の時期認定に関して困難を伴つたが、その中で有効な遺構の時期決定法を編み出すことができた。それは、遺構の全体的な配置から時期決定を行う方法である。この方法を可能にさせた要因として、遺構群の規格的な形状・配置が挙げられる。

まず、遺跡から検出される特徴的な遺構として、幅が狭く浅い溝状遺構が確認された。この溝状遺構の覆土内からは近世の遺物が検出されていることから（37号溝・47号溝・71号溝・94号溝）、幅が狭く浅い溝状遺構は同一時期との推定を行った。溝状遺構は同じ形状のものが同一方向に並行して走向しており、1区においてはこれらの溝状遺構に対して直交する向きに土坑が連続することが確認された。異なる時代・時期に構築された遺構が、このような配置を示すとは考えがたい。したがって、連続・直交する配置を示す、類似形態を有する遺構群の時期は同一

であると結論づけた。

遺構群の規格的な配置を一時代における土地利用の法則として捉えると、規格的なものと、ランダムな配置を示すものに分化されることが分かった。規格的な形態を有する遺構群を同時期と捉えた場合、ランダムな配置を示す遺構は、より古い遺構である可能性が考えられる。ただし、ランダムな配置を示す遺構についての時期を断定することは難しいため、これらの遺構については時期不明とした。このような方法で調査区ごとに遺構の時期区分を行ったところ、次のような結果が得られた。

1区においては幅が狭く浅い溝状遺構と溝状遺構に直交する向きに連続する土坑群が検出された。また、幅が狭く浅い溝状遺構は分布にいくつかのまとまりを有している。F-5・6、G-5グリッドに位置する溝状遺構としては2~12号溝・45号溝・46号溝がある。最長のもので5mほどの長さになるが、形状はばらつきがあり、均一ではない。G・H-7にある溝状遺構の一群は13~18号溝である。最長のもので3.5mであるが、2m以下の小形のものが多い。I・J-6・7にある溝状遺構は19~26号溝である。比較的長いものが多く、最長で5mほどの長さのものもあるが、形状に齊一性はない。J-7・8、K-8グリッドにある溝状遺構は27~32号溝である。長さは比較的揃っており、4~5mである。斜面の下に向かって、短くなる傾向を有する。G-5~7、H-5・6グリッドの間に土坑群が連続する。これらは溝状遺構と共に斜面に対して直交する方向に位置している。最も長く連続する配置を呈しているものはH-5~G-7グリッドまで連続する土坑であり、35~40号・41~43号・122~124号土坑という12基が同一軸に並んでいる。ただし、土坑の間隔はおむね50cm~1mであるものの、40号と41号土坑の間には比較的広い間隔が空いている。これらの土坑群の平面形は不整形なものが多く、形態的に類似する要素は見当たらない。H-5~G-7グリッドにある土坑群の北側には、同一方向に連続する土坑群が2単位確認される。G・H-5グリッドに分布する土坑群は6基(31号・117~121号土坑)、G-5グリッドにある土坑群は3基(107・114・115号土坑)である。I-5グリッド(126号・132~134号土坑)、I-5・6、J-5・6グリッド(128号・135~137号土坑)にもそれぞれ4基の土坑群が斜面と直交する向きに連続し、付近に長軸が同じ溝状遺構(47・50号溝)が存在する。また、47・50号溝の周囲には2基の土坑が並んで検出されているが、これらも同一時期である可能性を有している。また、幅が狭く浅い溝状遺構とは対照的な、幅が広く深い136号溝がE・F-8・9、G-9、H-9・10に広がっている。136号溝は地形が急傾斜を呈する地点に構築されており、幅が狭く浅い溝状遺構とは別の機能が想定される。1号沢の底面からも近世の陶器片が出土しており、江戸時代において流路として機能したことが分かる。1号沢の北側およびE・F-6・7・8、G-8・9グリッドに分布する遺構群は配置もランダムであり、より古い遺構の可能性がある。

2区北側において、地形が急傾斜となる地点から2条の溝状遺構が確認されている(64・65号溝)が、これは1区の136号溝に対応する遺構と考えられる。ただし、64・65号溝以南に広がる土坑群は配置がランダムである。2区南側はLグリッドの西側ラインにおいて地形の急激な変換地点が存在し、この地点を境に検出される遺構の形態が異なる。L・N-15~18グリッドからは若干幅広で深い形状を呈するものの、1区と対比可能な溝状遺構が確認されている(305号土坑の覆土中からは寛永通寶が確認されている)。2区南側においては地形の傾斜方向が西から東に変化するため、溝状遺構の走向する方向も南北方向に変化する。また、覆土内に焼土集中を含む306・359号土坑が確認されているが、形態に類似性はない。

3区においては、幅が狭く浅い溝状遺構は確認されていない。ただし、検出された状況から近世に比定される遺構は存在する。調査区を斜めに走る2号沢を掘り下げたところ、明茶褐色土層の上位に暗灰褐色を呈する土層が面的に堆積していることが分かった。これ以外の遺構として、1・2号焼土集中が暗灰褐色土層中から確認されている。また、275号土坑から礫と共に鉄釘が出土している。

4区においては幅が狭く浅い溝状遺構が地形の傾斜に対し、直交する方向で確認されている。これらの形態は1区および2区南側から検出されたものと全く同一である。4区では、1区と同じくこれらの溝状遺構がいくつかの単位にグルーピングされる。J-14グリッドに分布する溝はやや幅が広いが、覆土内から煙管が出土している



第5図 与縄村絵図における天正寺遺跡の位置図

幅が狭く浅い溝状造構を切っていることから、新しい地形変更であると言える。

ところで、幅が狭く浅い溝状造構の機能は何であろうか。発掘調査では確実な根拠が得られなかっただため、文献資料を調査してみた。第2節で紹介したように江戸時代における資料としては、天明四（1784）年の与縄村絵図がある。この絵図における調査地点の場所を考えると、天正寺との位置関係から第5図の位置が推定される。その範囲は絵図の凡例によると「大豆場」に該当する。「大豆場」とは江戸時代前期には焼畑として利用されていた山のことであり、江戸時代後期には恒常的に耕作される山畑や桑畠になったが、そうした大豆場が焼継ぎの山の中腹に設定されたことが分かる（都留市史 1989）。狭く浅い溝状造構の特徴として傾斜の向きに直交して走向し、溝状造構同士が並行するという傾向が指摘できるが、傾斜地に作られた畑の畝の方向に合致する。天正寺遺跡は土壌が堆積しない環境であるため、畝の凸部は壊され、凹部のみが残ったのであろう。したがって、1区・2区南側・4区から検出された、狭く浅い溝状造構は畝の凹部に比定される。

これらの遺構に包含される遺物や絵図などから、規格性を有する遺構群は江戸時代に機能していたことが分かるが、畑として使用され始めた年代が問題である。遺跡の東側には与縄館跡があるが、周囲にある日影・日向の集落は城下集落として成立したと指摘されている（山梨県史 2004）中世段階において与縄館跡を中心に集落が展開したとすると、中世から近世にかけて連続的に土地利用がなされたことが想定可能である。このことから、規格性を有する遺構群に係わる年代の上限を中世として捉えたい。

遺構の全体的な配置から勘案すると、いくつかの急斜面によって分けられたテラス状の緩斜面に畑が設けられたことが分かる。狭く浅い溝状造構は開けた緩斜面に確認されている。ただし、溝状造構と連続する土坑は重複する形状を呈しておらず、沢や連続する土坑によって土地が小区画単位で分割されている形態を呈する。これは、土地所有者の単位などを示している可能性を有する。E・F-8・9、G-9、H-9・10に広がっている、広く深い136号溝は急斜面に位置しており、より大きな土地区域の単位を示しているのかもしれない。3区からは狭く浅い溝状造構が検出されていないが、地形が1区・2区南側・4区と異なり播鉢状の凹地を呈していることから、畑としては選択されなかったのであろう。ただし、2号沢からは近世の陶磁器片がまとまって分布しており、底面から鉄砲玉が出土していることから、なんらかの土地利用が考えられる。

### 第3節 遺跡の立地と問題点

天正寺遺跡は山林の中に立地していることから、調査の当初段階においては集落遺跡の可能性は薄いとの見通しの上で実施した。しかし、弥生時代の遺構・遺物群が検出されたことや、中世以降において広域的に土地利用がな

(71号溝)。K-14グリッドからは6条の溝（74~79号溝）が検出されており、最長のもので2mを越すが、不採用である。J-13・K-12・13には19条の溝（80~82・85~87・89~101号溝）が確認されている。最長のもので3.5mであるが、やや幅が広いものも含んでいる。J-9・J-K-10グリッドには8条の溝（118~125号溝）がある。最長のもので5mを越しており、長軸が長いものが多い。K-9・10グリッドには8条の溝（108~115号溝）が分布している。最長のもので2mであるが、不採用である。なお、4区には複数の凹地状の地形が確認されているが、

されていたことが判明し、予想外の収穫が得られた。

天正寺遺跡の北西側には、縄文時代早期の集落跡及び弥生時代中期の散布地である、生出山山頂遺跡が周知されており、西南側の山裾部には縄文時代早期の集落跡である、玉川金山遺跡が確認されている。今回の調査により弥生時代中期の遺構が検出されたことは、山林を広域に使用した集落の展開を示唆している。特に検出される遺構・遺物の時期が共通すること（縄文時代早期・弥生時代中期）から、特定の時期において我々が遺構の存在を予想しない場所を用いていると言えよう。

ではなぜ、山頂や山の中腹に弥生時代の遺構が形成されたのであろうか。この点については、稲作導入の初期段階において生産性の低さから、多角的な生業活動が行われたとする説が有力である（中山 1985）。山地の中に遺構が残されているのも、山の資源を積極的に利用した結果とするこの考えは非常に理解しやすいが、一方で都留市特有の地形環境も考慮する必要性がある。弥生時代前半から中期初頭には地形の変化や土地条件の不安定な時期を迎えることが古環境史からの検討により分かっている（外山 1994）。このため、弥生時代中期の遺構・遺物が山頂や山林内に分布する要因としては、環境が不安定な時期を迎えたためとも解釈し得る。特に都留市内は集落の展開を可能にする平坦地が限られている上、河道が安定しない場合、水害を被る危険性を孕んでおり、居住地の選択について慎重にならざるを得ないことが予想される。また、縄文時代早期の遺構が山地上に立地する理由については、別の要因を検討しなければならない。

都留市内に残されている、江戸時代における絵図を見ると、山の中まで土地を利用した様相が分かる。最も多いのが、「大豆場」・「山畑」などの表記であり、限られた土地をできる限り活用しようとする指向性が認められる。

また、畑以外にも刈穀肥料にする柴を刈るために「柴山」などの表記が絵図中に記載されている。山の中腹に位置する、緩斜面上の畑は労働も困難であり、生産性もさほど高いとは言えない。にもかかわらず、積極的に山中に畑を設けたのは、平坦地が限られている都留市の地形が起因している。ただし、今回中世以降として捉えた遺構について、中世の土地利用という視点から、その連続と断絶を再度検討してみる必要性がある。この点については、今後の課題としたい。

## 引用参考文献

### 第Ⅱ章

- 上杉 陽 1987 「地史 第2章 都留市の基盤岩類・第3章 都留市の被覆層」『都留市史』
- 奥 隆行 1987 「考古 第1章 都留市における考古学調査のあゆみ・第2章 都留市の遺跡」『都留市史』
- 文化庁 1982 「全国遺跡地図 山梨県」
- 平凡社 1995 「日本歴史地名大系第19巻 山梨県の地名」
- 奈良泰史 1987 「考古 第3章 発掘された都留市の遺跡」『都留市史』
- 山梨県 2004 「山梨県史」資料編7 中世4 考古資料
- 雄山閣 1968 「大日本地誌大系 甲斐国志」第四卷
- ### 第V章
- 都留市史 1989 「都留市史 資料編 都留郡 村絵図 村明細帳集」『都留市史』
- 外山秀一 1994 「プラントオバールからみた稲作農耕の開始と土地条件の変化」『第四紀研究』Vol.33 No.5
- 中山誠二 1985 「甲斐における弥生文化の成立」『研究紀要2』 山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
- 中山誠二 1999 「3 弥生時代の編年」『山梨県史』 資料編2 原始・古代2 考古（遺構・遺物）
- 正木季洋 2006 「(1)塙越遺跡出土の弥生時代中期初頭の土器について」『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第237集 塙越遺跡・炭焼遺跡・井坪遺跡』

第2表 土坑一览表

通 案 名	開 取番 号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
1号土坑	第35回	1区	A-2	不規則形	31	18	14	-	
2号土坑	第6・12・35回	1区	C-4	不規則形	88	53	13	-	測定 (第50回32) 出土
3号土坑	第6・12・35回	1区	C-4	椭円形	59	49	2	-	
4号土坑	第35回	1区	B-3	椭円形	80	68	13	-	
5号土坑	第6・35回	1区	D-3	不規則形	(161)	90	28	-	
6号土坑	第6・12・35回	1区	E-4	不規則形	169	153	27	縄文時代	縄文後期土器類 (第36回7) 出土
7号土坑	第35回	1区	D-6	不規則形	119	75	14	-	
8号土坑	第6・12・35回	1区	D-5	不規則形	46	35	10	-	
9号土坑	第6・12・35回	1区	D-4	不規則形	55	36	47	-	
10号土坑	第6・12・35回	1区	D-5	椭円形	79	39	10	-	
11号土坑	第6・12・35回	1区	D-3・4	不規則形	39	33	14	-	
12号土坑	第6・35回	1区	D-3・E-3・4	不規則形	258	(13)	28	-	
13号土坑	第6・35回	1区	D-4	不規則形	33	30	6	-	
14号土坑	第6・35回	1区	D・E-4	不規則形	28	17	6	-	
15号土坑	第6・35回	1区	E-4	不規則形	30	25	10	-	
16号土坑	第6・35回	1区	E-4	長方形	25	23	7	-	
17号土坑	第6・35回	1区	E-3	不規則形	35	19	6	-	
18号土坑	第6・35回	1区	E-3	不規則形	40	23	9	-	
19号土坑	第6・35回	1区	D-5	不規則形	28	21	11	-	
20号土坑	第6・35回	1区	D-4・5	不規則形	20	16	15	-	
21号土坑	第6・12・35回	1区	E-3	不規則形	258	11	6	-	
22号土坑	第6・35回	1区	D-4	不規則形	41	30	2	-	
23号土坑	第8・35回	1区	H-1	不規則形	44	27	7	-	
24号土坑	第8・35回	1区	H-1	不規則形	27	18	5	-	
25号土坑	第7・35回	1区	F-6	不規則形	50	40	18	-	
26号土坑	第35回	1区	G-5	不規則形	80	62	11	-	
27号土坑	第7・35回	1区	F-6	不規則形	82	45	14	-	
28号土坑	第7・35回	1区	F-6	不規則形	136	26	6	-	
29号土坑	第7・35回	1区	F-6	不規則形	71	49	11	-	
30号土坑	第10・35回	1区	J-8	不規則形	37	(30)	7	-	
31号土坑	第7・35回	1区	G-5・6	不規則形	52	36	17	中世初期	
32号土坑	第7・35回	1区	G-6	不規則形	56	30	5	-	
33号土坑	第7・35回	1区	G-6	不規則形	70	71	10	-	
34号土坑	第7・35回	1区	G-6	不規則形	43	35	2	-	
35号土坑	第7・9・13・35回	1区	G-7	不規則形	50	36	11	中世初期	
36号土坑	第7・13・35回	1区	G-7	不規則形	51	34	10	中世初期	
37号土坑	第7・13・35回	1区	G-7	不規則形	46	33	12	中世初期	
38号土坑	第7・13・35回	1区	G-7	不規則形	43	32	9	中世初期	
39号土坑	第7・13・35回	1区	G-7	不規則形	63	49	19	中世初期	
40号土坑	第7・13・35回	1区	G-6	不規則形	59	39	10	中世初期	
41号土坑	第7・13・35回	1区	H-6	不規則形	49	38	14	中世初期	
42号土坑	第7・13・35回	1区	H-6	不規則形	45	33	17	中世初期	
43号土坑	第7・13・35回	1区	H-6	不規則形	45	35	14	中世初期	
44号土坑	第9・35回	1区	G・H-8	不規則形	57	42	3	-	
45号土坑	第35回	1区	H-7	椭円形	47	29	7	-	
46号土坑	第10・35回	1区	H-6	不規則形	47	32	9	-	
47号土坑	第10・35回	1区	H-6	不規則形	48	42	6	-	
48号土坑	第10・35回	1区	H-6	不規則形	52	35	5	-	
49号土坑	第10・35回	1区	J-8	不規則形	88	31	7	-	
50号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	156	32	9	-	
51号土坑	第10・14・35回	1区	H-6	不規則形	86	27	8	-	
52号土坑	第10・35回	1区	H-6	不規則形	41	25	6	-	
53号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	36	21	7	-	
54号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	59	15	5	-	
55号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	35	20	3	-	
56号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	40	16	5	-	
57号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	30	13	6	-	
58号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	43	11	3	-	
59号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	50	20	10	-	
60号土坑	第10・35回	1区	H-7	不規則形	248	130	22	-	近代陶器基片 (第36回21) 出土
61号土坑	第10・35回	1区	I-7	不規則形	32	20	3	-	
62号土坑	第10・35回	1区	I-7	不規則形	54	30	4	-	
63号土坑	第10・35回	1区	I-6・7	不規則形	67	50	2	-	
64号土坑	第10・35回	1区	I-6	不規則形	57	44	13	-	
65号土坑	第10・35回	1区	J-7	不規則形	27	(16)	9	-	
66号土坑	第10・35回	1区	J-7	不規則形	66	40	2	-	
67号土坑	第9・10・35回	1区	I-9	不規則形	77	56	17	-	
68号土坑	第9・10・35回	1区	J-8・9	不規則形	72	27	4	-	
69号土坑	第10・35回	1区	J-8	不規則形	91	56	8	-	
70号土坑	第10・35回	1区	I-J-8	不規則形	47	24	19	-	
71号土坑	第9・10・35回	1区	I-8・9	不規則形	106	70	16	-	

道 横 名	横 脊 号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
72号土坑	第9・10・35号	IIK	H・I・8	不整形	129	81	7	-	
73号土坑	第10・35号	IIK	I・8	不整形	50	34	10	-	
74号土坑	第10・35号	IIK	I・8	不整形	75	25	12	-	
75号土坑	第10・35号	IIK	I・8	不整形	129	30	15	-	
76号土坑	第10・35号	IIK	I・8	不整形	36	29	3	-	
77号土坑	第10・35号	IIK	I・7	不整形	52	30	7	-	
78号土坑	第10・35号	IIK	H・I・7	不整形	38	26	3	-	
79号土坑	第35号	IIK	H・8	不整形	38	17	10	-	
80号土坑	第35号	IIK	H・8	不整形	21	13	1	-	
81号土坑	第35号	IIK	H・7	不整形	30	19	3	-	
82号土坑	第9・35号	IIK	H・10・10	椭円形	55	34	14	-	
83号土坑	第9・35号	IIK	I・9	不整形	52	37	4	-	
84号土坑	第9・35号	IIK	G・8	不整形	35	23	5	-	
85号土坑	第9・35号	IIK	G・8	不整形	30	27	12	-	
86号土坑	第9・13・35号	IIK	G・8	不整形	242	78	17	-	
87号土坑	第9・35号	IIK	F・8	不整形	50	41	-	-	
88号土坑	第7・9・35号	IIK	F・G・8	不整形	54	27	11	-	
89号土坑	第7・9・35号	IIK	F・8	不整形	89	50	9	-	
90号土坑	第7・9・35号	IIK	F・8	不整形	50	40	9	-	
91号土坑	第7・9・35号	IIK	F・7・8	椭円形	49	26	5	-	
92号土坑	第7・9・35号	IIK	V・7	不整形	26	18	5	-	
93号土坑	第7・35号	IIK	V・7	不整形	58	49	7	-	
94号土坑	第7・13・35号	IIK	V・7	不整形	71	48	13	-	
95号土坑	第7・35号	IIK	V・7	不整形	48	33	5	-	
96号土坑	第7・35号	IIK	V・7	不整形	80	67	44	-	
97号土坑	第7・35号	IIK	E・6・7	不整形	58	23	7	-	
98号土坑	第7・35号	IIK	E・6	不整形	49	35	18	-	
99号土坑	第7・35号	IIK	E・6	不整形	119	46	6	-	
100号土坑	第35号	IIK	E・7・8	不整形	208	88	18	-	
101号土坑	第7・35号	IIK	G・5	不整形	69	34	6	-	
102号土坑	第9・13・35号	IIK	G・H・9	不整形	123	10	45	-	
103号土坑	第9・35号	IIK	G・9・10	長方形	55	38	15	-	
104号土坑	第9・35号	IIK	F・G・9	不整形	51	37	14	-	
105号土坑	第9・35号	IIK	F・9	不整形	71	42	12	-	
106号土坑	第9・35号	IIK	V・9	不整形	72	64	8	-	
107号土坑	第7・35号	IIK	F・6	不整形	62	34	8	中世以降	
108号土坑	第35号	IIK	J・3	不整形	43	39	17	-	
109号土坑	第35号	IIK	I・J・3	不整形	44	39	11	-	
110号土坑	第35号	IIK	J・3	正方形	44	39	16	-	
111号土坑	第35号	IIK	I・3	不整形	41	34	8	-	
112号土坑	第8・35号	IIK	I・2	不整形	47	35	15	-	
113号土坑	第10・14・35号	IIK	H・L・6	不整形	300	235	69	-	
114号土坑	第7・35号	IIK	G・5	不整形	40	34	4	中世以降	
115号土坑	第7・14・35号	IIK	G・H・5	不整形	54	40	11	中世以降	
116号土坑	第7・35号	IIK	H・4	不整形	54	45	4	-	
117号土坑	第7・35号	IIK	G・H・5	不整形	59	31	17	中世以降	
118号土坑	第7・35号	IIK	H・5	不整形	43	35	6	中世以降	
119号土坑	第7・35号	IIK	H・5	不整形	37	30	6	中世以降	
120号土坑	第7・35号	IIK	H・5	不整形	32	28	1	中世以降	
121号土坑	第7・35号	IIK	H・5	不整形	26	20	3	中世以降	
122号土坑	第7・35号	IIK	H・5	長方形	44	30	11	中世以降	
123号土坑	第7・35号	IIK	H・5	不整形	36	26	3	中世以降	
124号土坑	第7・35号	IIK	H・5	不整形	37	37	9	中世以降	
125号土坑	第11・35号	IIK	H・5	不整形	46	30	14	-	
126号土坑	第11・35号	IIK	I・5・6	長方形	50	37	8	中世以降	
127号土坑	第11・35号	IIK	I・6	不整形	53	44	4	-	
128号土坑	第11・35号	IIK	I・6	不整形	49	36	2	中世以降	
129号土坑	第11・35号	IIK	I・5	円形	24	23	4	-	
130号土坑	第11・35号	IIK	I・5	不整形	50	46	21	-	
131号土坑	第11・35号	IIK	I・5	不整形	50	46	12	-	
132号土坑	第11・35号	IIK	I・5	正方形	41	39	8	中世以降	
133号土坑	第11・35号	IIK	I・5	長方形	55	38	8	中世以降	
134号土坑	第11・35号	IIK	I・5	不整形	86	54	14	中世以降	
135号土坑	第11・35号	IIK	I・5・6	不整形	48	38	8	中世以降	
136号土坑	第11・35号	IIK	J・5	不整形	48	23	12	中世以降	
137号土坑	第11・35号	IIK	J・5	不整形	35	30	-	中世以降	
138号土坑	第11・35号	IIK	J・6	正方形	38	34	3	-	
139号土坑	第11・35号	IIK	J・5・6	椭円形	85	42	12	-	
140号土坑	第11・35号	IIK	J・6	不整形	37	32	9	-	
141号土坑	第11・35号	IIK	J・6	不整形	57	40	6	-	
142号土坑	第11・35号	IIK	J・6	不整形	68	45	18	-	
143号土坑	第11・35号	IIK	J・K・7	不整形	31	21	6	-	
144号土坑	第11・35号	IIK	K・6	椭円形	81	58	9	-	

地名	図版番号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
145号土坑	第11・3506	HK	K-6	不整形	49	34	7	-	
146号土坑	第11・3506	HK	K-6・7	不整形	74	41	15	-	
147号土坑	第11・3506	HK	K-6	椭円形	52	42	6	-	
148号土坑	第11・3506	HK	K-6・7	不整形	69	60	13	-	
149号土坑	第11・3506	HK	K-7	不整形	48	35	11	-	
150号土坑	第11・3506	HK	K-7	不整形	39	25	5	-	
151号土坑	第26・3708	HK	H-20	不整形	81	33	30	-	
152号土坑	第37回	SK	S-20	椭円形	27	18	20	-	
153号土坑	第26・3708	SK	S-20・T-19・20	不整形	172	144	50	-	
154号土坑	第37回	SK	S-21	不整形	63	25	18	-	
155号土坑	第37回	SK	T-20	不整形	62	16	10	-	
156号土坑	第37回	SK	T-20	椭円形	26	18	3	-	
157号土坑	第37回	SK	T-20	不整形	72	14	2	-	
158号土坑	第37回	SK	T-20・U-20	不整形	88	24	5	-	
159号土坑	第26・3708	SK	T-16	椭円形	60	41	29	-	
160号土坑	第37回	SK	S-22	不整形	74	49	7	-	
161号土坑	第37回	SK	S-22	不整形	41	16	12	-	
162号土坑	第26・3708	SK	U-19	不整形	149	130	20	-	
163号土坑	第19・26・3708	SK	V-19	不整形	262	200	70	-	
164号土坑	第19・3708	SK	V-19	不整形	(104)	59	29	-	
165号土坑	第19・3708	SK	V-19	不整形	57	40	10	-	
166号土坑	第19・3708	SK	W-19	不整形	47	21	22	-	
167号土坑	第19・3708	SK	W-19	不整形	34	18	3	-	
168号土坑	第19・3708	SK	W-19	不整形	210	145	7	-	
169号土坑	第19・3708	SK	W-19	不整形	(170)	94	40	-	
170号土坑	第19・3708	SK	W-19	不整形	25	23	11	-	
171号土坑	第19・3708	SK	W-18・19	不整形	(224)	(103)	11	-	時期不明土器(第42回6) 黒土 土中に焼土粒子を含む
172号土坑	第27・3708	SK	R-21	不整形	44	27	7	-	
173号土坑	第37回	SK	S-21	不整形	41	44	17	-	
174号土坑	第20・3708	SK	T-21・22	不整形	93	55	11	-	
175号土坑	第20・27・3708	SK	T-22	不整形	70	31	26	-	
176号土坑	第20・27・3708	SK	T-22	不整形	85	33	13	-	
177号土坑	第20・27・3708	SK	T-21・22	不整形	(295)	206	39	-	
178号土坑	第27・3708	SK	T-21	不整形	193	145	30	-	
179号土坑	第19・26・27・3708	SK	U-21・22・V-21	不整形	(212)	239	52	-	
180号土坑	第19・3708	SK	U-21	不整形	400	164	26	-	
181号土坑	第19・3708	SK	U-20・21	不整形	134	89	12	-	
182号土坑	第37回	SK	U-20	長方形	95	62	10	-	
183号土坑	第37回	SK	U-20	不整形	66	35	2	-	
184号土坑	第19・3708	SK	V-21	円形	21	18	24	-	
185号土坑	第19・3708	SK	U-21	椭円形	21	16	20	-	
186号土坑	第19・3708	SK	W-21	不整形	39	33	27	-	
187号土坑	第19・3708	SK	V-21	長方形	24	16	21	-	
188号土坑	第19・3708	SK	V-21	不整形	25	17	22	-	
189号土坑	第19・3708	SK	V-20	不整形	18	12	16	-	
190号土坑	第19・3708	SK	W-20	不整形	17	12	16	-	
191号土坑	第19・3708	SK	V-20	椭円形	21	17	20	-	
192号土坑	第19・3708	SK	U-20	不整形	14	9	15	-	
193号土坑	第19・3708	SK	V-20	不整形	20	19	11	-	
194号土坑	第19・3708	SK	U-20	不整形	23	12	16	-	
195号土坑	第19・3708	SK	V-19	不整形	21	14	22	-	
196号土坑	第19・3708	SK	V-19	椭円形	23	18	13	-	
197号土坑	第19・26・3708	SK	U-22	不整形	118	53	11	-	
198号土坑	第19・26・3708	SK	U-22	不整形	115	86	10	-	
199号土坑	第19・26・3708	SK	V・W-22	不整形	437	147	15	-	
200号土坑	第19・3708	SK	V-23	不整形	125	72	18	-	
201号土坑	第26・3708	SK	V-22・23	不整形	96	55	41	-	
202号土坑	第26・3708	SK	V-22・23	不整形	91	45	10	-	
203号土坑	第26・3708	SK	V-23	不整形	253	116	36	-	
204号土坑	第28・3708	SK	V・W-23	不整形	266	145	40	-	
205号土坑	第37回	SK	V-23	円形	28	18	15	-	
206号土坑	第37回	SK	V-23	椭円形	26	19	13	-	
207号土坑	第20・3708	SK	V-23	不整形	96	70	36	-	
208号土坑	第37回	SK	V-24	不整形	122	81	12	-	
209号土坑	第37回	SK	V-24	不整形	38	46	5	-	洞内(第51回45) 黒土
210号土坑	第20・3708	SK	U-24	長方形	176	87	37	-	
211号土坑	第37回	SK	R-24	不整形	77	48	15	-	
212号土坑	第37回	SK	R-24	不整形	48	32	2	-	
213号土坑	第37回	SK	S-23	不整形	22	17	8	-	
214号土坑	第37回	SK	R-23	不整形	35	22	7	-	
215号土坑	第37回	SK	S-24	椭円形	55	38	23	-	
216号土坑	第37回	SK	S-24	椭円形	64	42	10	-	
217号土坑	第37回	SK	S-24	不整形	86	64	15	-	

遺構名	図版番号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
218号土坑	図378	3区	S-24	不整形	72	40	5	-	
219号土坑	図378	3区	S-24	不整形	95	85	7	-	
220号土坑	図378	3区	S-23・24	不整形	295	113	16	-	
221号土坑	図378	3区	S-23	不整形	33	37	16	-	
222号土坑	図378	3区	S-23	不整形	103	72	17	-	
223号土坑	図26・378	3区	S-22・23	不整形	99	78	58	-	
224号土坑	図26・378	3区	S-T-23	不整形	183	117	36	-	
225号土坑	図378	3区	S-T-23	不整形	142	56	38	-	
226号土坑	図378	3区	S-23	不整形	47	36	27	-	
227号土坑	図20・28・378	3区	T-22・23	不整形	46	56	11	-	
228号土坑	図378	3区	S-22	不整形	99	69	11	-	
229号土坑	図378	3区	S-22	不整形	120	71	9	-	
230号土坑	図20・378	3区	T-23	不整形	60	55	6	-	
231号土坑	図20・378	3区	T-23	長方形	40	29	8	-	
232号土坑	図20・378	3区	T-22・23	不整形	87	62	13	-	
233号土坑	図20・378	3区	T-23	不整形	192	131	10	-	
234号土坑	図20・378	3区	T-U-22・23	不整形	217	134	4	-	
235号土坑	図20・378	3区	S-24・T-23・24	不整形	150	85	47	-	
236号土坑	図20・378	3区	T-24	不整形	104	77	31	-	
237号土坑	図20・378	3区	T-24	不整形	116	83	2	-	
238号土坑	図26・378	3区	R-S-25	不整形	235	156	39	-	
239号土坑	図378	3区	S-25	不整形	35	27	35	-	
240号土坑	図378	3区	S-26	不整形	45	30	21	-	
241号土坑	図378	3区	S-26	不整形	59	26	10	-	
242号土坑	図378	3区	S-26	不整形	67	19	21	-	
243号土坑	図378	3区	S-25・26	不整形	123	53	14	-	
244号土坑	図20・378	3区	T-26	不整形	162	111	25	説文時代 鐵文早削土器片(第40図1)出土	
245号土坑	図378	3区	T-26	不整形	38	25	23	-	
246号土坑	図378	3区	T-26	不整形	68	35	36	-	
247号土坑	図378	3区	T-25・26	不整形	(132)	67	19	-	
248号土坑	図378	3区	T-25	不整形	67	58	9	-	
249号土坑	図20・378	3区	T-25	不整形	169	74	28	-	
250号土坑	図378	3区	Q-29	不整形	107	10	13	-	
251号土坑	図20・378	3区	T-25	不整形	68	34	6	-	
252号土坑	図378	3区	T-U-25	不整形	150	88	62	-	
253号土坑	図20・378	3区	T-U-25	不整形	191	151	25	-	時期不明土器出土
254号土坑	図378	3区	U-25	不整形	59	50	40	-	
255号土坑	図378	3区	U-25	不整形	41	33	35	-	
256号土坑	図20・378	3区	T-U-25	不整形	224	134	19	-	
257号土坑	図378	3区	V-30	不整形	36	18	11	-	
258号土坑	図378	3区	V-30	不整形	24	19	11	-	
259号土坑	図378	3区	V-30	不整形	34	28	7	-	
260号土坑	図378	3区	V-30	不整形	37	27	4	-	
261号土坑	図378	3区	V-29・30	不整形	41	32	13	-	
262号土坑	図378	3区	V-29	不整形	39	32	6	-	
263号土坑	図21・378	3区	V-29	不整形	46	30	10	-	
264号土坑	図21・29・378	3区	V-28・29	不整形	173	100	29	-	
265号土坑	図21・29・378	3区	V-28	不整形	62	42	4	-	
266号土坑	図21・29・378	3区	V-28・29	不整形	173	100	29	-	
267号土坑	図21・378	3区	U-29	不整形	75	63	5	-	
268号土坑	図21・378	3区	U-29	不整形	61	52	8	-	
269号土坑	図21・378	3区	U-29	不整形	91	64	11	-	
270号土坑	図21・29・378	3区	T-29	不整形	204	145	33	-	
271号土坑	図21・378	3区	T-28・U-29	不整形	289	87	6	-	
272号土坑	図21・378	3区	U-28	不整形	49	47	16	-	
273号土坑	図21・378	3区	U-28	不整形	72	70	17	-	
274号土坑	図21・378	3区	T-U-28	不整形	120	36	14	-	
275号土坑	図29・378	3区	T-28	不整形	63	41	15	-	鉄製品(第44図3)出土
276号土坑	図21・378	3区	V-28	不整形	97	80	3	-	
277号土坑	図21・378	3区	U-28	不整形	119	95	11	-	
278号土坑	図21・378	3区	U-27・28	稍円形	62	34	10	-	
279号土坑	図21・378	3区	V-W-28	具形	100	48	9	説文時代 鐵文土器片(第40図9)出土	
280号土坑	図21・378	3区	W-28	不整形	104	63	4	-	
281号土坑	図21・378	3区	W-28	不整形	41	19	10	-	
282号土坑	図21・378	3区	W-28	不整形	39	23	7	-	
283号土坑	図21・378	3区	T-27	不整形	216	53	13	-	
284号土坑	図378	3区	U-27	不整形	34	22	27	-	
285号土坑	図378	3区	U-26・27	不整形	146	42	7	-	
286号土坑	図378	3区	U-26・27	不整形	81	(25)	26	-	
287号土坑	図21・378	3区	U-V-27	不整形	101	71	13	-	
288号土坑	図21・378	3区	U-27	不整形	68	38	13	-	
289号土坑	図378	3区	Q-20	不整形	126	48	3	-	
290号土坑	図21・378	3区	V-26	不整形	19	11	8	-	

地名	図版番号	調査区	粒度	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
291号土坑	第21・3776	3区K	V-26	不整形	67	47	12	-	
292号土坑	第21・3776	3区K	U-26	不整形	162	70	9	-	
293号土坑	第21・3776	3区K	V-26	不整形	45	23	9	-	
294号土坑	第21・3776	3区K	U-V-26	不整形	48	23	11	縄文時代	
295号土坑	第21・3776	3区K	V-26	椭円形	39	27	3	-	
296号土坑	第21・3776	3区K	U-26	不整形	59	26	-	-	
297号土坑	第21・3776	3区K	U-V-26	長方形	82	33	8	-	
298号土坑	第21・3776	3区K	V-26	椭円形	58	43	7	-	
299号土坑	第21・3776	3区K	V-26	不整形	46	32	2	-	
300号土坑	第21・3776	3区K	V-25・26	不整形	289	230	10	-	
301号土坑	第17・18・3686	2区南	L-17・18	不整形	144	108	42	-	
302号土坑	第3686	2区南	J-K-14-17	扇形	86	55	16	-	
303号土坑	第17・3686	2区南	M-16	不整形	25	15	12	-	
304号土坑	第17・3686	2区南	M-17	不整形	78	39	16	-	
305号土坑	第17・3686	2区南	M-17	不整形	88	25	13	中世13世 寛永土器 (図44図13) 出土	
306号土坑	第17・18・3686	2区南	M-17	長方形	106	75	18	-	
307号土坑	第17・3686	2区南	M-17	不整形	48	28	14	-	
308号土坑	第17・3686	2区南	M-16	正方形	24	22	8	-	
309号土坑	第17・3686	2区南	M-16・17	不整形	189	66	15	-	
310号土坑	第17・3686	2区南	M-17	不整形	70	46	15	-	
311号土坑	第17・3686	2区南	M-17	不整形	46	29	22	-	
312号土坑	第17・3686	2区南	M-N-17	不整形	52	43	12	-	
313号土坑	第17・3686	2区南	N-17	不整形	58	24	10	-	
314号土坑	第17・3686	2区南	N-18	不整形	72	55	24	-	
315号土坑	第17・3686	2区南	N-17	不整形	60	40	7	-	
316号土坑	第17・3686	2区南	N-17	椭円形	61	30	4	-	
317号土坑	第17・3686	2区南	N-17	不整形	44	29	6	-	
318号土坑	第17・3686	2区南	N-16	円形	37	37	10	-	
319号土坑	第17・3686	2区南	N-16	長方形	167	74	16	-	
320号土坑	第17・3686	2区南	N-16	不整形	46	33	18	-	
321号土坑	第17・3686	2区南	N-16	長方形	70	44	14	-	
322号土坑	第17・3686	2区南	N-15・16	不整形	241	96	7	-	
323号土坑	第17・3686	2区南	M-15	不整形	66	43	4	-	
324号土坑	第17・3686	2区南	N-15	不整形	203	108	26	-	
325号土坑	第17・3686	2区南	N-15	長方形	98	47	24	-	
326号土坑	第17・3686	2区南	N-15	不整形	67	62	8	-	
327号土坑	第16・3686	2区北	H-14	不整形	89	68	1	-	
328号土坑	第16・3686	2区北	H-14	不整形	70	42	8	-	
329号土坑	第16・3686	2区北	G-13	円形	78	75	22	-	
330号土坑	第16・3686	2区北	H-14	不整形	42	38	9	-	
331号土坑	第16・3686	2区北	H-14	不整形	54	49	17	-	
332号土坑	第16・3686	2区北	H-14	不整形	128	75	25	-	
333号土坑	第16・3686	2区北	H-14	不整形	114	86	13	-	
334号土坑	第16・3686	2区北	I-13	椭円形	58	27	9	-	
335号土坑	第16・3686	2区北	I-13	不整形	59	48	7	-	
336号土坑	第16・3686	2区北	I-13	不整形	57	27	5	-	
337号土坑	第16・3686	2区北	I-13	不整形	293	86	15	-	
338号土坑	第15・16・3686	2区北	I-12	不整形	131	83	16	-	
339号土坑	第15・16・3686	2区北	I-12	不整形	47	49	11	-	
340号土坑	第15・16・3686	2区北	I-12	椭円形	42	33	6	-	
341号土坑	第15・16・3686	2区北	I-11・12	不整形	68	40	9	-	
342号土坑	第16・3686	2区北	H-13	長方形	52	40	6	-	
343号土坑	第16・3686	2区北	G-12	不整形	74	29	6	-	
344号土坑	第16・3686	2区北	G-H-12	不整形	82	41	23	-	
345号土坑	第16・3686	2区北	H-12	長方形	49	33	8	-	
346号土坑	第16・3686	2区北	H-12	長方形	49	35	11	-	
347号土坑	第15・16・3686	2区北	H-11・12	不整形	66	58	13	-	
348号土坑	第15・16・3686	2区北	H-11	不整形	85	66	13	-	
349号土坑	第15・16・3686	2区北	H-11	不整形	122	86	12	-	
350号土坑	第15・16・3686	2区北	H-11	不整形	129	79	17	-	
351号土坑	第15・16・3686	2区北	H-11	不整形	95	68	8	-	
352号土坑	第15・16・3686	2区北	I-11	不整形	110	76	14	-	
353号土坑	第15・16・3686	2区北	I-11	不整形	68	58	21	-	
354号土坑	第15・18・3686	2区北	I-11	不整形	69	53	31	-	
355号土坑	第15・18・3686	2区北	I-11	不整形	109	50	32	-	
356号土坑	第15・18・3686	2区北	I-11	椭円形	63	31	18	-	
357号土坑	第15・3686	2区北	I-10	不整形	39	28	13	-	
358号土坑	第15・3686	2区北	H-10	不整形	99	65	8	-	
359号土坑	第18・3686	2区北	J-16・17	不整形	183	(125)	20	-	
360号土坑	第30・3886	4区	K-14	円形	31	30	-	-	
361号土坑	第30・3886	4区	J-14	円形	21	19	-	-	
362号土坑	第30・3886	4区	J-14	不整形	38	29	-	-	
363号土坑	第30・3886	4区	K-14	不整形	44	43	-	-	

遺構名	図版番号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
364号土坑	第30-38図	4区	K-14	不整形	62	46	-	-	
365号土坑	第30-33-38図	4区	J-K-13-14	長方形	206	172	22	-	
366号土坑	第30-38図	4区	K-14	円形	47	(42)	-	-	
367号土坑	第30-38図	4区	J-13	椭円形	27	20	-	-	
368号土坑	第30-32-38図	4区	L-13	不整形	71	47	-	-	
369号土坑	第30-32-33-38図	4区	K-L-12-13	不整形	216	131	58	-	
370号土坑	第30-32-33-38図	4区	K-L-12	不整形	235	121	42	-	近代陶磁器片(第40図10)出土
371号土坑	第31-32-33-38図	4区	L-11	不整形	160	56	42	-	
372号土坑	第31-32-33-38図	4区	L-M-11	不整形	317	125	30	-	
373号土坑	第31-38図	4区	K-10	不整形	43	26	-	-	
374号土坑	第31-38図	4区	L-9	不整形	57	42	-	-	
375号土坑	欠番								
376号土坑	第31-34-38図	4区	K-9	不整形	171	153	126	-	
377号土坑	第31-38図	4区	K-9	不整形	47	36	-	-	
378号土坑	第31-38図	4区	K-9	不整形	42	22	-	-	
379号土坑	第31-32-33-38図	4区	J-9, K-B-9	不整形	317	126	-	-	
380号土坑	第31-38図	4区	K-9	不整形	66	31	-	-	
381号土坑	第31-38図	4区	K-9	円形	45	42	-	-	
382号土坑	第31-38図	4区	K-8	不整形	46	23	-	-	
383号土坑	第31-38図	4区	K-8	不整形	38	32	-	-	
384号土坑	第31-38図	4区	K-8	不整形	63	36	-	-	
385号土坑	第31-38図	4区	J-9	不整形	89	70	-	-	
386号土坑	第31-38図	4区	J-9	不整形	78	46	-	-	
387号土坑	第31-38図	4区	J-9	不整形	36	25	-	-	
388号土坑	第31-38図	4区	J-9	不整形	22	17	-	-	
389号土坑	第31-38図	4区	J-9	円形	23	19	-	-	
390号土坑	第31-38図	4区	K-8	不整形	(70)	29	-	-	
391号土坑	第32-38図	4区	L-12	不整形	133	57	-	-	
392号土坑	第32-38図	4区	L-12	不整形	179	29	-	-	
393号土坑	第32-38図	4区	L-12	不整形	40	39	-	-	
394号土坑	第32-38図	4区	L-12	不整形	90	37	-	-	
395号土坑	第32-38図	4区	M-12	不整形	44	39	-	-	
396号土坑	第32-38図	4区	L-M-13	不整形	80	44	-	-	
397号土坑	第32-38図	4区	M-13	不整形	94	56	-	-	
398号土坑	第32-38図	4区	M-13-14	不整形	62	36	-	-	
399号土坑	第32-38図	4区	M-13-14	正方形	55	54	-	-	
400号土坑	第37図	3区	Q-R-26-27	不整形	(252)	(138)	-	縄文時代	縄文中期土器片(第40図2)出土
401号土坑	第37図	3区	R-26-27	不整形	183	150	-	-	縄文(第52図64)出土
402号土坑	第37図	3区	U-27	不整形	96	36	9	-	

第3表 溝状構造一覧表

遺構名	図版番号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
1号溝状構造	第32図	1区	B-C-3-4	不整形	277	14	12	-	
2号溝状構造	第32図	1区	F-5-6	不整形	146	30	15	中世以降	
3号溝状構造	第32図	1区	E-5, F-5-6	不整形	424	29	9	中世以降	
4号溝状構造	第32図	1区	F-5-6	不整形	241	25	10	中世以降	
5号溝状構造	第32図	1区	E-F-5	不整形	126	44	8	中世以降	
6号溝状構造	第32図	1区	F-5-6	不整形	386	34	9	中世以降	
7号溝状構造	第32図	1区	F-5	不整形	160	51	10	中世以降	
8号溝状構造	第32図	1区	F-5	不整形	503	35	10	中世以降	
9号溝状構造	第32図	1区	F-5	不整形	91	38	-	中世以降	
10号溝状構造	第32図	1区	F-G-5	不整形	31	30	9	中世以降	
11号溝状構造	第32図	1区	G-5	不整形	183	25	12	中世以降	
12号溝状構造	第32図	1区	F-G-5	不整形	185	22	11	中世以降	
13号溝状構造	第32図	1区	G-H-7	不整形	129	33	4	中世以降	
14号溝状構造	第32図	1区	G-H-7	不整形	357	39	10	中世以降	
15号溝状構造	第32図	1区	G-H-7	不整形	297	76	10	中世以降	
16号溝状構造	第32図	1区	H-7	不整形	65	23	5	中世以降	
17号溝状構造	第32図	1区	H-7	不整形	145	67	13	中世以降	
18号溝状構造	第10-35図	1区	H-6-7	不整形	90	48	5	中世以降	
19号溝状構造	第10-35図	1区	I-7	不整形	184	23	5	中世以降	
20号溝状構造	第10-35図	1区	I-J-7	不整形	440	28	4	中世以降	
21号溝状構造	第10-35図	1区	I-J-7	不整形	138	12	3	中世以降	
22号溝状構造	第10-35図	1区	I-J-7	不整形	468	55	12	中世以降	
23号溝状構造	第10-35図	1区	I-J-7	不整形	305	28	8	中世以降	
24号溝状構造	第10-35図	1区	I-J-7	不整形	(174)	26	10	中世以降	
25号溝状構造	第10-35図	1区	I-6-7, J-7	不整形	194	40	8	中世以降	
26号溝状構造	第10-35図	1区	I-J-6-7	不整形	496	41	9	中世以降	
27号溝状構造	第10-35図	1区	J-8	不整形	391	44	13	中世以降	
28号溝状構造	第10-35図	1区	J-8	不整形	400	45	13	中世以降	

通稱名	國版番号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
29号溝状遺構	第10・3506	1区	J-8	6-楕円	303	43	14	中世Ⅱ期	
30号溝状遺構	第10・3506	1区	J - K - 8	6-楕円	313	51	11	中世Ⅱ期	
31号溝状遺構	第10・3506	1区	J - K - 6	6-楕円	288	34	10	中世Ⅱ期	
32号溝状遺構	第10・3506	1区	J - K - 7 - 8	6-楕円	276	46	15	中世Ⅱ期	
33号溝状遺構	第10・3506	1区	I-9	6-楕円	113	17	9	-	
24号溝状遺構	第10・3506	1区	I-8 - 9	6-楕円	255	39	18	-	
25号溝状遺構	第10・3506	1区	I-8 - 9, J - 9	6-楕円	215	27	15	-	
26号溝状遺構	第10・3506	1区	I-8	6-楕円	116	21	13	-	
27号溝状遺構	第10・3506	1区	I-8	6-楕円	(100)	43	20	中世Ⅱ期	近世陶磁器片(第39例12)出土
38号溝状遺構	第10・3506	1区	H - I-8	6-楕円	106	20	9	-	
39号溝状遺構	第10・3506	1区	I-8	6-楕円	92	16	10	-	
40号溝状遺構	第10・3506	1区	H - I-8	6-楕円	64	13	6	-	
41号溝状遺構	第7・3524	1区	E - 7	6-楕円	150	40	13	-	
42号溝状遺構	第7・3524	1区	E - 6 - 7	6-楕円	129	43	7	-	
43号溝状遺構	第11・3506	2区	I-3 - 4, J - 4	6-楕円	600	60	20	-	
44号溝状遺構	第8・3524	1区	I-2	6-楕円	159	(82)	12	-	
45号溝状遺構	第3506	1区	G-5	6-楕円	82	22	8	中世Ⅱ期	
46号溝状遺構	第3506	1区	G-5	6-楕円	150	75	4	中世Ⅱ期	
47号溝状遺構	第11・14・3506	1区	I-5 - 6, J - 5	6-楕円	333	80	20	中世Ⅱ期	圓文土器片(第39例5)、近世陶磁器片(第39例18)出土
48号溝状遺構	第11・14・3506	1区	J - K - 6	6-楕円	186	109	8	-	
49号溝状遺構	第11・3506	1区	K - 6	6-楕円	173	59	6	-	
50号溝状遺構	第11・3506	1区	K - 6	6-楕円	262	52	12	中世Ⅱ期	
51号溝状遺構	第37回	2区	S-20 - 21	6-楕円	239	49	13	-	
52号溝状遺構	第21・3716	2区	V - 26 - 27	6-楕円	368	87	18	-	
53号溝状遺構	第21・3716	2区	V - 26 - 27	6-楕円	301	64	20	-	
54号溝状遺構	第17・3606	2区南	L-17 - 18	6-楕円	(612)	88	48	-	
55号溝状遺構	第17・3606	2区南	L-17	6-楕円	59	23	-	-	
56号溝状遺構	第17・3606	2区南	L-17	6-楕円	137	39	14	-	
57号溝状遺構	第17・3606	2区南	L-17	6-楕円	62	20	-	-	
58号溝状遺構	第17・3606	2区南	L-18, M-16 - 18	6-楕円	(984)	117	35	-	
59号溝状遺構	第17・3606	2区南	M-17	6-楕円	150	39	13	-	
60号溝状遺構	第17・3606	2区南	M - N - 17	6-楕円	165	49	2	-	
61号溝状遺構	第17・3606	2区南	M-18, N-17 - 18	6-楕円	(719)	118	46	-	
62号溝状遺構	第17・3606	2区南	N-16	6-楕円	200	50	9	-	
63号溝状遺構	第36回	2区南	L-17 - 18, M-17	6-楕円	(481)	46	45	-	
64号溝状遺構	第15・3606	2区北	H - I - 9, L - 10, J - 10	6-楕円	(791)	98	37	中世Ⅱ期	
65号溝状遺構	第15・3606	2区北	I - 9 - 10, J - 10	6-楕円	396	61	15	中世Ⅱ期	
66号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 15	6-楕円	66	28	-	-	
67号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 14	6-楕円	16	(28)	-	-	
68号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 14	6-楕円	124	28	-	-	
69号溝状遺構	第30・3806	4区	I - J - 14	6-楕円	81	33	-	-	
70号溝状遺構	第30・3806	4区	I - J - 14	6-楕円	(190)	50	-	-	
71号溝状遺構	第30・34 - 38E8	4区	J - 14 - 15	6-楕円	(448)	101	16	中世Ⅱ期	櫛着(第44例11) 所在
72号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 14	6-楕円	99	22	-	-	
73号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 14	6-楕円	64	19	-	-	
74号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 14	6-楕円	127	38	-	中世Ⅱ期	
75号溝状遺構	第30・3806	4区	K - 14	6-楕円	50	17	-	中世Ⅱ期	
76号溝状遺構	第30・3806	4区	K - 14	6-楕円	72	19	-	中世Ⅱ期	
77号溝状遺構	第30・3806	4区	K - 14	6-楕円	168	31	-	中世Ⅱ期	
78号溝状遺構	第30・3806	4区	K - 14	6-楕円	(195)	48	-	中世Ⅱ期	
79号溝状遺構	第30・3806	4区	K - 14	6-楕円	(171)	52	-	中世Ⅱ期	
80号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 13	6-楕円	86	22	-	中世Ⅱ期	
81号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 13	6-楕円	37	18	-	中世Ⅱ期	
82号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 13	6-楕円	112	34	-	中世Ⅱ期	
83号溝状遺構							-		
84号溝状遺構							-		
85号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 13	6-楕円	221	30	-	中世Ⅱ期	
86号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 13	6-楕円	186	67	-	中世Ⅱ期	
87号溝状遺構	第30・3806	4区	J - 13	6-楕円	109	22	-	中世Ⅱ期	
88号溝状遺構	第30・3806	4区	K - 13 - 14	6-楕円	91	29	-	-	
89号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 13	6-楕円	253	19	-	中世Ⅱ期	
90号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 13	6-楕円	(190)	35	-	中世Ⅱ期	
91号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 13	6-楕円	180	31	-	中世Ⅱ期	
92号溝状遺構	第30・3806	4区	J - K - 13	6-楕円	251	28	-	中世Ⅱ期	
93号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12 - 13	6-楕円	350	(56)	-	中世Ⅱ期	
94号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12 - 13	6-楕円	148	52	-	中世Ⅱ期	近世陶磁器片出土
95号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12 - 13	6-楕円	162	34	-	中世Ⅱ期	
96号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12	6-楕円	97	19	-	中世Ⅱ期	
97号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12	6-楕円	132	25	-	中世Ⅱ期	
98号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12	6-楕円	(183)	39	-	中世Ⅱ期	
99号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12	6-楕円	(160)	66	-	中世Ⅱ期	
100号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12	6-楕円	176	41	-	中世Ⅱ期	
101号溝状遺構	第30・32 - 38E8	4区	K - 12	6-楕円	77	27	-	中世Ⅱ期	

遺構名	探査番号	調査区	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
102号溝状遺構	第31・32・38回	4IK	L-11	不整形	169	47	-	-	
103号溝状遺構	第32・38回	4IK	M-11	不整形	160	52	-	-	
104号溝状遺構	第38回	4IK	L-10, M-10・11	不整形	215	33	-	-	
105号溝状遺構	第31・32・38回	4IK	L-10・11	不整形	120	36	-	-	
106号溝状遺構	第31・32・38回	4IK	K・L-10・11	不整形	124	34	-	-	
107号溝状遺構	第31・32・38回	4IK	K-10, L-10・11	不整形	259	43	-	-	
108号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-10	不整形	52	17	-	中世以降	
109号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-10	不整形	38	12	-	中世以降	
110号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-10	不整形	161	29	-	中世以降	
111号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-10	不整形	77	35	-	中世以降	
112号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-10	不整形	127	29	-	中世以降	
113号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-9・10	不整形	199	24	-	中世以降	
114号溝状遺構	第31・38回	4IK	K・L-9・10	不整形	201	40	-	中世以降	
115号溝状遺構	第31・38回	4IK	K・L-9	不整形	180	41	-	中世以降	
116号溝状遺構			矢溝				-		
117号溝状遺構			矢溝				-		
118号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-10	不整形	229	91	-	中世以降	
119号溝状遺構	第31・38回	4IK	J・K-10	不整形	489	36	-	中世以降	
120号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-10	不整形	60	25	-	中世以降	
121号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-9・10, K-10	不整形	530	49	-	中世以降	
122号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-9・10, K-10	不整形	314	43	-	中世以降	
123号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-9・10	不整形	(273)	55	-	中世以降	
124号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-9	不整形	(90)	27	-	中世以降	
125号溝状遺構	第31・34・38回	4IK	I-K-9	不整形	315	220	6	中世以降	
126号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-9	不整形	123	19	-	-	
127号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-9	不整形	90	21	-	-	
128号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-8・9	不整形	(139)	45	-	-	
129号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-8	不整形	(68)	12	-	-	
130号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-8	不整形	(75)	23	-	-	
131号溝状遺構	第31・38回	4IK	K-8	不整形	(44)	23	-	-	
132号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-9	不整形	130	37	-	-	
133号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-9	不整形	98	42	-	-	
134号溝状遺構	第31・38回	4IK	J-8・9	不整形	151	53	-	-	
135号溝状遺構			矢溝				-		
136号溝状遺構	第9・14・35回	1IK	E・F-8・9, G-9, H-9・10	不整形	1727	153	20	中世以降	近世陶磁器片出土
137号溝状遺構	第9・10・35回	1IK	I-8	不整形	100	34	10	-	
138号溝状遺構	第11・35回	1IK	I-5	不整形	180	25	14	-	

第4表 土器・陶磁器一覧表

国語番号	地 上 地 点	標 高	標 高	時 代	地名	立 方 量 (cm)	面 積 (cm)	色 調	地 上	備 考
第00011	3K(HP-168 174 + 216	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	2.57/21	1) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。、裏山には植生の倒木を有す
第00012	3K(HP-212	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	2.57/21	2) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00013	3K(HP-219 169	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	2.57/21	3) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00014	3K(HP-181 197	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	4) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00015	3K(HP-301	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	5) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00016	3K(HP-207	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	6) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00017	3K(HP-251	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	7) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00018	3K(HP-208	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	8) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00019	3K(HP-176 257	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	9) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00020	3K(HP-152	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	10) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00021	3K(HP-226	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/1	11) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00022	3K(HP-224	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/1	12) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00023	3K(HP-248	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	13) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00024	3K(HP-192	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/1	14) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00025	3K(HP-311	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	15) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00026	3K(HP-223	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	16) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00027	3K(HP-166	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	17) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00028	3K(HP-208	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	18) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00029	3K(HP-172	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/1	19) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00030	3K(HP-205	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/1	20) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00031	3K(HP-209	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/1	21) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00032	3K(HP-229	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/1	22) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00033	3K(HP-218	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/2	23) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00034	3K(HP-220 232	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR4/4	24) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00035	3K(HP-178 166	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/6	25) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00036	3K(HP-199 229	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR2/2	26) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00037	3K(HP-194	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	10YR4/4	27) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00038	3K(HP-240	土路	土路	令 1.小町	第1町	-	-	黒色	7.5YR2/6	28) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00039	3K(HP-252	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR2/2	29) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00040	3K(HP-204	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR2/2	30) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00041	3K(HP-247	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR2/2	31) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00042	3K(HP-140	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR2/1	32) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00043	3K(HP-161	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	7.5YR2/6	33) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00044	3K(HP-242 250	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR4/2	34) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00045	3K(HP-255	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	2.5YR2/1	35) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00046	3K(HP-150	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR2/2	36) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00047	3K(HP-138	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	10YR2/2	37) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00048	3K(HP-168 196	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	7.5YR2/4	38) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。
第00049	3K(HP-206	土路	土路	令 1.小町	第2町	-	-	黒色	7.5YR2/4	39) 令和新野町1. 墓地の墓石を出土。

試験番号	場所	地 点	標 高	標 高	地 代	地 名	標 高 (m)	風 速 (m/s)	風 向	風 速 (m/s)	風 向	風 速 (m/s)	風 向
第41056	3K(HP-124・144・154・242	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41051	3K(HP-134・157	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41052	3K(HP-165・177・177・183・225	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41053	3K(HP-133・147・164・178	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41054	3K(HP-173・175・185・191・203・205・215・235・256・261	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41055	3K(HP-131・156・258	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41056	3K(HP-127・141・155・157・159・237・259・263	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41057	3K(HP-146・87	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41058	3K(HP-246	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41059	3K(HP-149	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41060	3K(HP-246・256	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41061	3K(HP-128・P-129	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第2・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41062	3K(HP-129・142	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41063	3K(HP-234	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41064	3K(HP-240・106	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41065	3K(HP-119	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41066	3K(HP-147・82	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41067	3K(HP-145	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41068	3K(HP-122	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41069	3K(HP-244	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41070	3K(HP-121	土路	瀬	瀬	第1・小雨	第3・瀬	-	-	瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41071	3K(HP-259・96	林	小瀬	?	-	-	-	-	林	-	-	-	利根の瀬と水場
第41072	3K(HP-101	土路	瀬	瀬	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41073	3K(HP-74	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41074	3K	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41075	3K(HP-254	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41076	3K(HP-108	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41077	3K(HP-27・46	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41078	3K(HP-63	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41079	3K(HP-113	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41080	3K(HP-27・46	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41081	3K(HP-109	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41082	3K(HP-108	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41083	3K(HP-95	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41084	3K(HP-97	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41085	3K(HP-95	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41086	3K(HP-147	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41087	3K(HP-114	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場
第41088	3K(HP-243	福路	福	福	近瀬	近瀬	-	-	近瀬	3.5TR/2	長石	3.5TR/2	利根の瀬と水場

考  
察

国宝番号	地 上 地 点	種 類	種 類	時代	標本名稱	長 径 (cm)	寬 径 (cm)	色 調	物 質	備 考
第35389	3K81-9	陶	瓦	近代	-	-	-	褐色	漆器等に用ひる花文	透明感、底板等に用ひる花文
第35390	3K82-83	粘土	施利	近代	-	-	-	白色	白釉	外向型、透明感
第35391	3K84-65	粘土	瓦片	近代	-	-	1.6	褐色	白釉	内向型、透明感、堅厚感
第35392	3K84-10	粘土	瓦片	近代	-	6.2	1.6	褐色	白色	内向型、透明感
第35393	3K84-66	陶	瓦	近代	-	-	1.7	褐色	白色	内向型、透明感
第35394	3K84-24P-305	土器	碗	近代	-	-	-	褐色	白色	内向型、透明感
第35395	4K81-8	土器	盆	近代	-	-	-	白色	白色	内向型、透明感
第35396	4K81-5	土器	盆	近代	-	-	-	白色	白色	内向型、透明感
第35397	4K81-9	土器	深杯	近代	-	-	-	白色	白色	内向型、透明感、坚固性
第35398	4K81-2	土器	大碗	不明	-	-	-	白色	白色	内向型、透明感、坚固性
第35399	4K81-6	土器	深杯	平安	-	-	-	白色	白色	内向型、透明感、坚固性
第35400	4K81-7	粘土	瓦	近代	-	-	-	褐色	白色	内向型、透明感、坚固性
第35401	4K81-10	4K81-11P-1	粘土	瓦	近代	-	-	褐色	白色	内向型、透明感
第35402	4K81-11	4K81-12	粘土	瓦	近代	-	-	褐色	白色	内向型、透明感
第35403	4K81-13+4	粘土	瓦	近代	-	-	-	褐色	白色	内向型、透明感
第35404	4K81-13+4	粘土	瓦	近代	-	-	-	褐色	白色	内向型、透明感
第35405	4K81-14	粘土	瓦	近代	-	-	-	褐色	白色	内向型、透明感

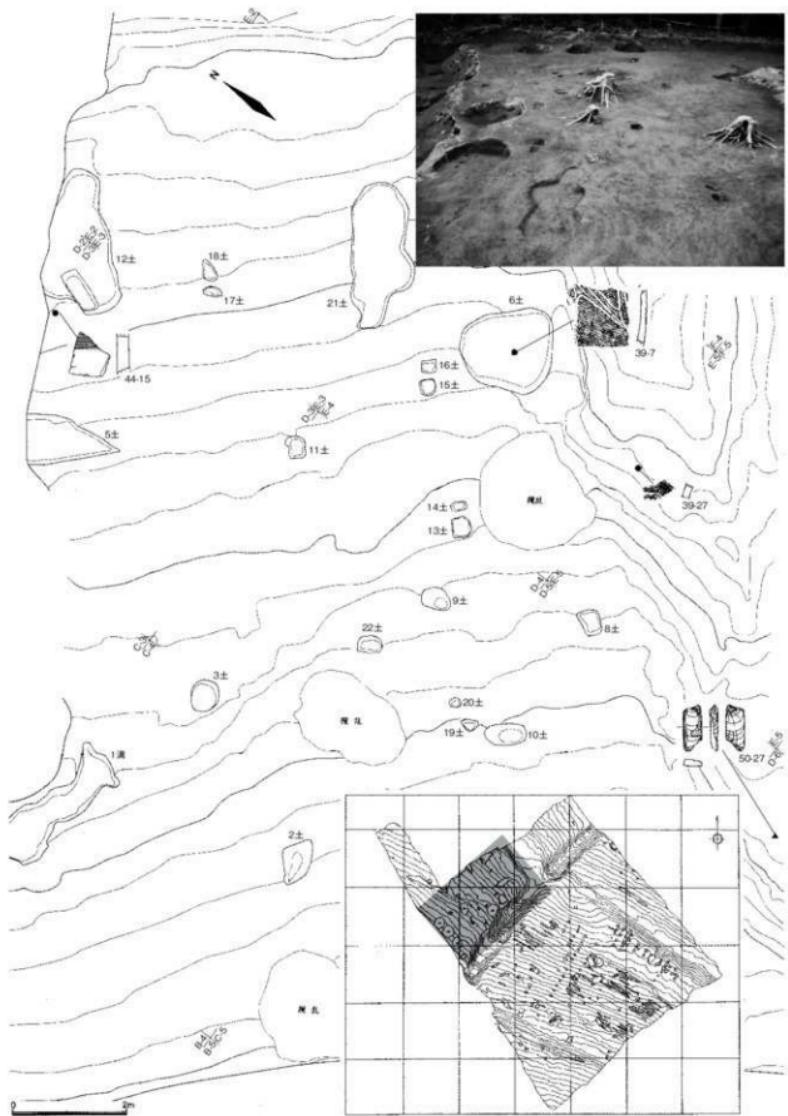
第5表 金属製品等一覧表

図版番号	出土地点	種類	形状	時代	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	備考
第44081	1区P-2	鉄製品	環状	—	6.4	6.4	0.5	40.1	
第44082	1区1号P-4	青銅製品	板状	—	4.1	6.4	0.3	20.1	
第44083	3区27号P-12	鉄製品	剣	近世	3.1	0.7	0.5	1.5	
第44084	3区29号P-77	鉄製品	宝珠形	—	3.2	5.5	0.8	21.1	2つの孔を有する
第44085	3区21号P-9	扇貝殻	扇貝玉	近世	1.4	1.3	0.9	9.6	
第44086	3区2号P-10	青銅製品	煙管	近世	0.9	3.2	0.1	2.4	
第44087	3区2号P-11	鉄製品	剣	近世	3.9	0.8	0.4	1.6	
第44088	3区2号P-6	鉄製品	劍	近世	3.5	9.0	1.0	54.0	
第44089	3区2号P-7	鉄製品	刀子形	—	11.8	1.5	0.5	15.6	
第44090	3区5号P-8	鉄製品	剣	近世	1.4	0.7	0.6	1.8	
第44091	4区71号P-2	青銅製品	煙管	近世	1.0	7.3	0.1	6.8	
第44092	1区Cn-1	銭貨	1円銅貨	—	2.0	2.0	0.1	2.8	
第44093	2区30号±Co-2	銭貨	寛永通寶	近世	2.3	2.3	0.1	2.5	
第44094	1区12号P-42	瓦	平瓦	近代	5.7	5.3	1.7	44.7	色調は暗灰色、施土は灰色で滑りあり。
第44095	1区1-15	瓦	丸瓦	近代	5.4	8.5	2.6	91.3	色調は暗灰色、施土は灰色
第44096	1区J-3	ガラス製品	ガラス瓶	近代	11.0	5.8	3.0	101.5	色調は薄黄色
第44097	4区GP-1	ガラス製品	おはじき	近代	1.3	1.4	0.3	1.0	色調は透明
第44098	4区GP-2	ガラス製品	おはじき	近代	1.9	2.0	0.5	2.8	色調は青色

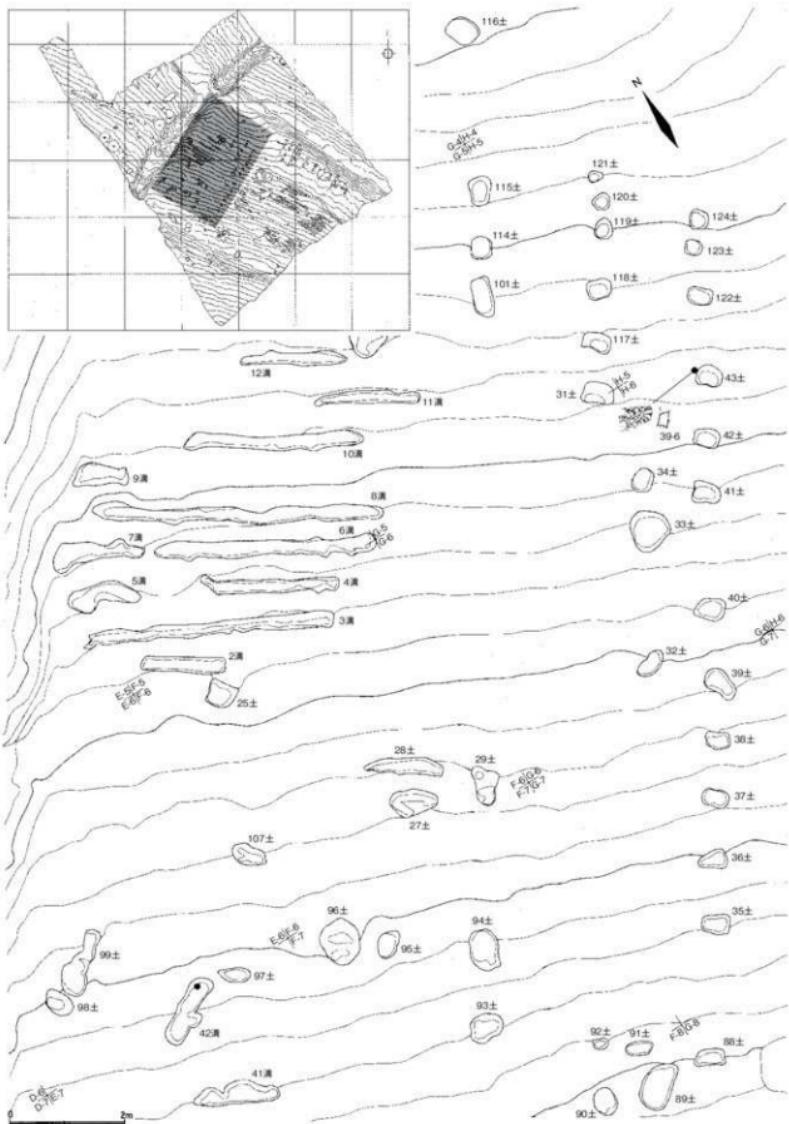
第6表 石器・剥片類一覧表

図版番号	出土地点	種類	石材	最大長 (mm)	最大幅 (mm)	最大厚 (mm)	重量 (g)	備考
第45081	3区11号S-101	石器	黒曜石	19.5	14.7	2.9	0.5	
第45082	3区11号S-75	二次加工剥片	黒曜石	1.7	1.5	0.3	0.5	石器未完成か?
第45083	3区11号S-72	微細刮削を有する剥片	黒曜石	26.3	16.4	8.3	2.6	左方に微細刮削
第45084	3区11号S-95	微細刮削を有する剥片	黒曜石	27.6	16.0	5.3	1.1	左方に微細刮削
第45085	1区-15	二次加工剥片	黒曜石	33.3	11.0	11.5	3.3	石器表面に摩耗が顕著にみられる
第45086	3区11号S-71	石核	黒曜石	19.5	24.4	11.7	5.4	
第45087	3区11号S-76	石核	黒曜石	26.3	34.1	22.5	15.4	
第46088	3区11号S-96	石核	黒曜石	23.2	13.4	11.1	2.5	
第46089	3区11号S-106	石核	黒曜石	22.5	22.9	14.1	6.8	
第46090	3区11号S-73	剥片	黒曜石	26.3	10.9	8.2	1.9	第46081と接合
第46091	3区11号S-70	石核	黒曜石	28.1	16.5	11.5	5.2	第46080と接合
第47092	3区11号S-99	楔形石器	黒曜石	21.8	11.8	10.2	2.6	第47083と接合
第47093	3区11号S-91	両面削開	黒曜石	18.7	8.4	8.6	0.9	第47082と接合
第47094	3区CS-114	破壊	凝灰岩	140.7	167.5	45.9	1198.1	
第48095	1区1号S-14	破壊	凝灰岩	155.5	148.5	32.3	937.7	
第48096	1区-15	破壊	凝灰岩	147.8	171.8	66.0	1963.2	
第48097	1区1号S-22	破壊	凝灰岩	110.5	115.0	33.1	453.7	刃部細削状
第49098	3区2号-45	破壊	凝灰岩	119.7	131.2	52.2	1311.6	
第49099	3区2号-S-47	打裂石斧	安山岩	188.8	84.3	34.0	609.9	
第49099	1区1号S-24	打裂石斧	ホルンフェルス	98.8	36.9	11.6	50.3	
第49099	3区1号S-24	打裂石斧	凝灰岩	89.8	47.2	14.3	46.4	
第49099	3区2号T27-45	削器	凝灰岩	46.7	98.0	19.4	117.2	
第49099	3区2号-T-45	削器	ホルンフェルス	45.6	87.9	13.6	62.6	
第50091	1区1号S-32	二次加工剥片	凝灰岩	180.1	98.8	31.4	610.7	
第50092	3区S-90	石核	凝灰岩	155.6	40.6	36.6	193.4	石核の断片
第50092	1区1号S-23	削器	凝灰岩	73.0	48.6	17.5	45.0	石核末端がかすかに摩耗している
第50092	1区1号S-15	二次加工剥片	凝灰岩	61.2	25.0	11.1	22.0	
第50092	1区-15	石核	凝灰岩	10.5	5.4	4.4	236.0	
第50092	3区1号S-112	剥片	ホルンフェルス	72.8	45.1	14.8	25.3	
第50093	1区S-11	剥片	凝灰岩	7.6	2.4	3.1	41.0	
第50093	1区-15	剥片	凝灰岩	8.6	5.8	2.1	91.0	
第50093	1区2号S-21	剥片	凝灰岩	6.5	9.8	4.7	235.0	
第50093	1区-15	剥片	凝灰岩	8.3	5.4	2.0	65.0	
第51094	1区-15	剥片	凝灰岩	7.6	3.5	2.3	38.0	
第51095	1区-15	剥片	瓦	6.0	5.9	1.2	23.0	
第51096	1区-15	剥片	凝灰岩	5.2	7.3	2.4	76.0	
第51097	1区-15	剥片	凝灰岩	4.8	3.8	2.8	27.0	
第51098	3区2号S-89	剥片	凝灰岩	11.2	4.2	1.9	62.0	
第51099	3区2号T27-45	剥片	瓦	6.9	3.2	1.8	25.0	
第51099	3区2号-T-45	剥片	凝灰岩	6.2	7.1	2.6	62.0	
第51099	3区S-50	剥片	凝灰岩	6.2	2.5	1.8	15.0	
第51099	3区S-53	剥片	凝灰岩	7.6	8.8	3.1	184.0	

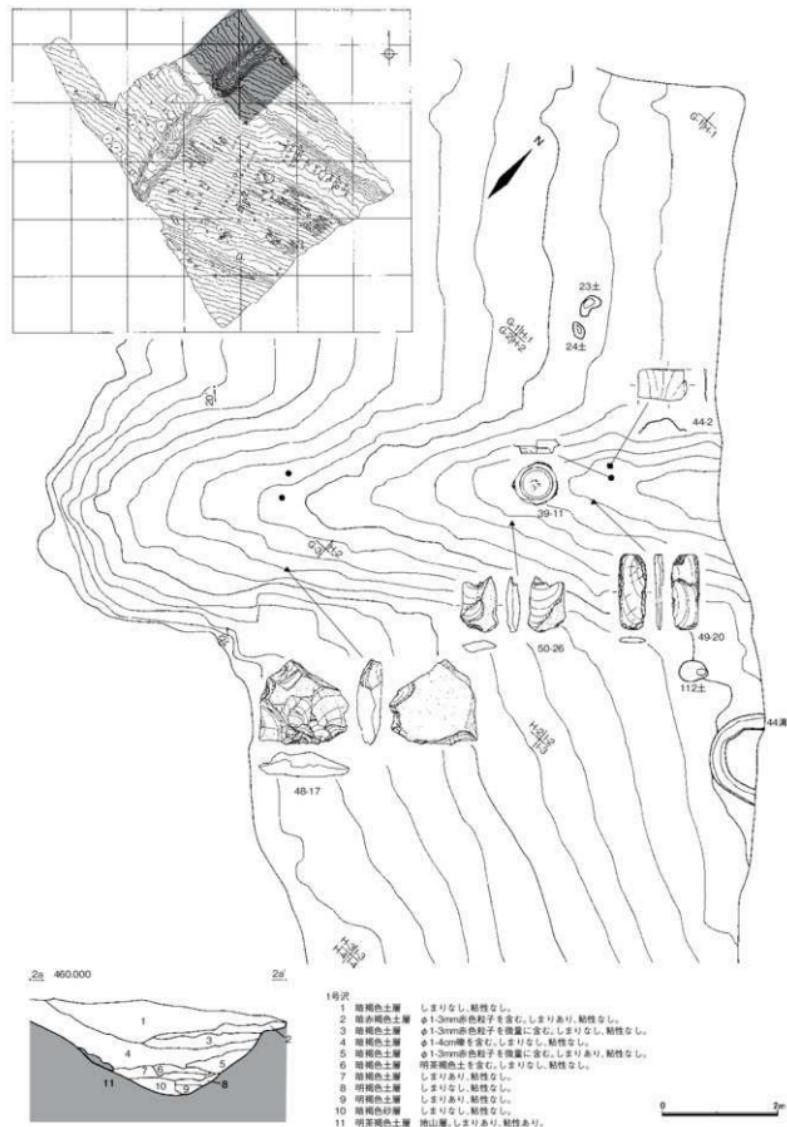
器物号	出土地点	器 种	石 材	最大长 [mm]	最大幅 [mm]	最大厚 [mm]	重 量 [g]	備 考
第51#44	3#KS-86	刮片	砂岩	7.2	7.4	2.2	95.0	
第51#45	3#K299±S-98	刮片	凝灰岩	7.7	5.0	2.4	76.0	
第52#46	3#KS-81	刮片	凝灰岩	10.6	5.1	2.1	101.0	
第52#47	3#K2#RS-82	刮片	页岩	11.2	6.1	2.4	122.0	
第52#48	3#K401±S-118	刮片	凝灰岩	6.2	3.3	1.7	21.0	
第52#49	S-45	刮片	凝灰岩	5.8	7.5	2.2	88.0	
第52#50	S-46	刮片	凝灰岩	6.6	10.6	5.8	284.0	
第52#51	3#KH#R-5	磨石	安山岩	11.8	10.4	4.8	869.0	
-	3#KS-54	刮片	黑曜石	15.9	20.6	6.0	1.7	
-	3#KS-61	刮片	黑曜石	21.3	14.0	8.8	2.0	
-	3#KS-66	刮片	黑曜石	17.0	25.3	9.2	3.4	
-	3#KS-67	刮片	黑曜石	11.7	11.9	2.6	0.2	
-	3#KH#S-74	刮片	黑曜石	37.6	15.1	8.3	3.1	
-	3#KH#S-100	刮片	黑曜石	18.1	14.3	3.6	0.7	
-	3#KH#S-113	碎片	黑曜石	10.1	9.1	3.2	0.2	
-	3#KH#S-115号地土下	碎片	黑曜石	10.0	7.0	2.0	0.1	
-	3#KH#S-115号地土下	刮片	黑曜石	17.0	11.8	5.8	0.7	
-	3#KH#R	刮片	黑曜石	11.1	5.4	1.7	0.1	



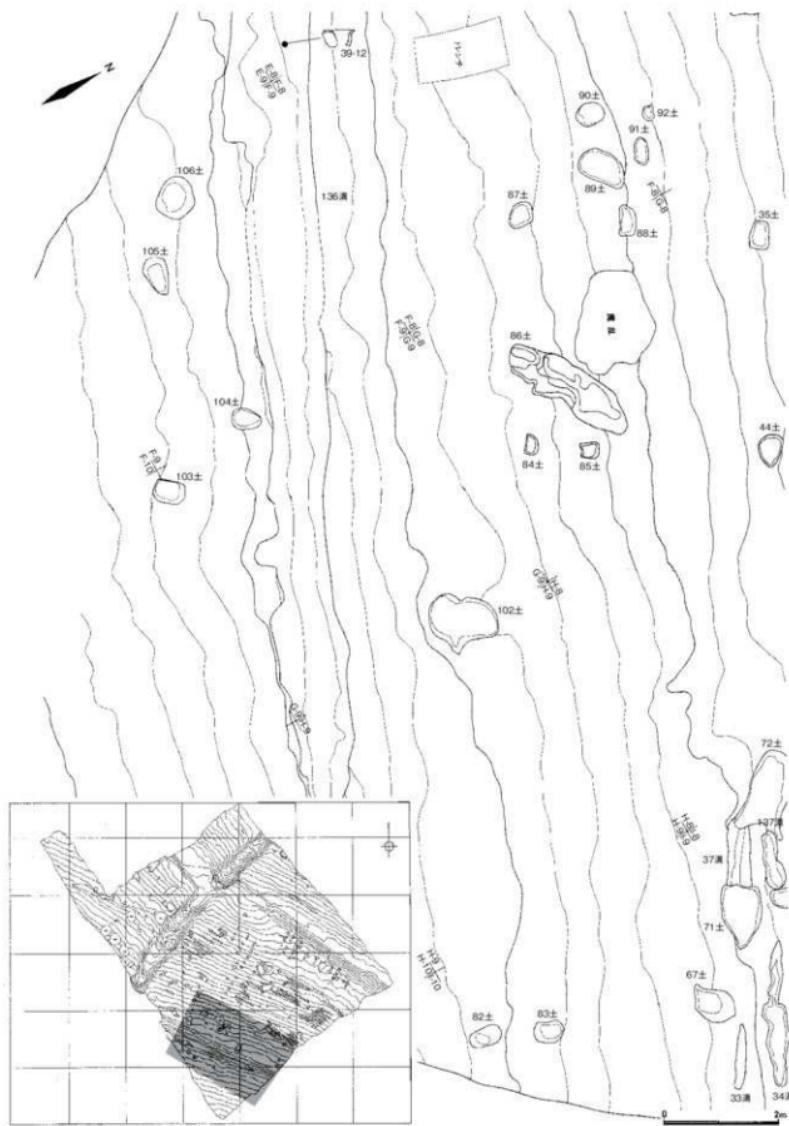
第6図 1区平面図 (B～E-2～5グリッド)



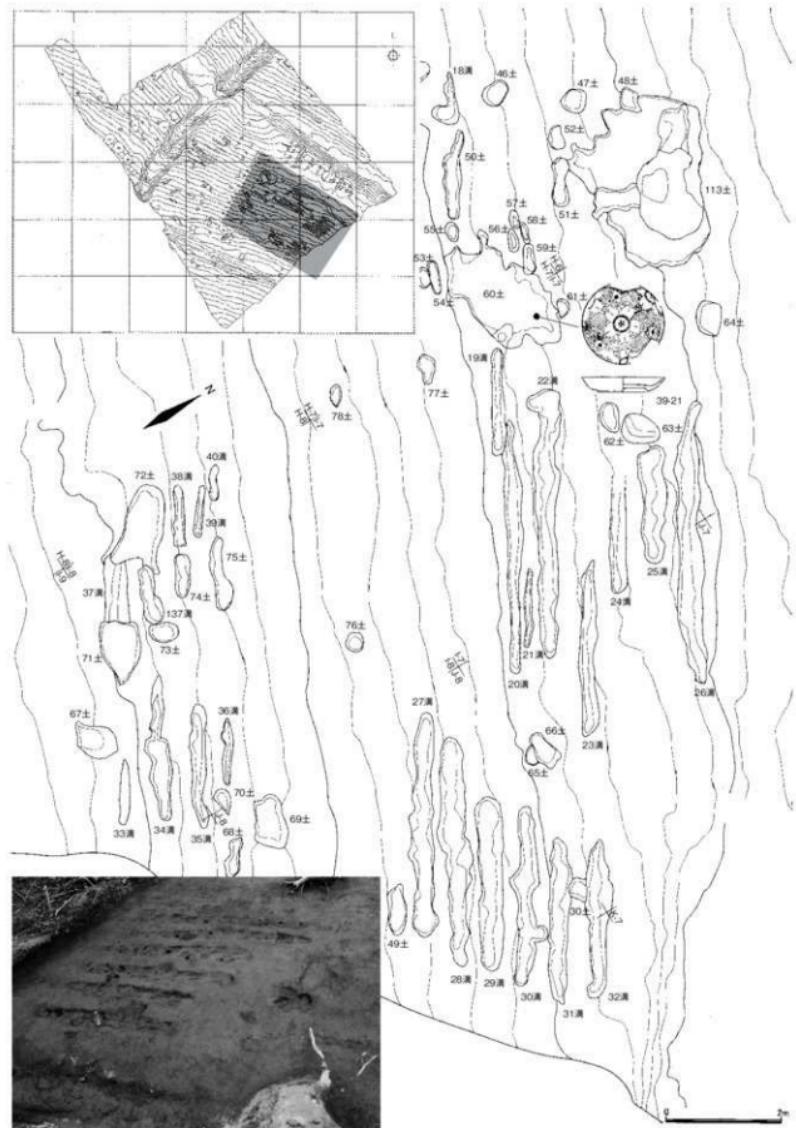
第7図 1区平面図 (E~H-4~8 グリッド)



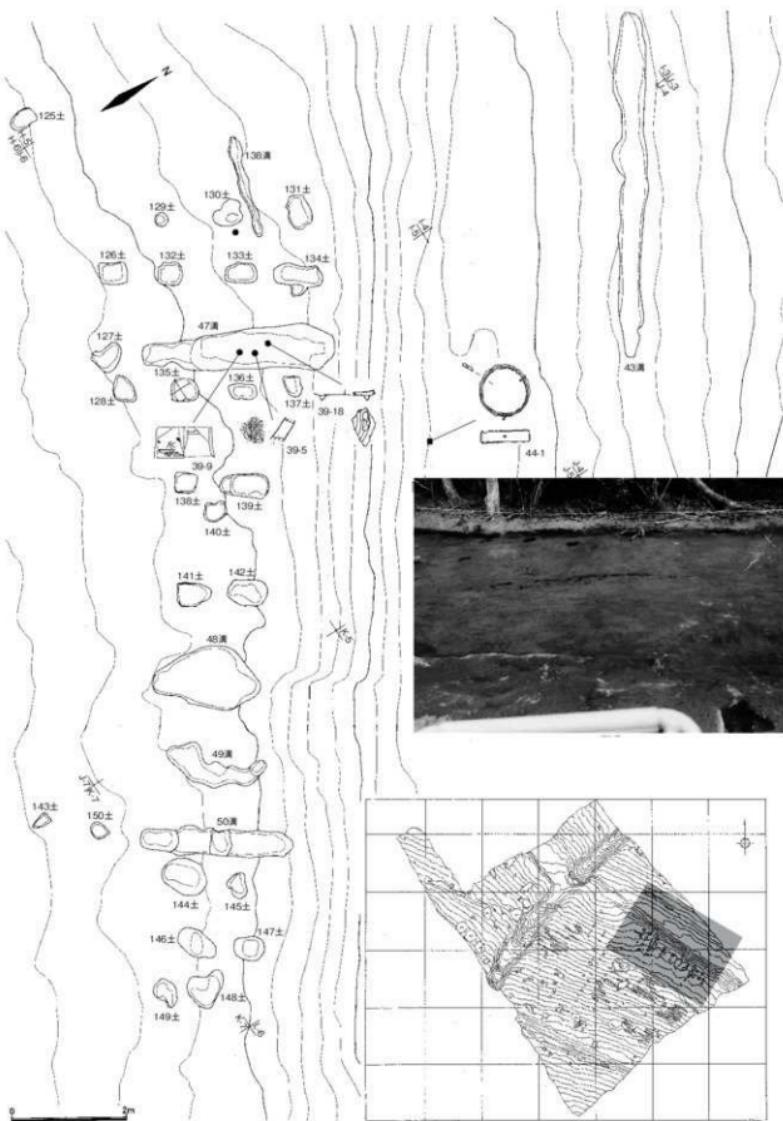
第8図 1号区平面図 (G～I-1～3グリッド)



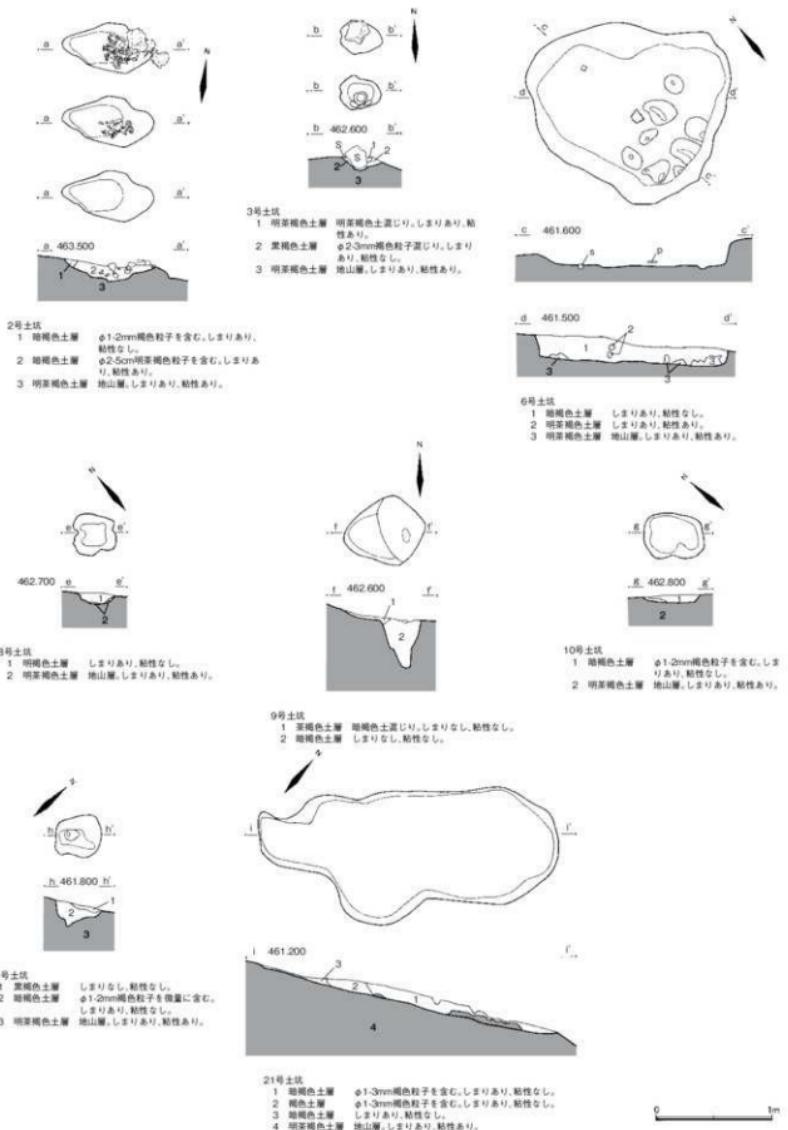
第9図 1区平面図 (E~I-8~10グリッド)



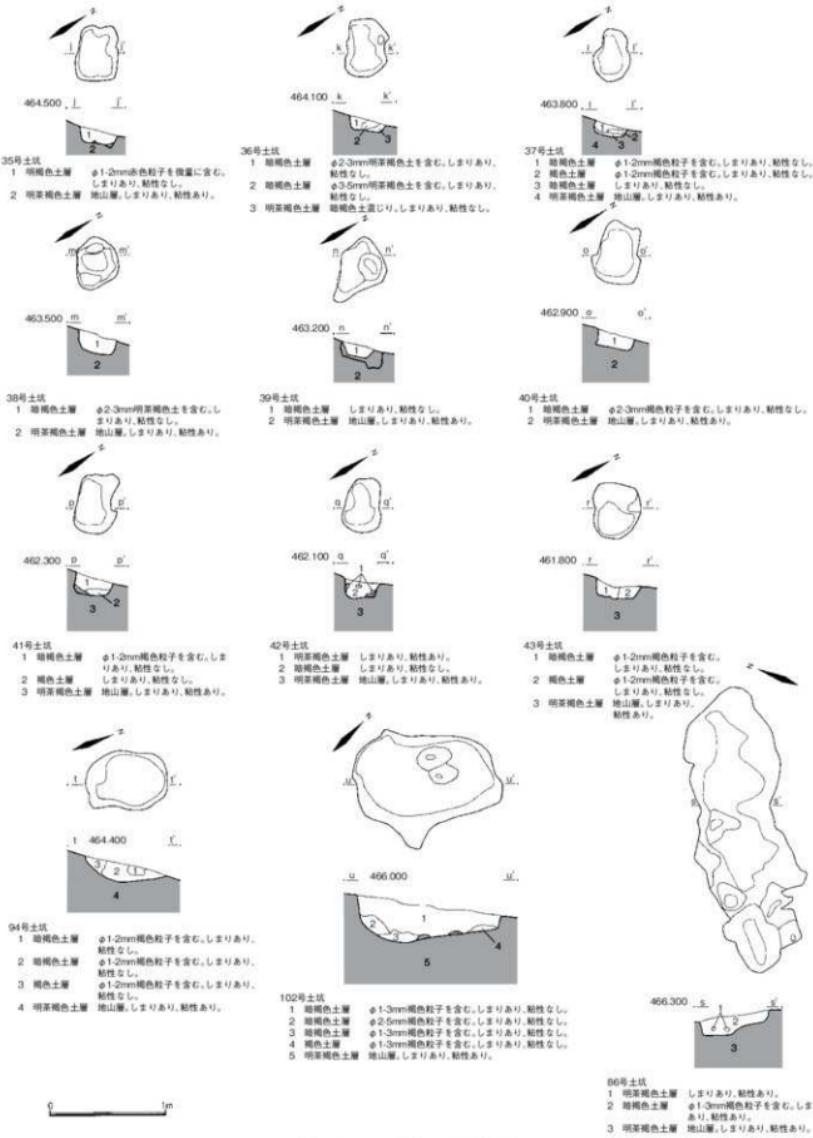
第10図 1区平面図 (H~K-6~9 グリッド)



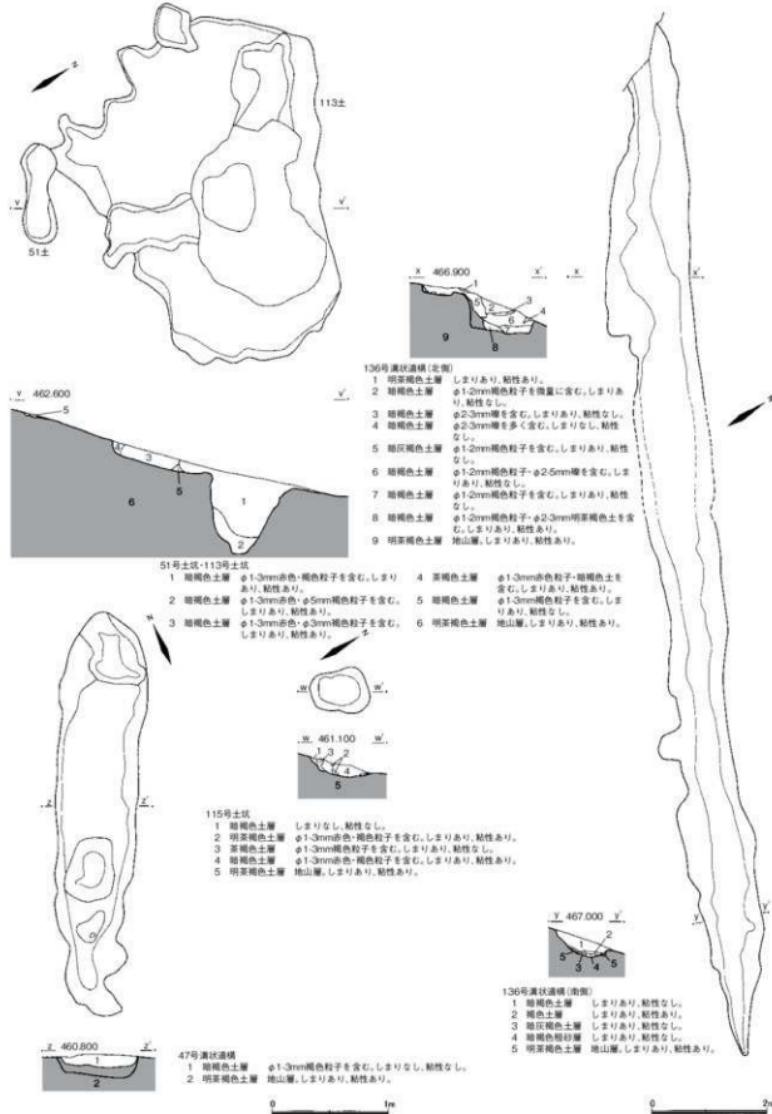
第11図 1区平面図 (H~K-5~7 グリッド)



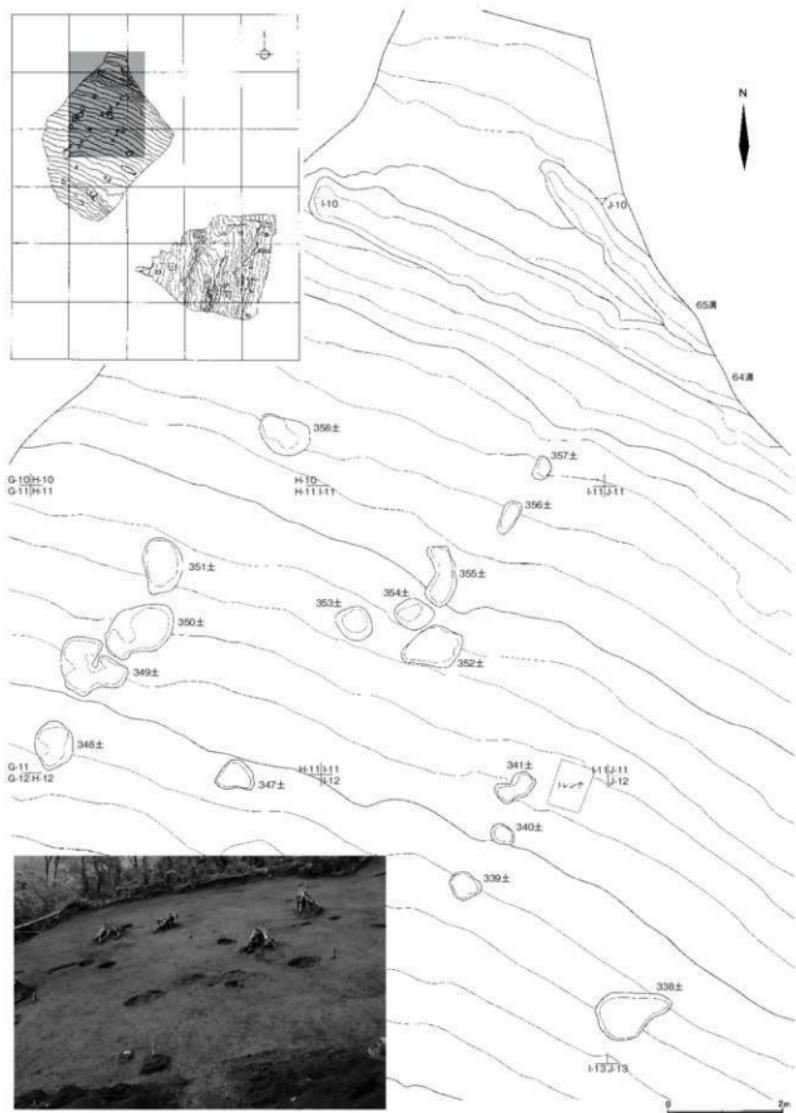
第12図 1区遺構平面・断面図1



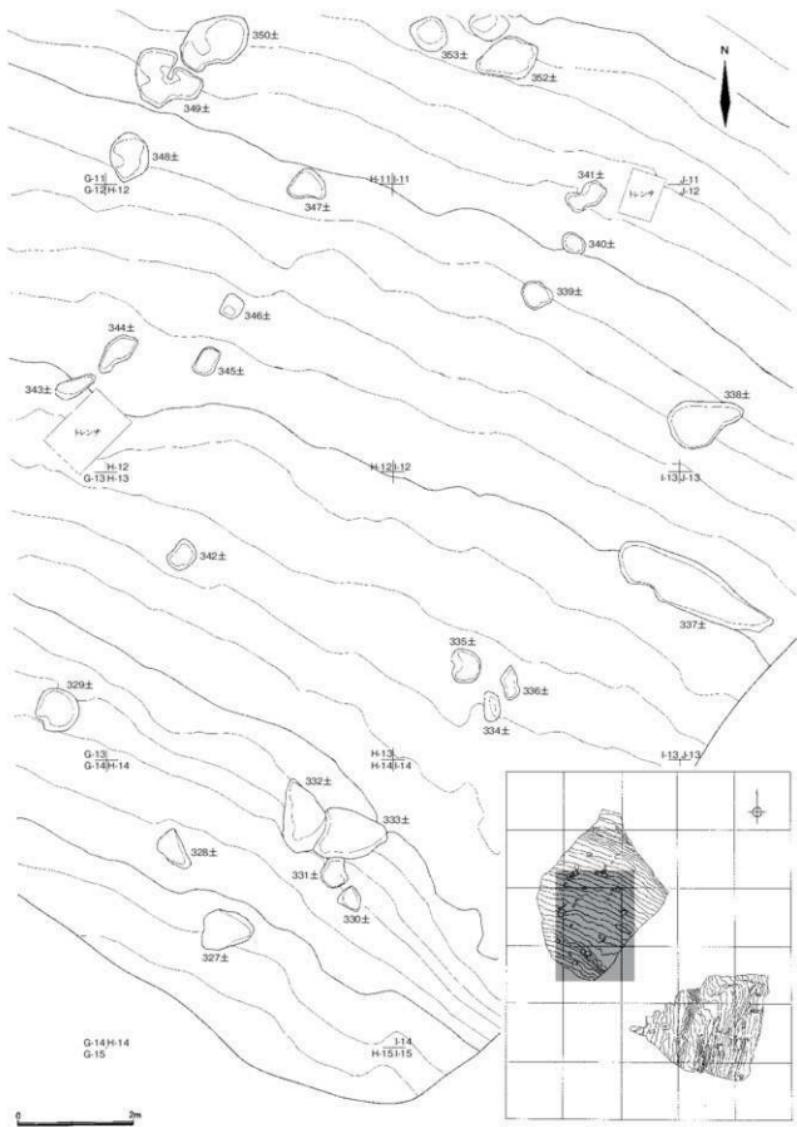
第13図 1区構造平面・断面図 2



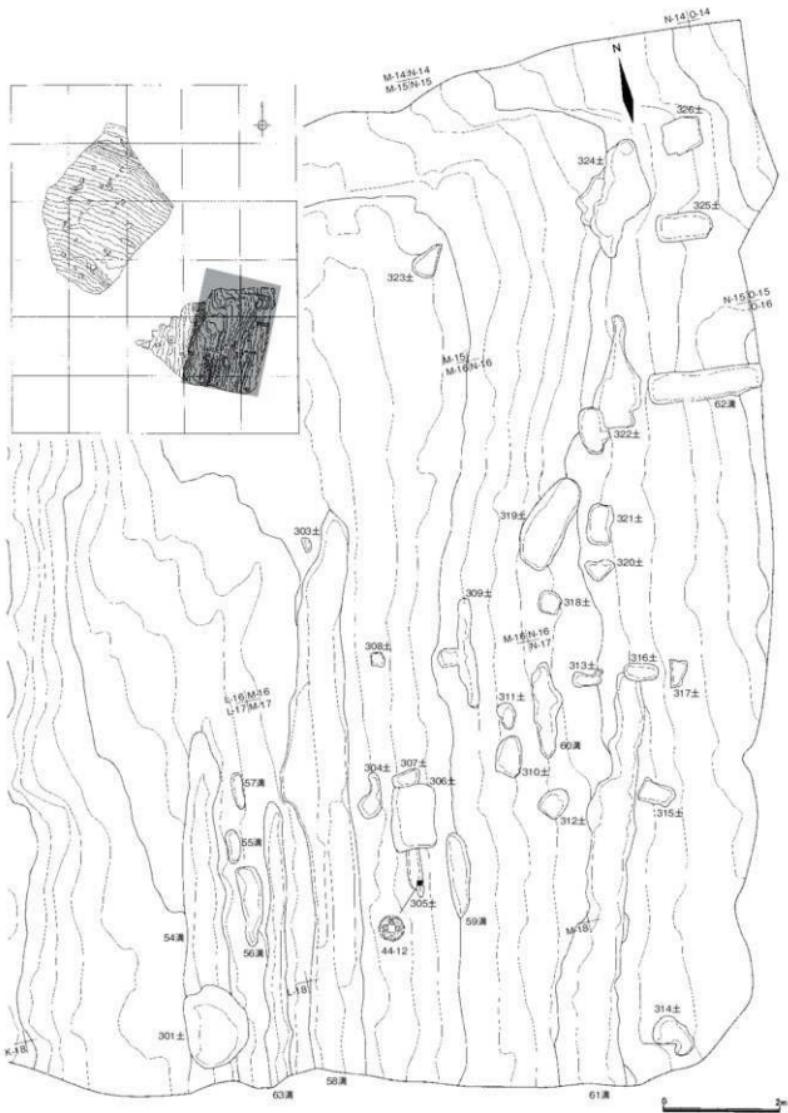
第14図 1区遺構平面・断面図3



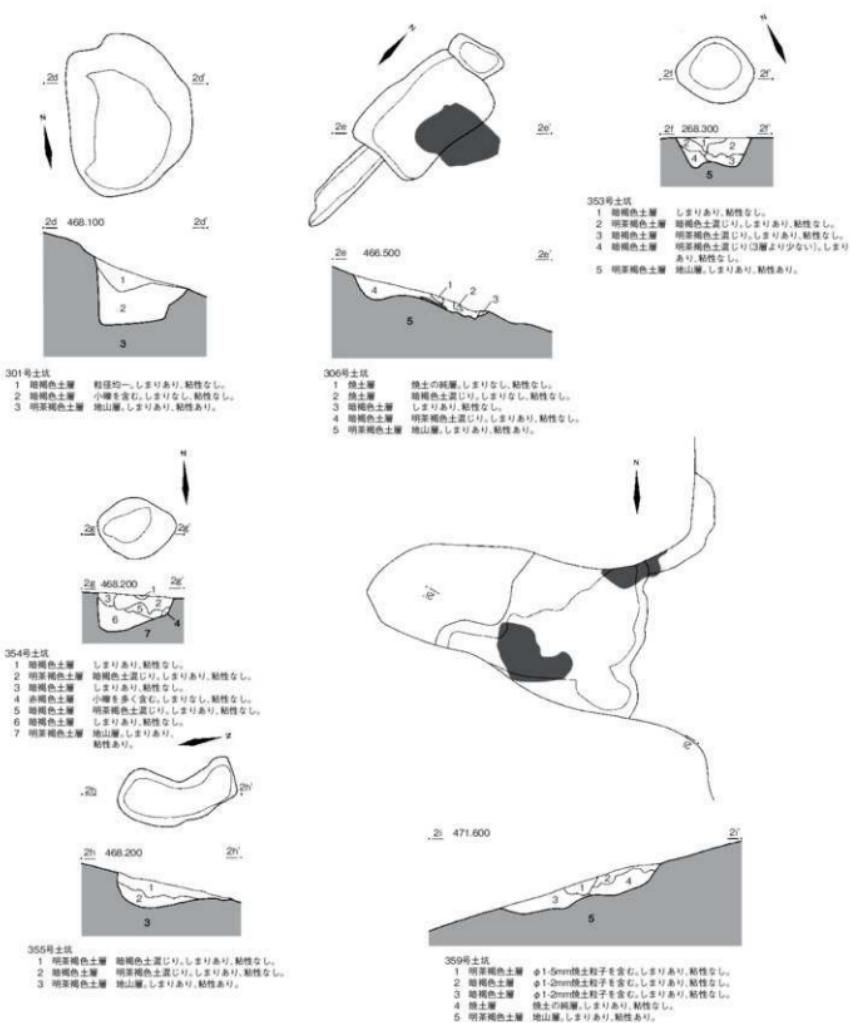
第15図 2区北側平面図 (H～J-9～12グリッド)



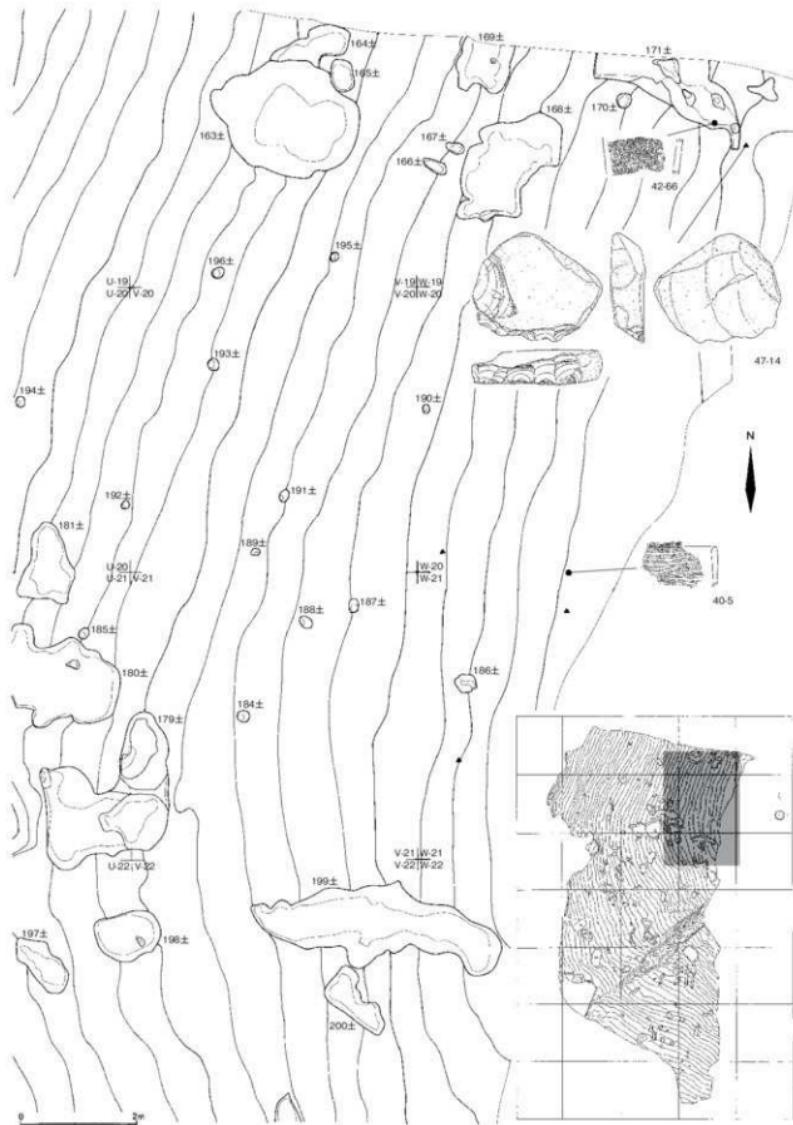
第16図 2区北側平面図 (G~J-11~14グリッド)



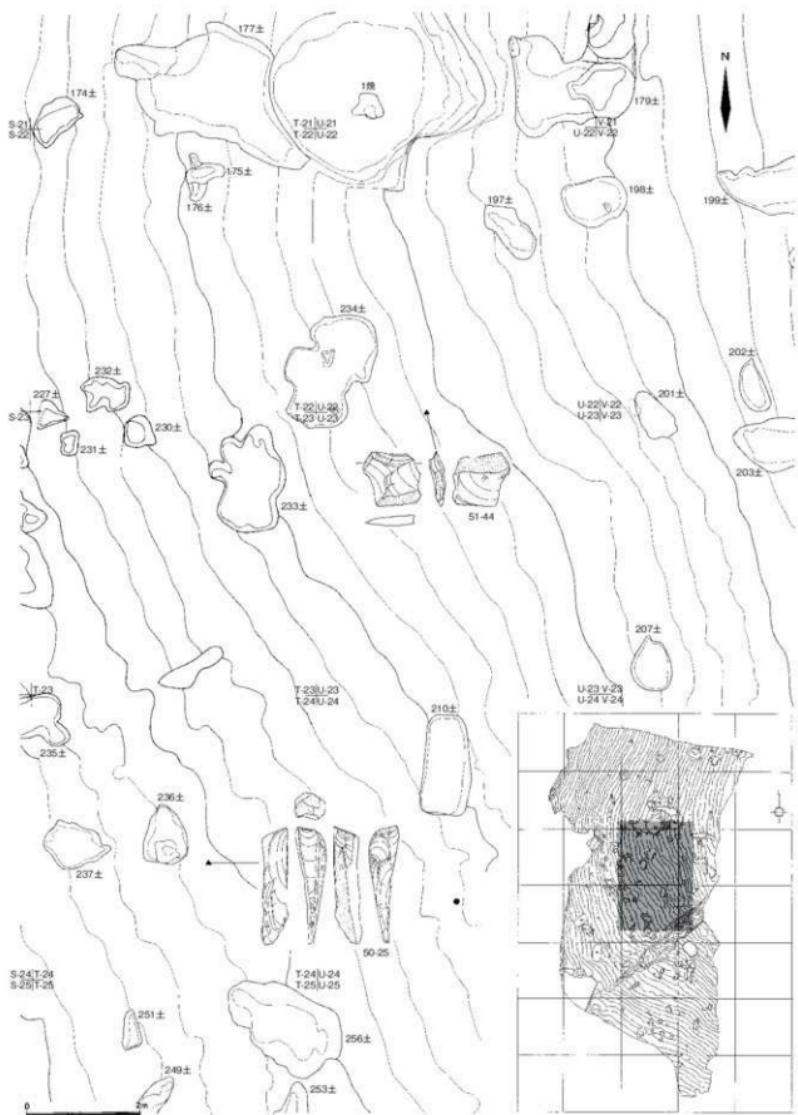
第17図 2区南側平面図 (L～N-15～18グリッド)



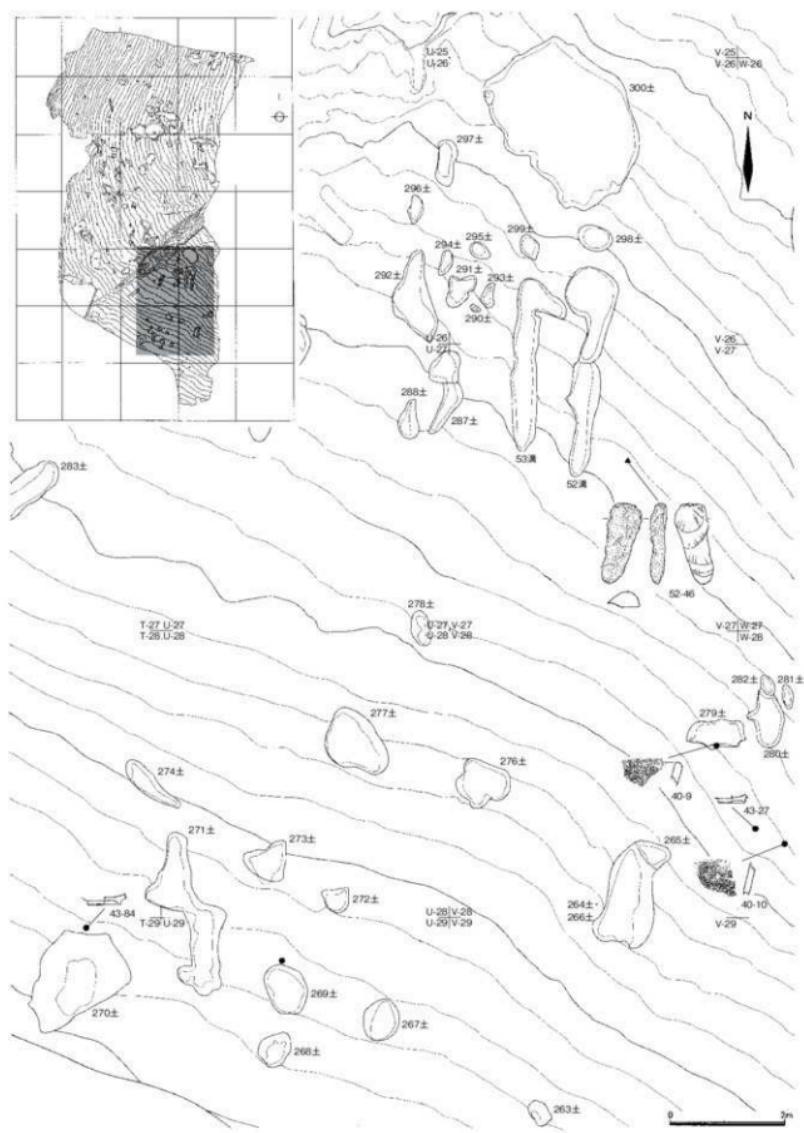
第18図 2区遺構平面・断面図



第19図 3区平面図 (U~X-19~22グリッド)



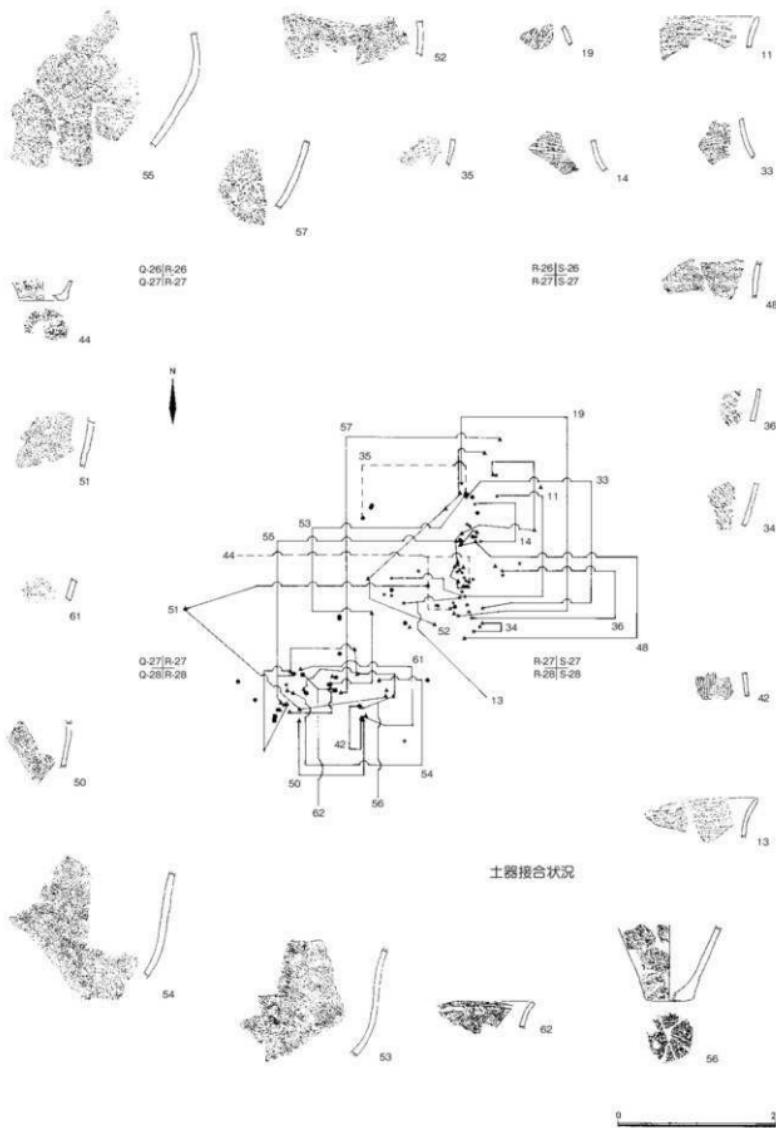
第20図 3区平面図 (T～V-21～25グリッド)



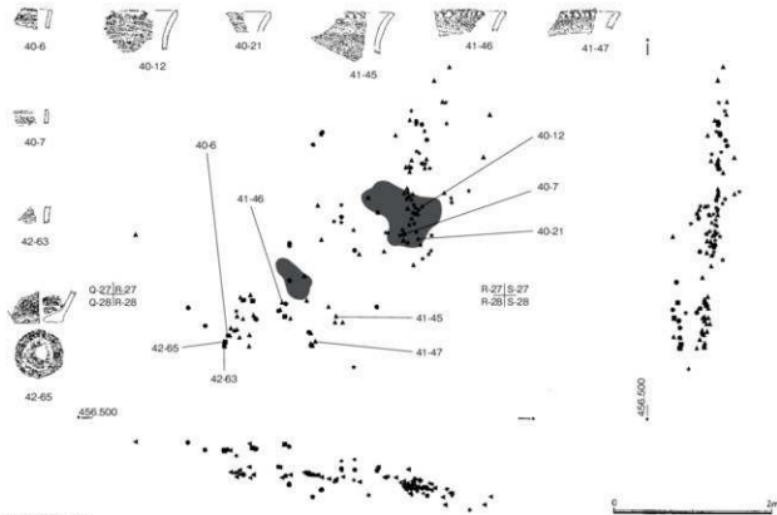
第21図 3区平面図 (T~W-26~29グリッド)



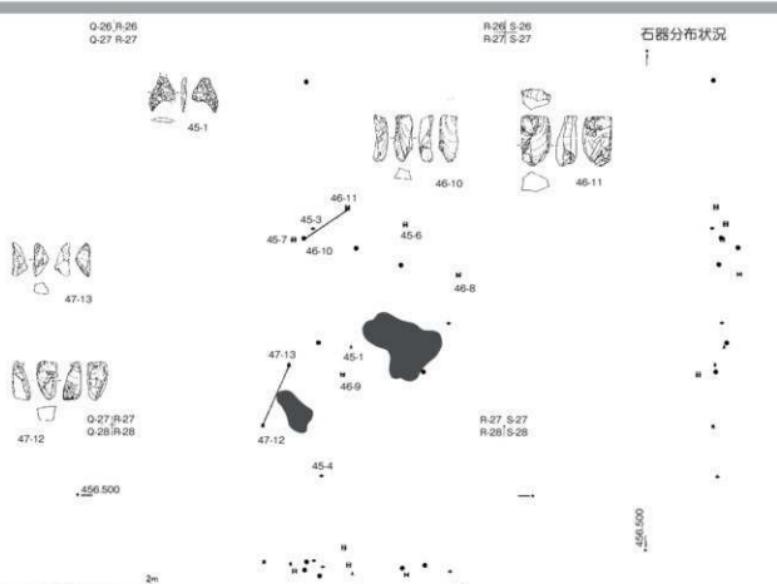
第22図 3区1号住居状遺構 平面・断面図



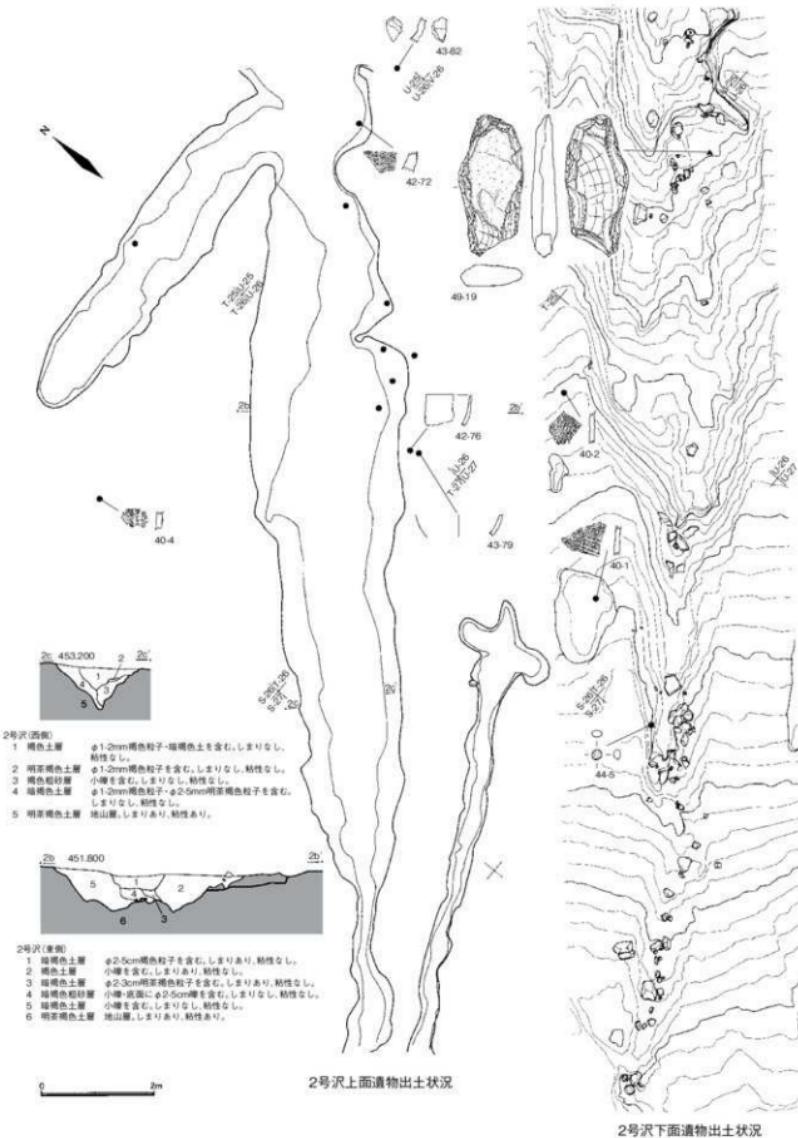
第23図 3区1号住居状遺構 遺物分布図 1



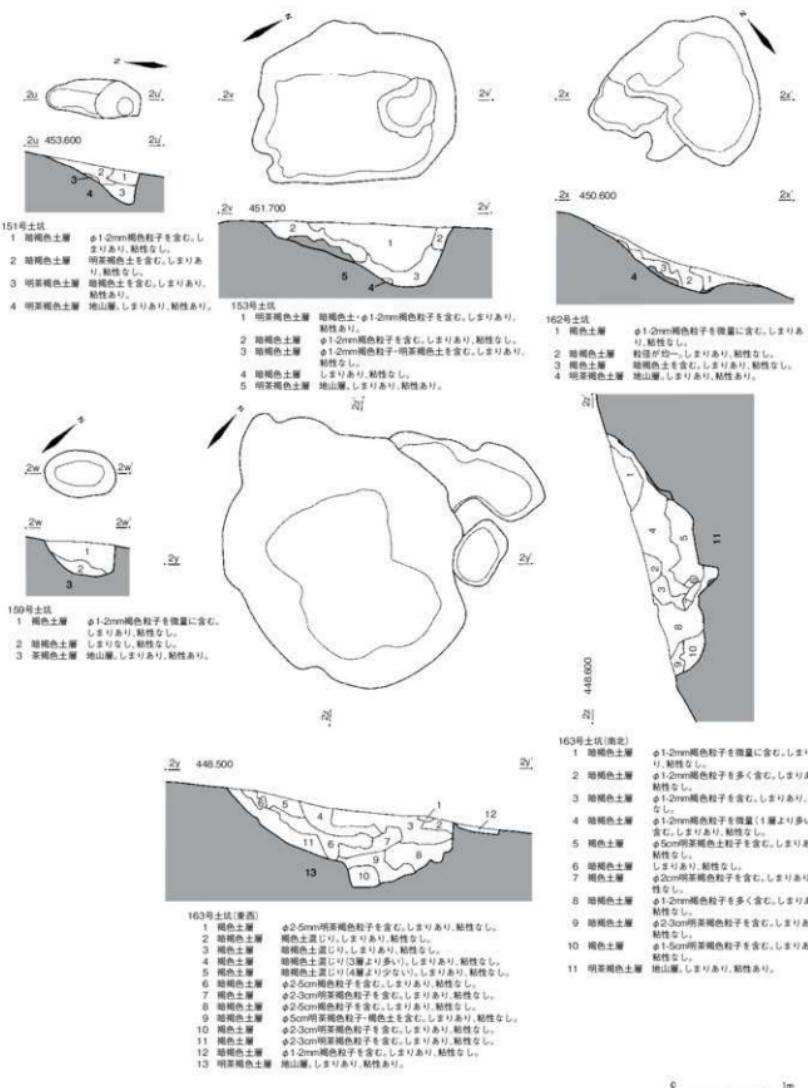
土器分布状况



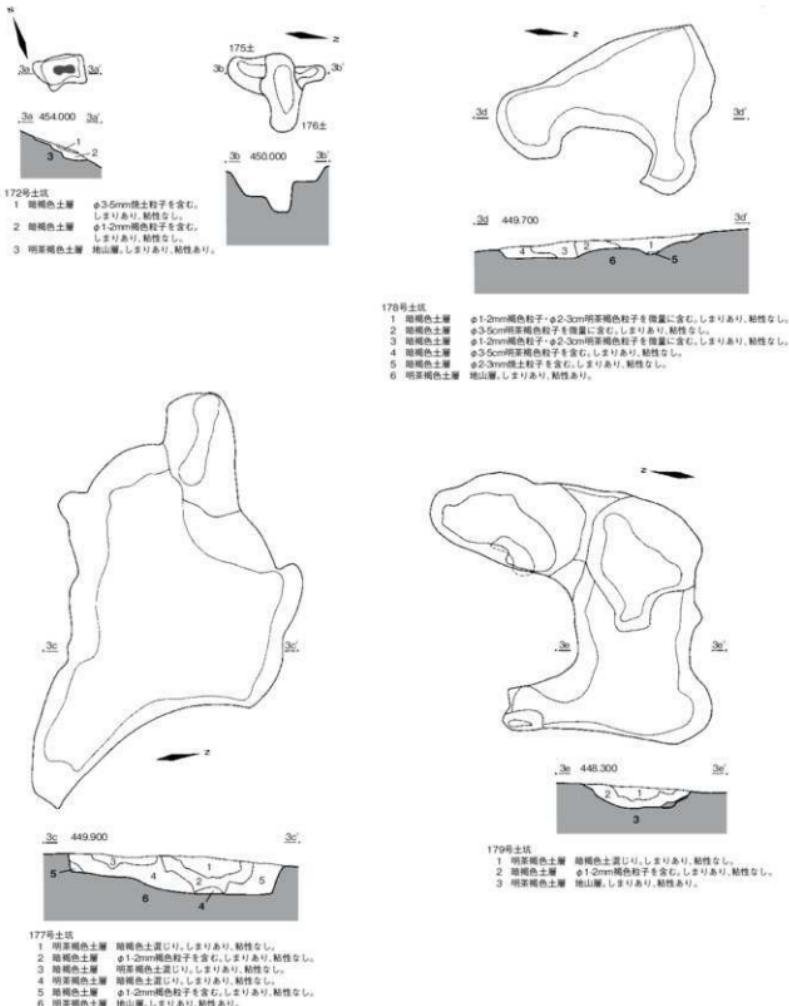
第24図 3区1号住居状遺構 遺物分布図2



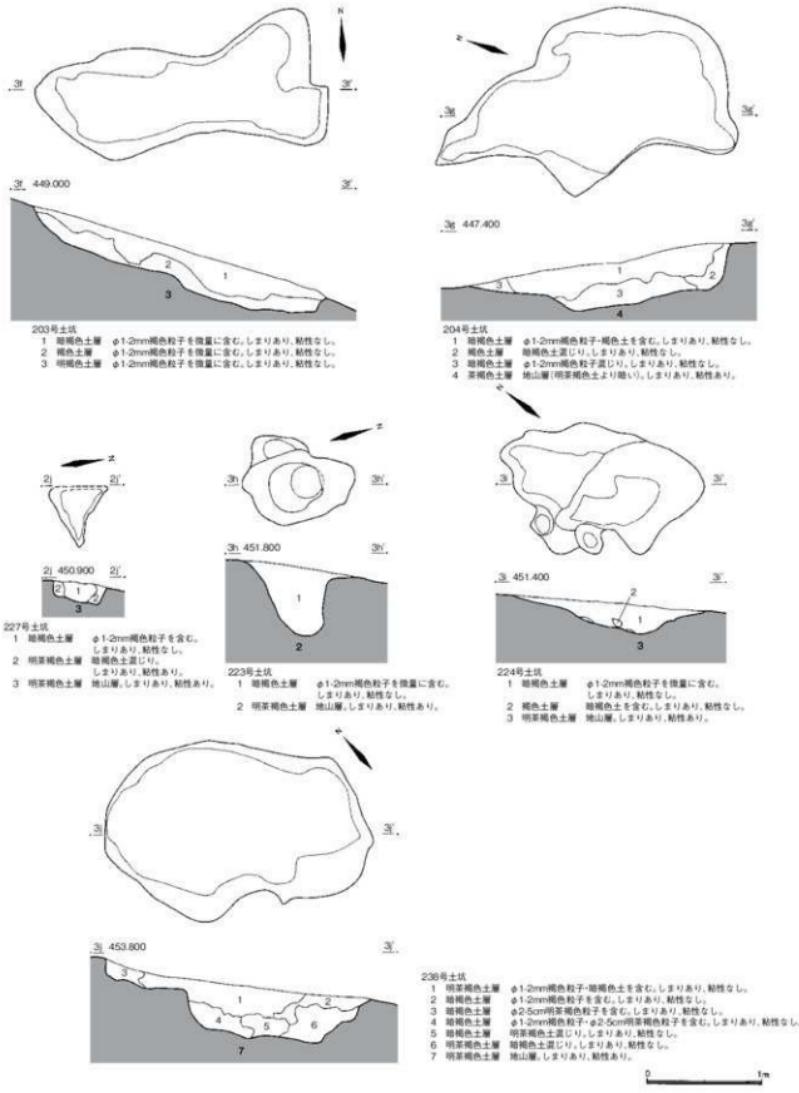
第25図 3区 2号沢平面・断面図



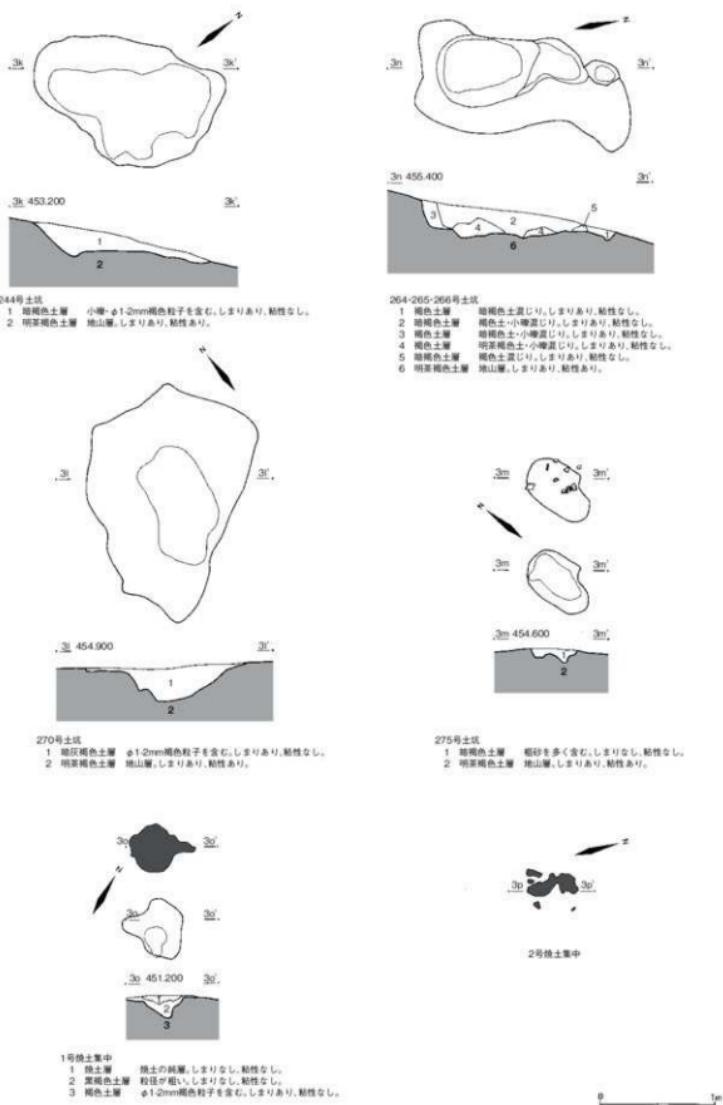
第26図 3区遺構平面・断面図 1



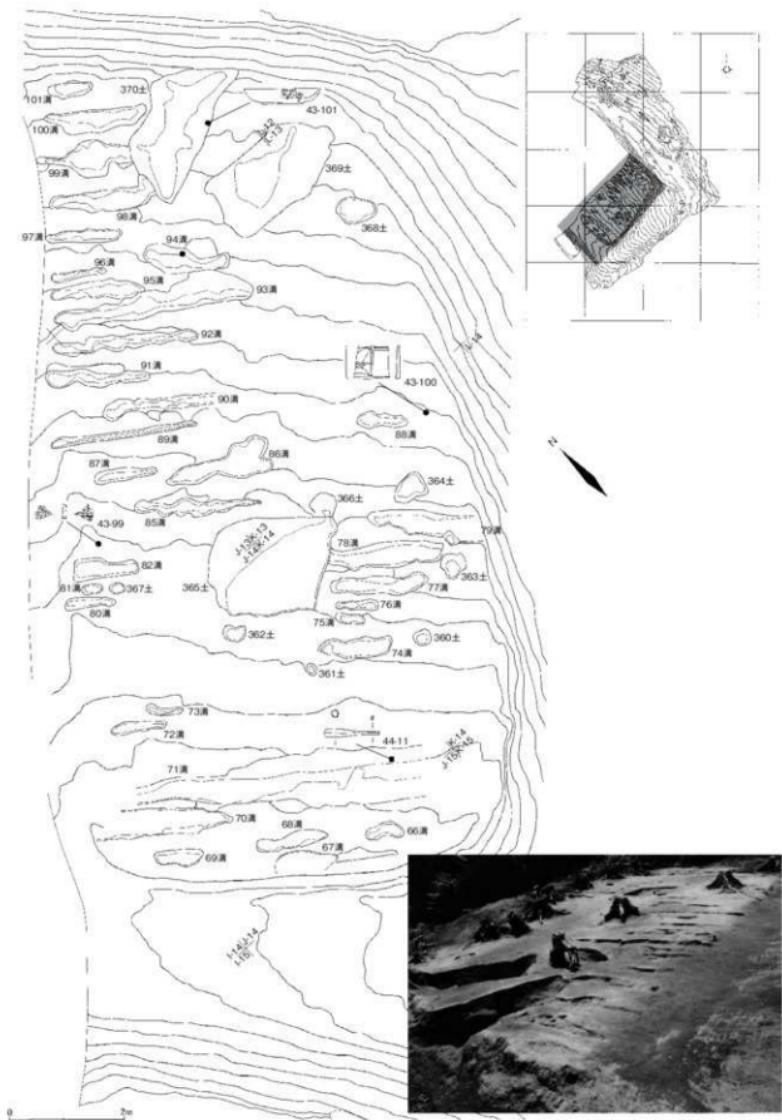
第27図 3区造構平面・断面図2



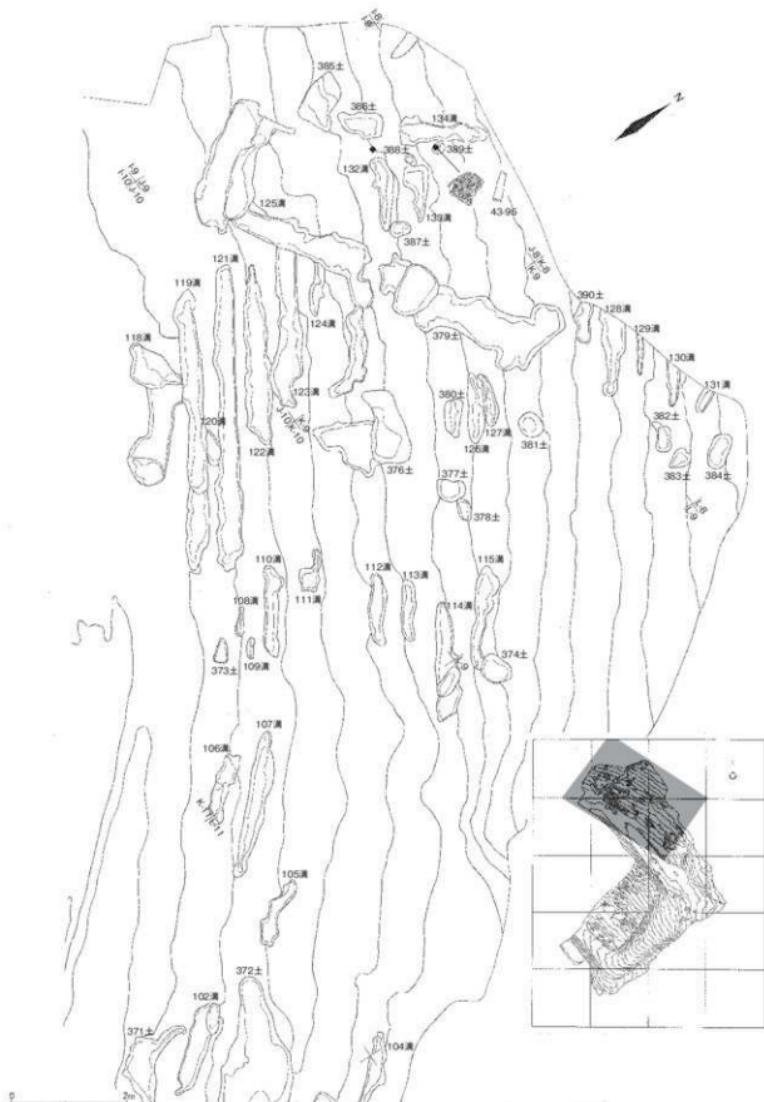
第28図 3区遺構平面・断面図 3



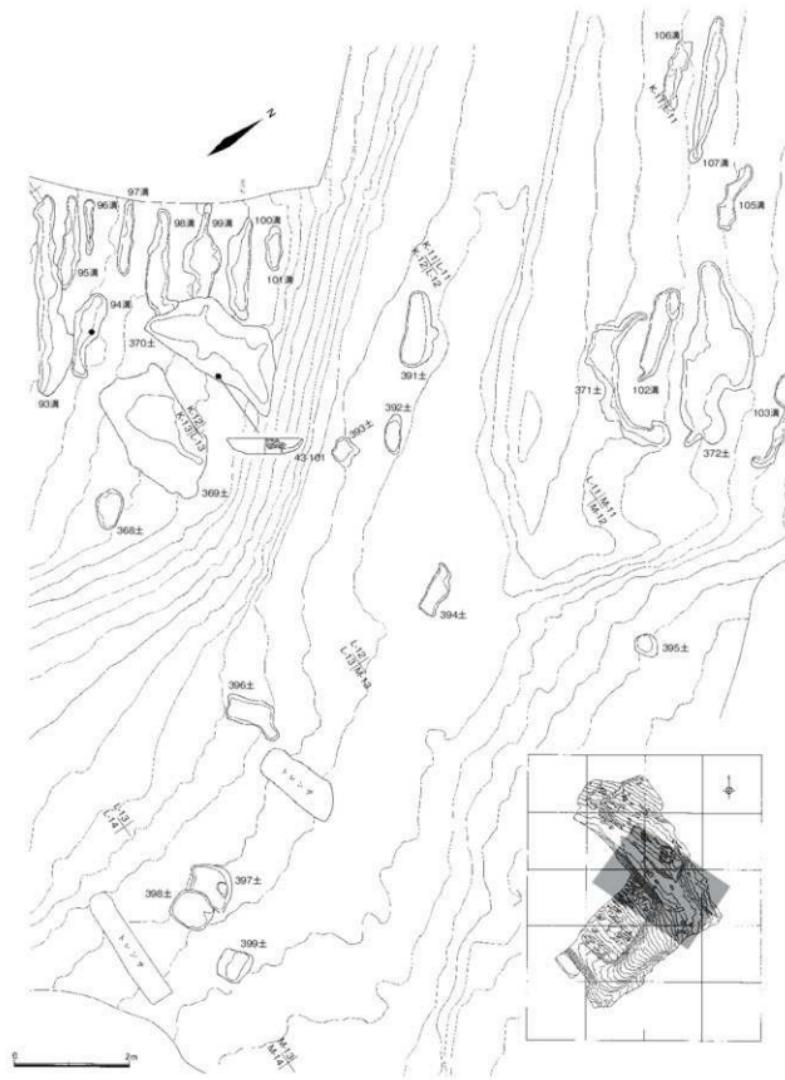
第29図 3区構造平面・断面図 4



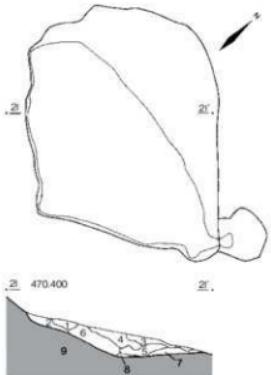
第30図 4区平面図 (I ~ L - 12~15グリッド)



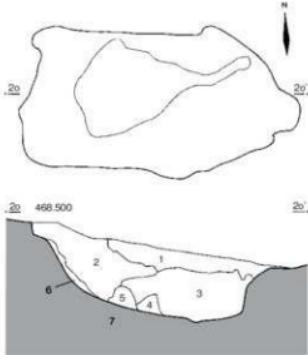
第31図 4区平面図 (I ~ L - 8 ~ 11グリッド)



第32図 4区平面図 (K~M-10~14グリッド)

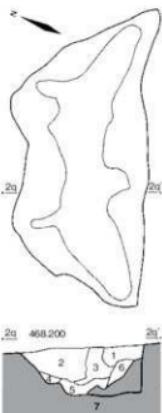


365号土地



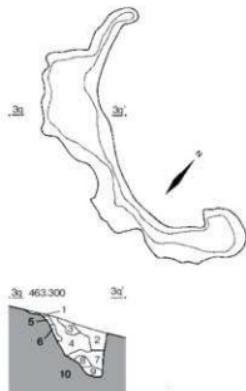
389号土3

- 1 明茶褐色土層 暗褐色土じまい。しまりあり、粘性あり。  
2 黒褐色土層 暗褐色土じまい。しまりあり、粘性なし。  
3 黑褐色土層 暗褐色土じまい(2層目)。しまりあり、粘性なし。  
4 暗褐色土層 pH=2.3mm明茶褐色粒子を含む。しまりあり、粘性なし。  
5 暗褐色土層 明茶褐色土じまい。しまりあり、粘性なし。  
6 暗褐色土層 pH=2.3mm明茶褐色粒子を含む。しまりあり、粘性なし。  
7 明茶褐色土層 地山層。しまりあり、粘性あり。



370 魏士仁

- 1 明茶褐色土層 暗灰褐色土を微量に含む。しまりあり、粘性なし。  
2 黒褐色土層  $\phi 1.2\text{mm}$ 明茶褐色粒子を微量に含む。しまりあり、粘性なし。  
3 地灰褐色土層 明茶褐色土置じり。しまりあり、粘性なし。  
4 地暗褐色土層 明茶褐色土置じり。しまりあり、粘性なし。  
5 明茶褐色土層 暗灰褐色土を含む。しまりあり、粘性あり。  
6 明茶褐色土層 暗灰褐色土を微量に含む。しまりあり、粘性あり。  
7 明茶褐色土層 地山層。しまりあり、粘性あり。



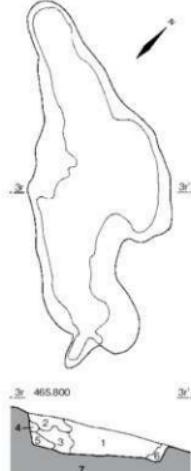
371博士

- 1 暗褐色土層 しまりあり、粘性なし。  
2 明茶色土層 暗褐色土を含む。しまりなし、粘性あり。  
3 柿褐色土層  $\mu$ 1.2cm明茶色粒子を含む。しまりなし、粘性なし。

4 暗褐色土層 暗褐色土を混じり。しまりあり、粘性なし。  
5 無色土層 しまりなし、粘性なし。  
6 黒褐色土層 明茶色土を混じり。しまりあり、粘性なし。  
7 反射色土層  $\mu$ 1.2cm明茶色粒子を混じる。しまりなし、粘性なし。

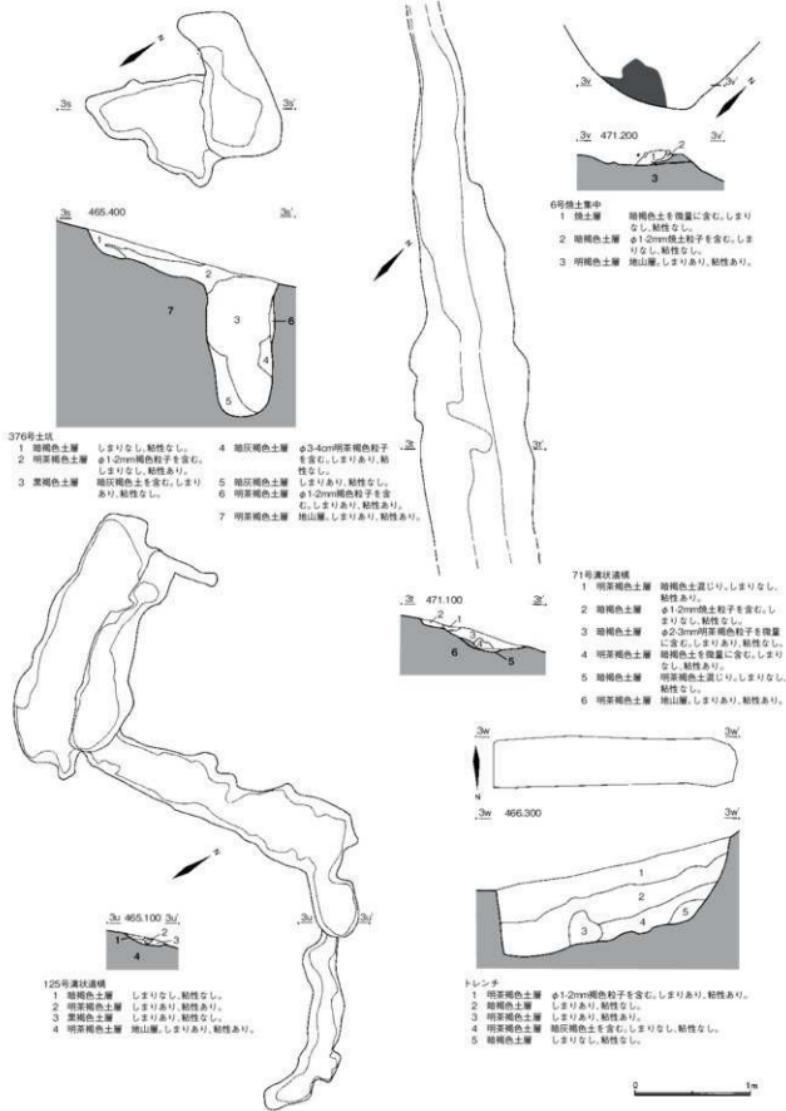
8 黑褐色土層 しまりあり、粘性なし。  
9 暗褐色土層  $\mu$ 2.3cm明茶色粒子を含む。しまりあり、粘性なし。

10 明茶色土層 地層上。しまりあり、粘性あり。

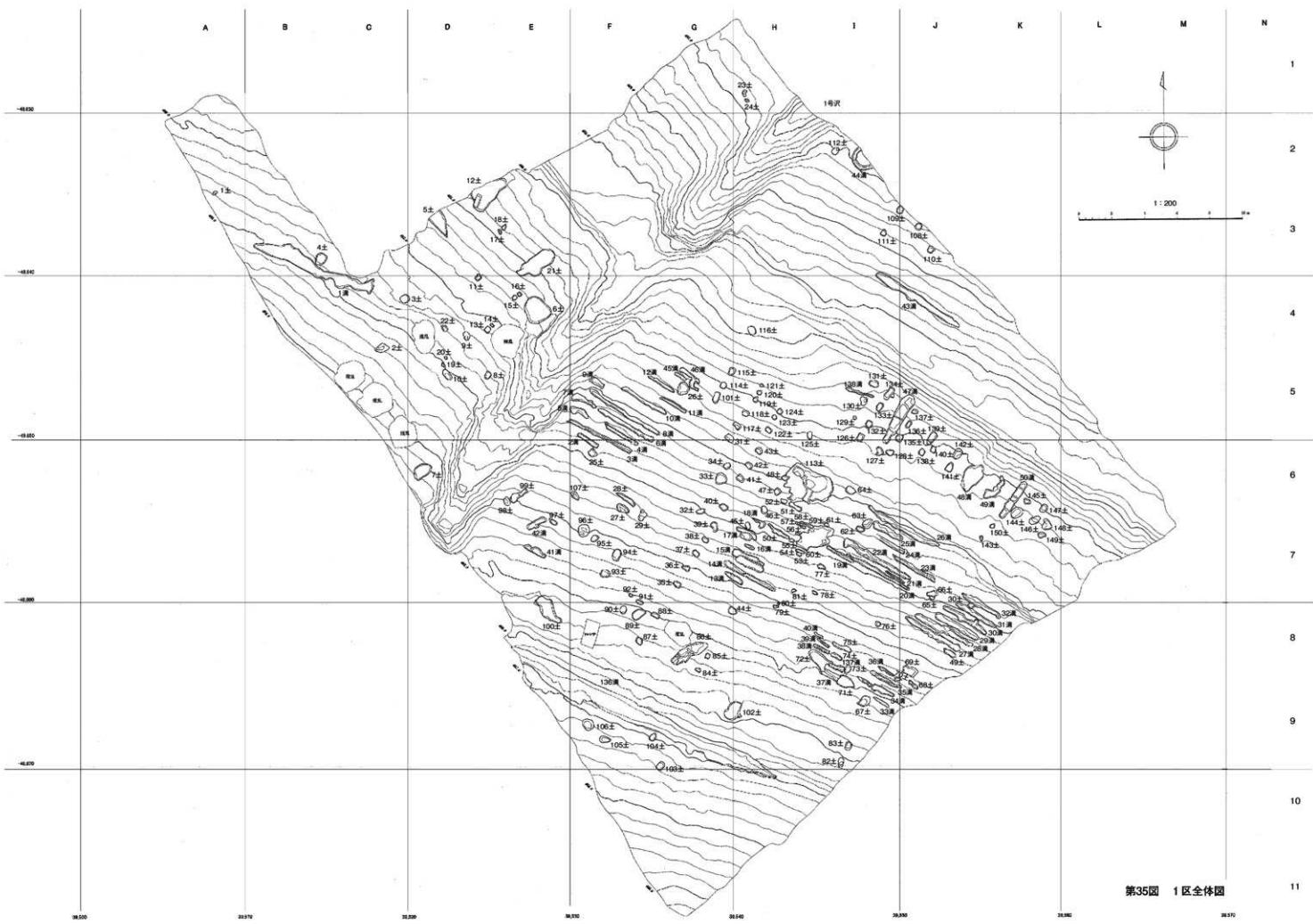


四〇〇

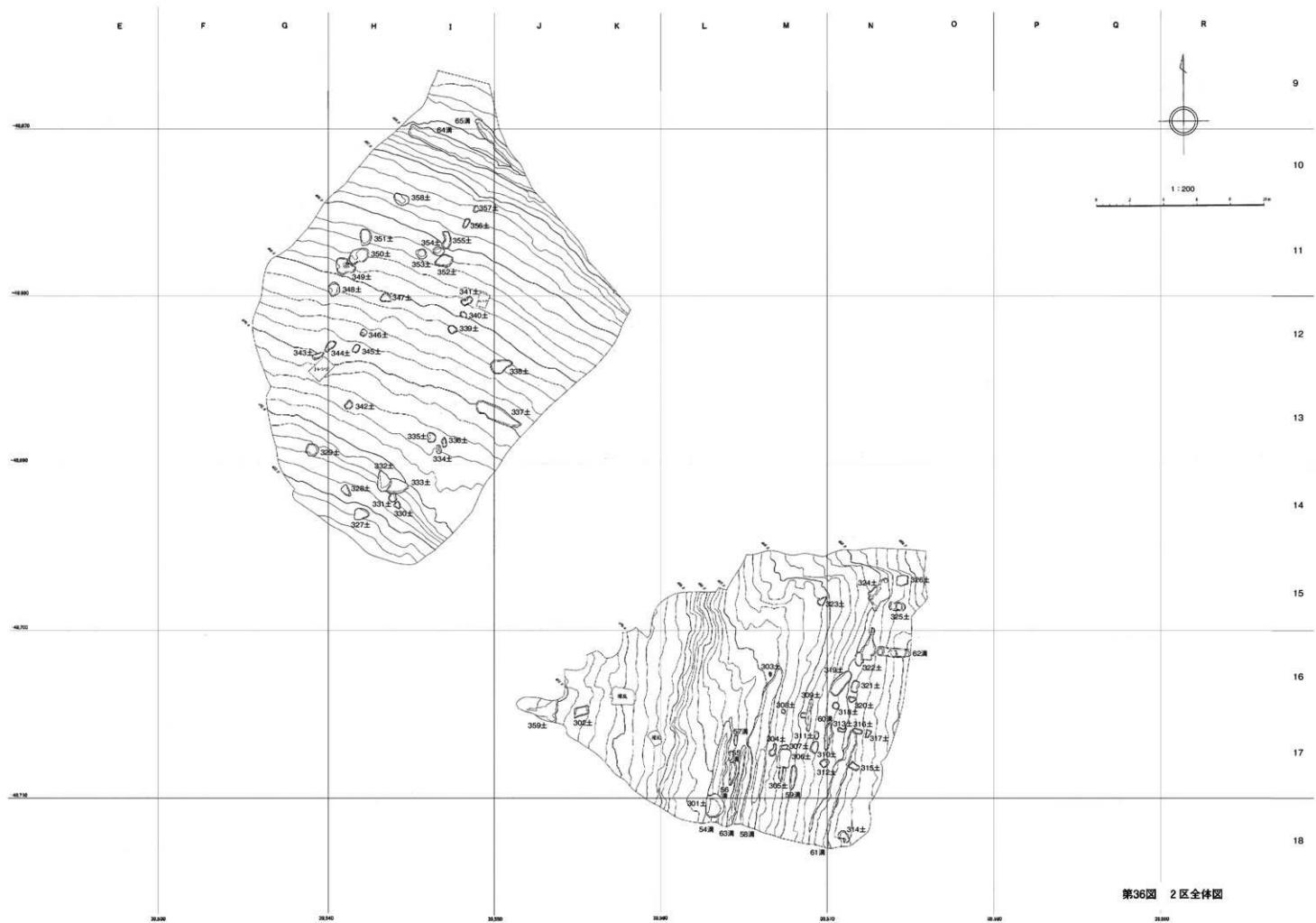
- 372種子土  
1 黑褐色土層  $\phi 2\text{--}3\text{cm}$ 明茶褐色土 - 黑褐色土を幾量にしまりあり。粘性なし。  
2 明茶褐色土層 細粒褐色土を幾量に含む。しまりあり。粘性あり。  
3 細粒褐色土層 明茶褐色土混じり。しまりあり。粘性なし。  
4 黏褐色土層 細粒褐色土を含む。しまりあり。粘性なし。  
5 明茶褐色土層 粘褐色土を含む。しまりあり。粘性なし。  
6 明茶褐色土層 明茶褐色土含む。しまりなし。粘性なし。  
7 明茶褐色土層 地山層。しまりあり。粘性なし。



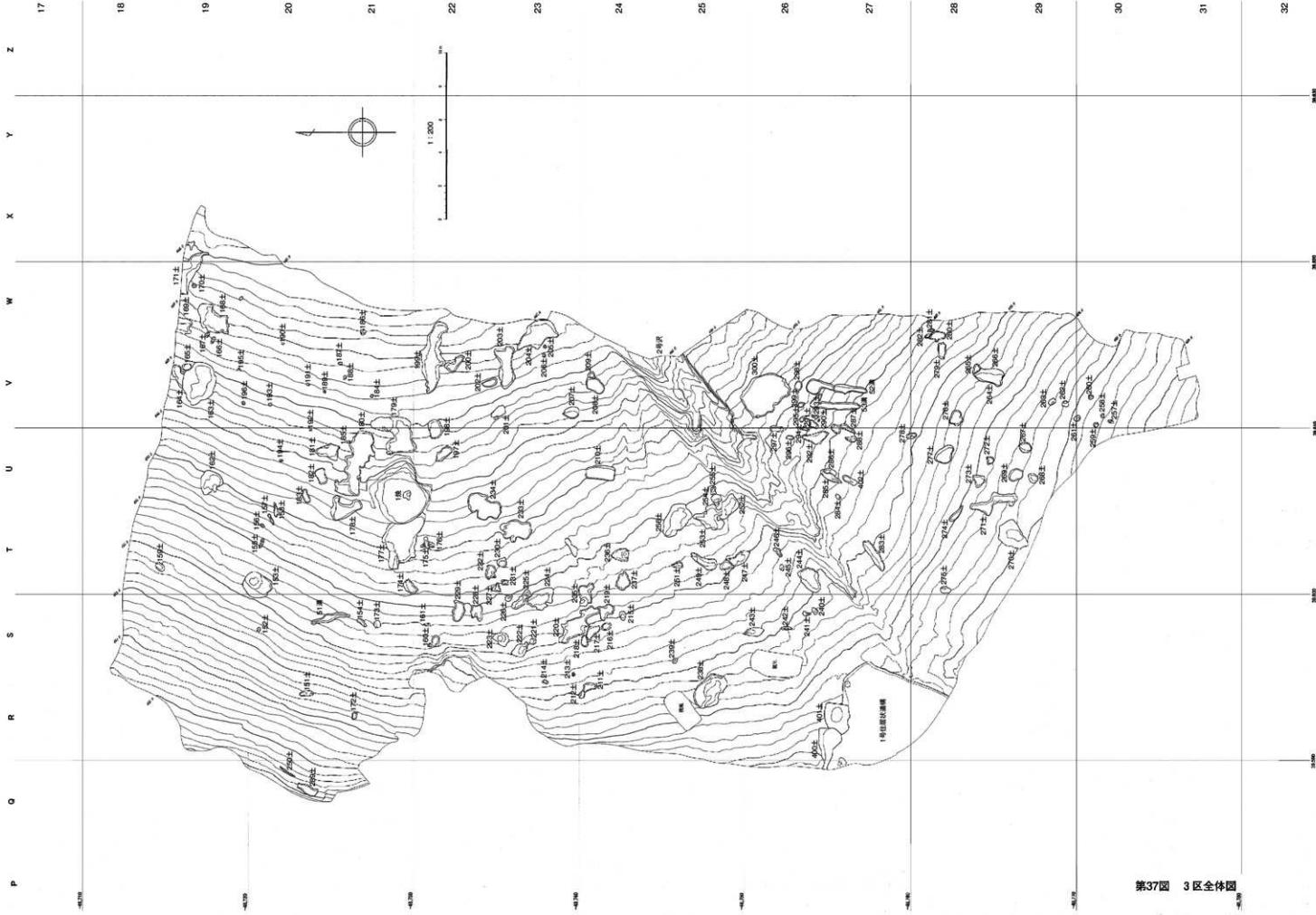
第34図 4区造構平面・断面図 2



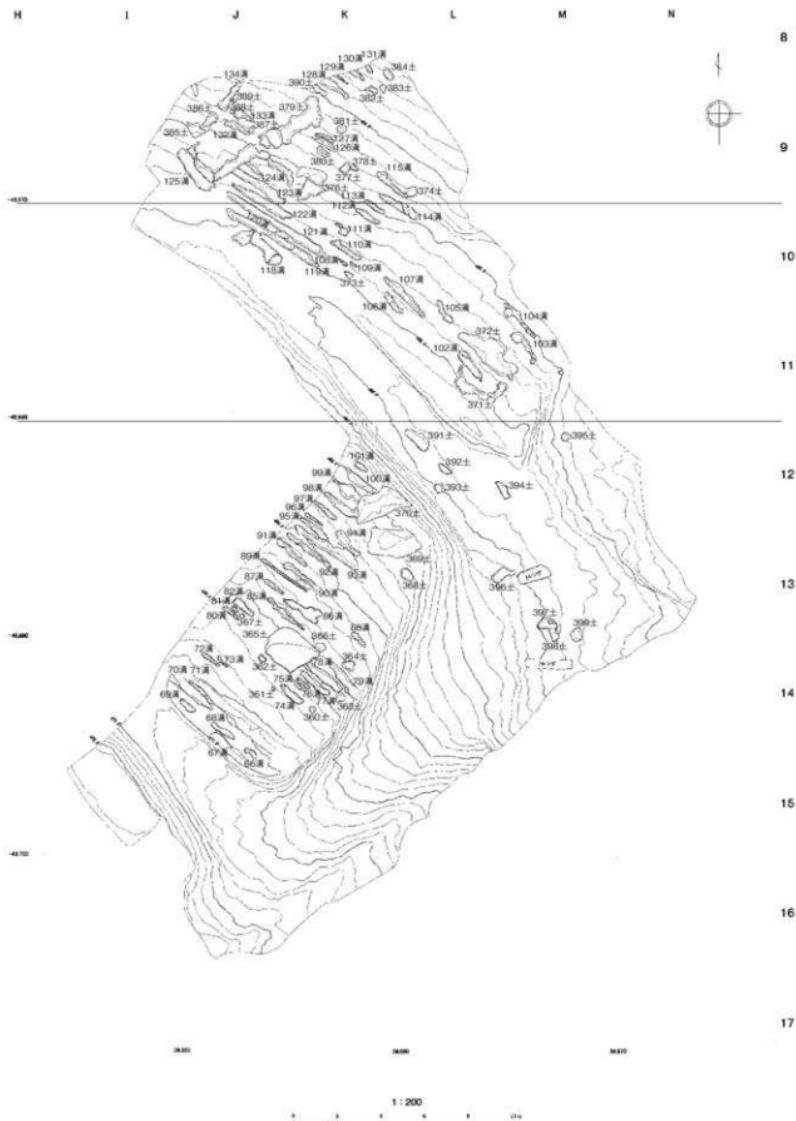
第35図 1区全体図



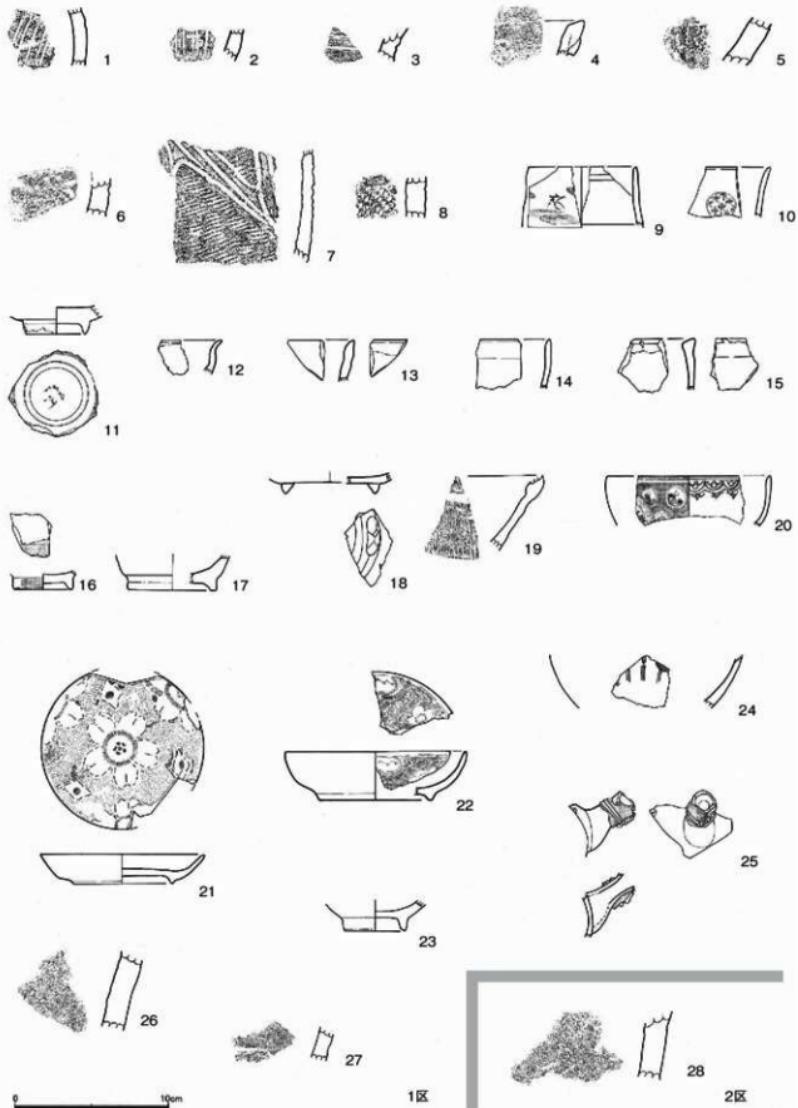
第36図 2区全体図



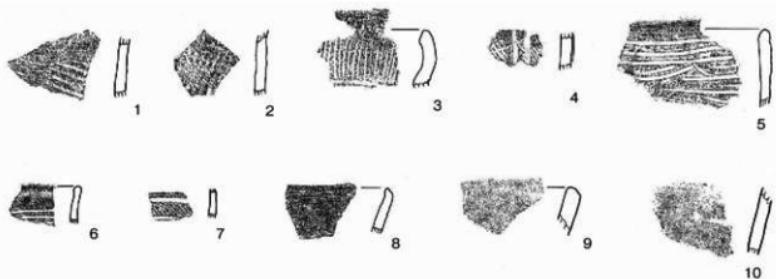
第37図 3区全体図



第38図 4区全体図

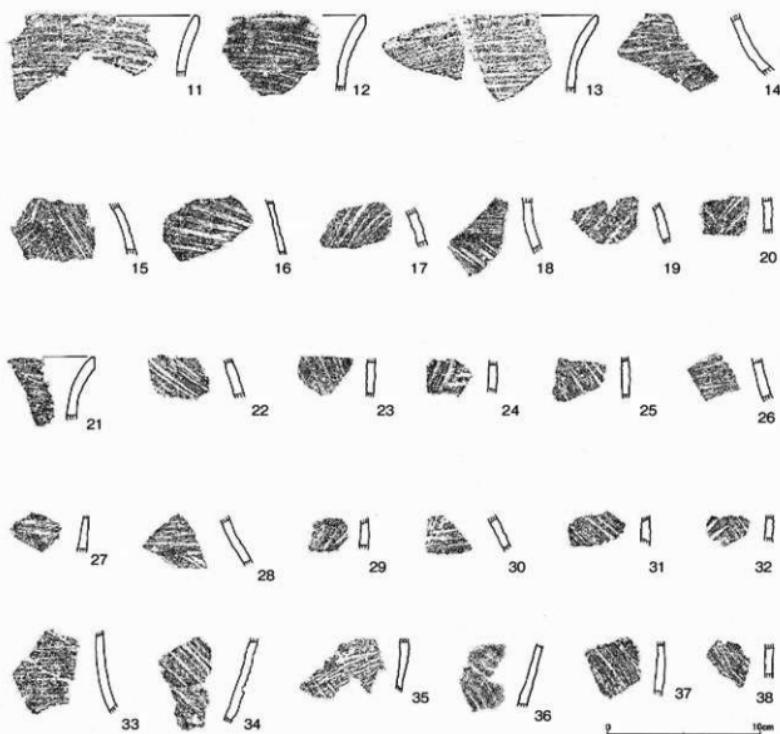


第39図 1・2区出土遺物（土器・陶磁器）

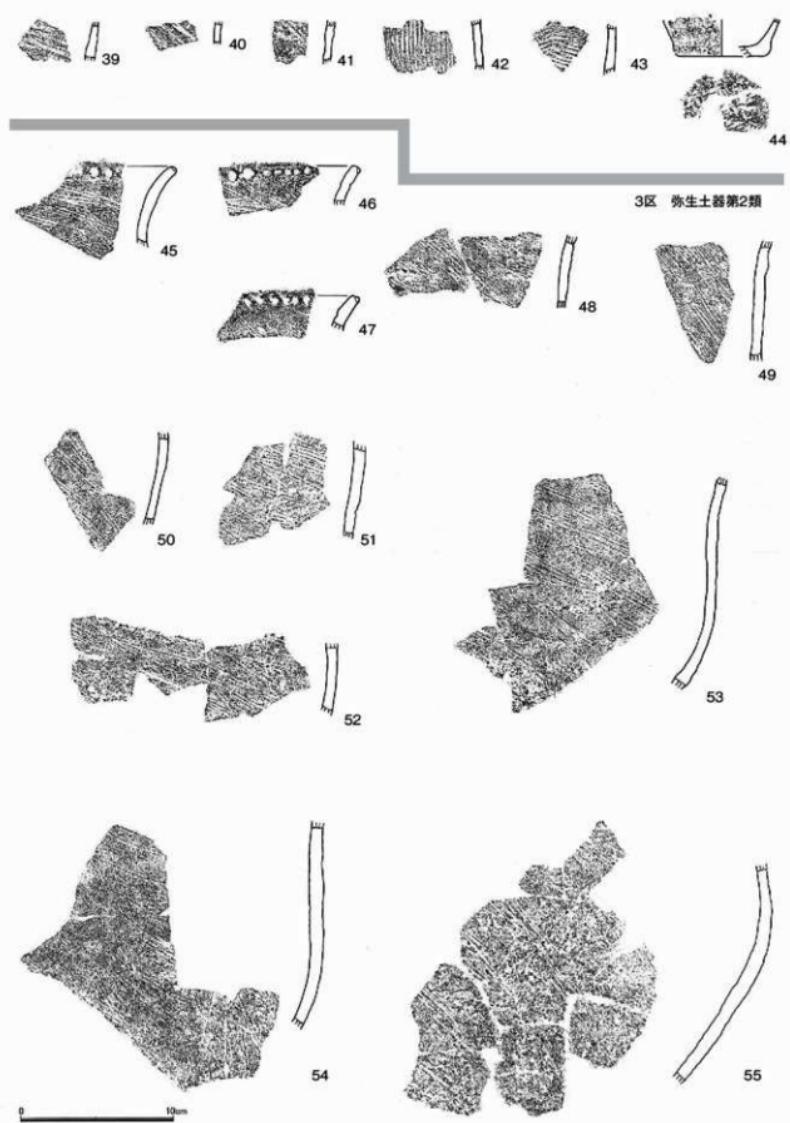


3区 繩文・弥生土器

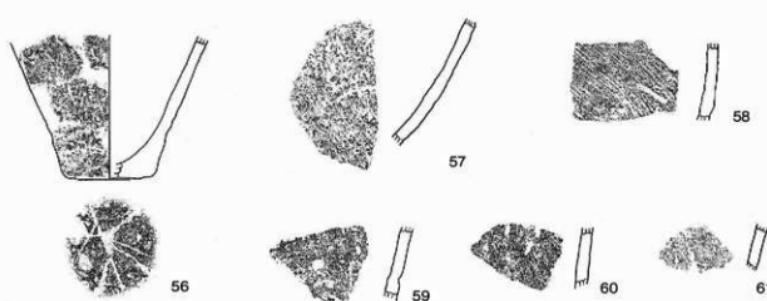
3区 弥生土器第1類



第40図 3区出土遺物1 (土器・陶磁器)



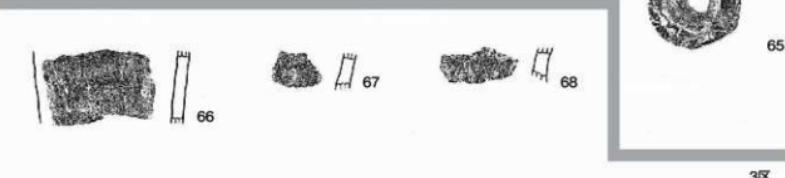
第41図 3区出土遺物2 (土器・陶磁器)



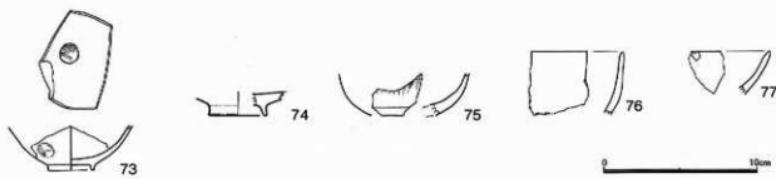
3区 弥生土器第2類



3区 弥生土器第3類



3区

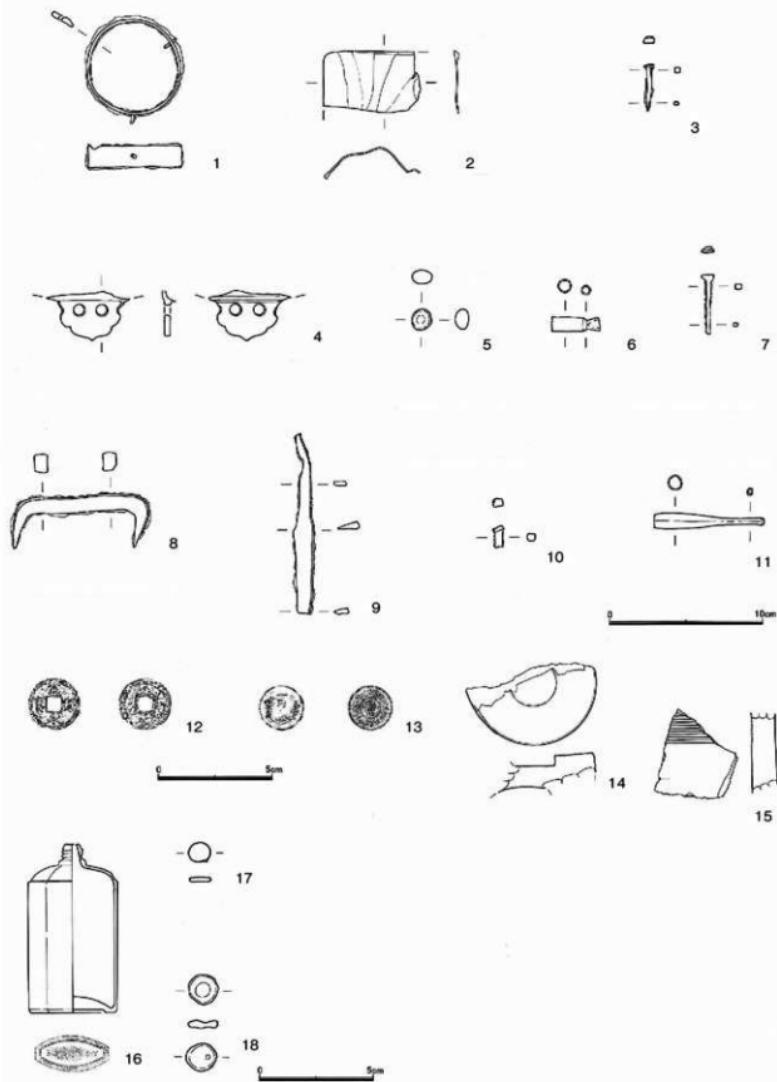


0 10cm

第42図 3区出土遺物3（土器・陶磁器）



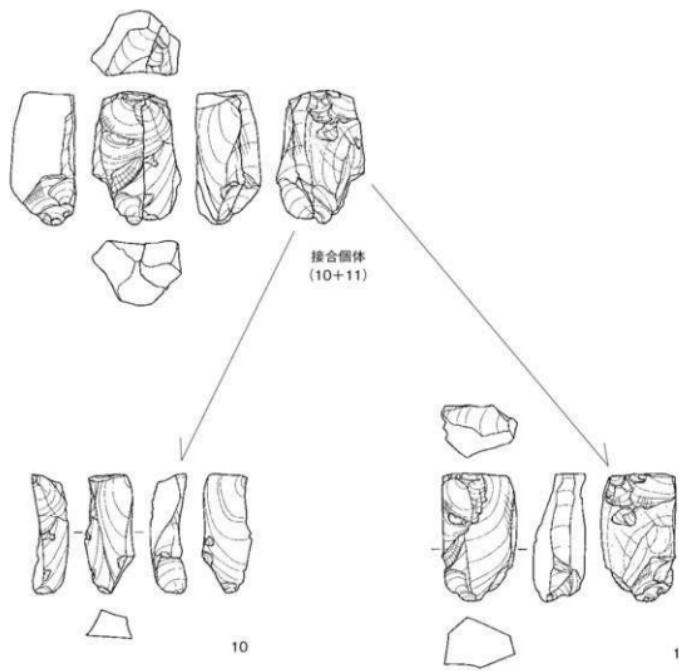
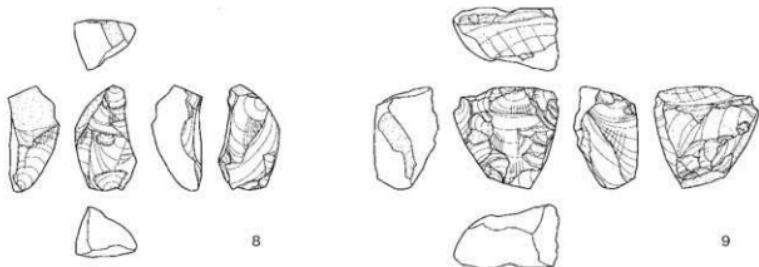
第43図 3区出土遺物 4・4区・試掘等出土遺物（土器・陶磁器）



第44図 金属製品等

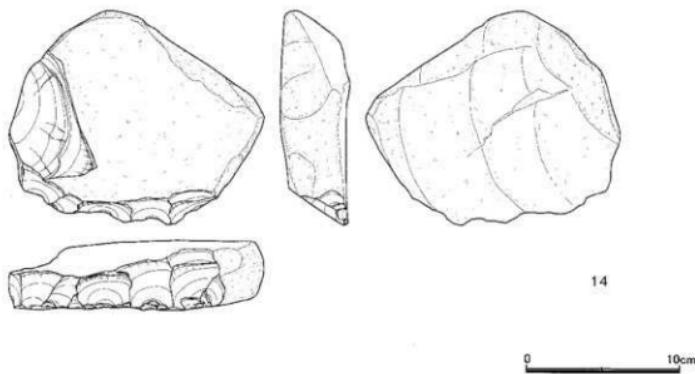
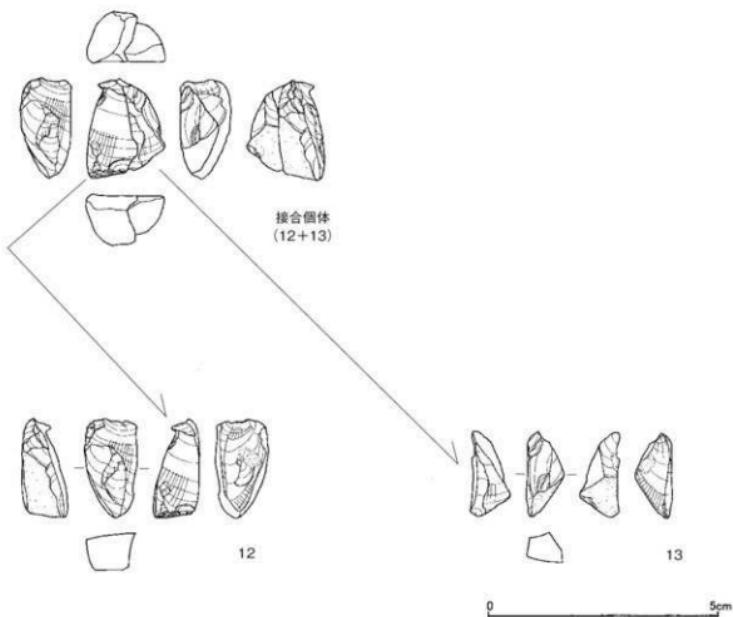


第45図 石製品1

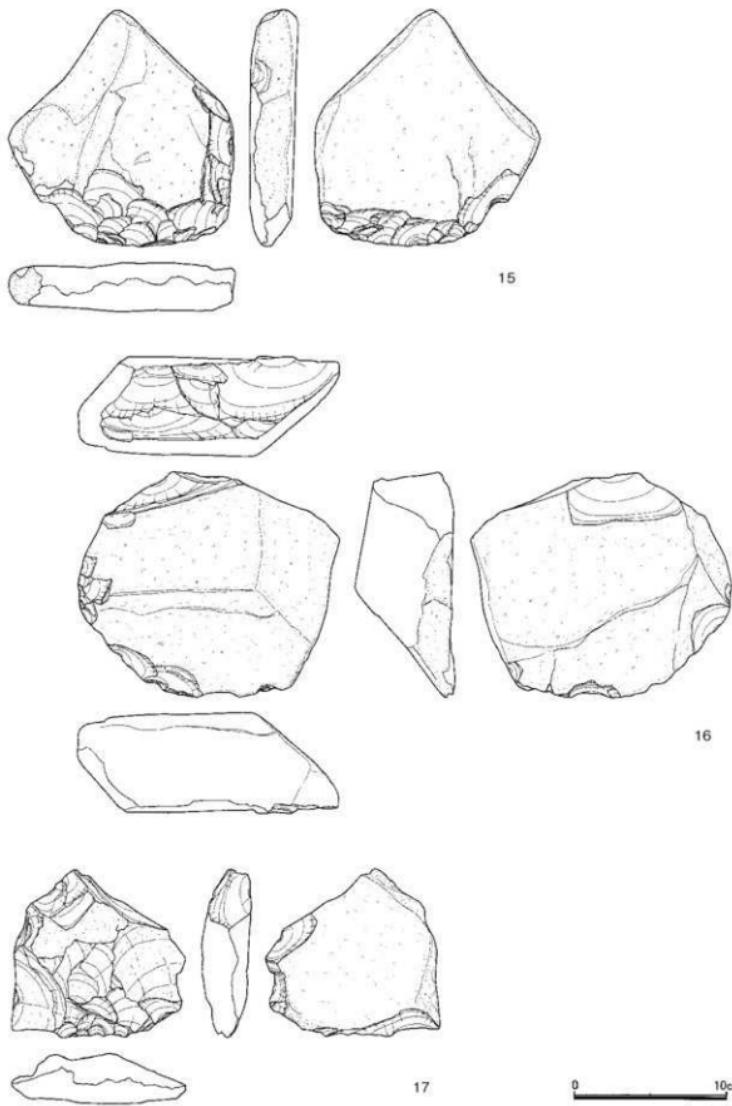


0 5cm

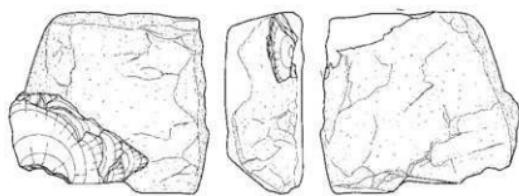
第46図 石製品2



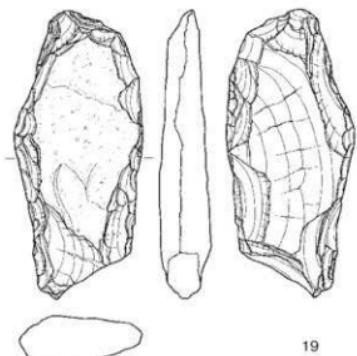
第47図 石製品3



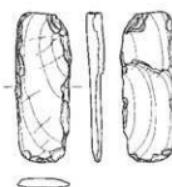
第48図 石製品4



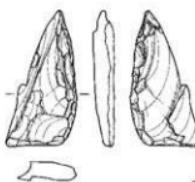
18



19



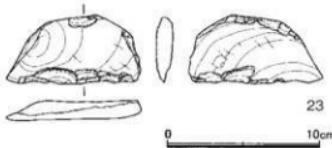
20



21

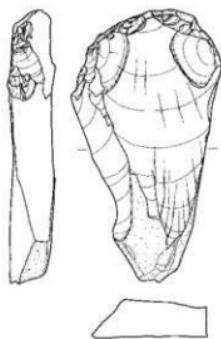


22

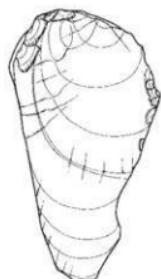


23

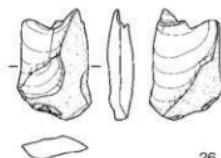
第49図 石製品5



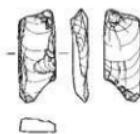
24



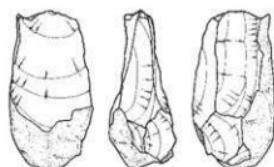
25



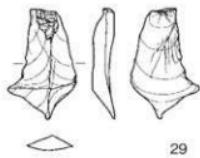
26



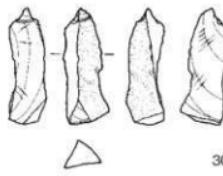
27



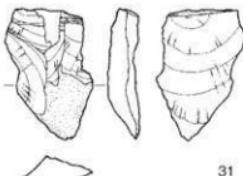
28



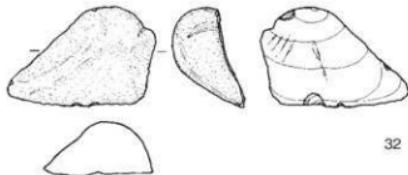
29



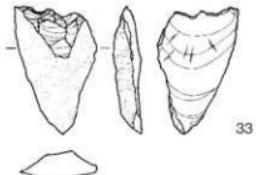
30



31

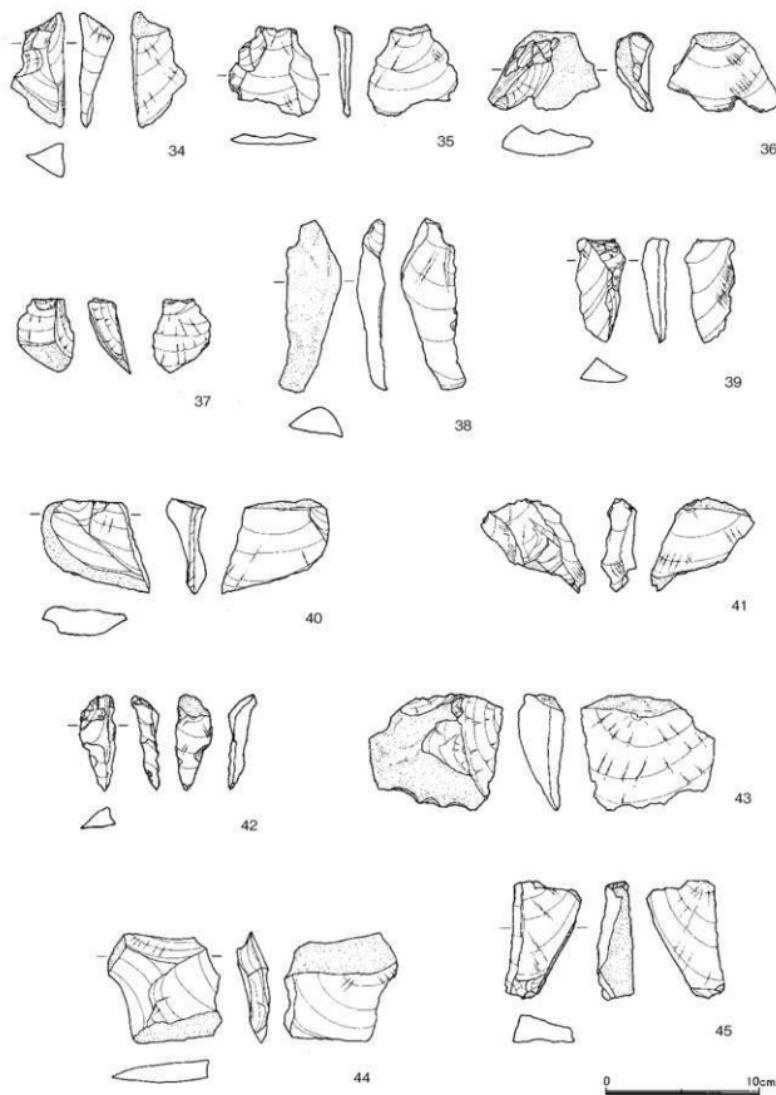


32

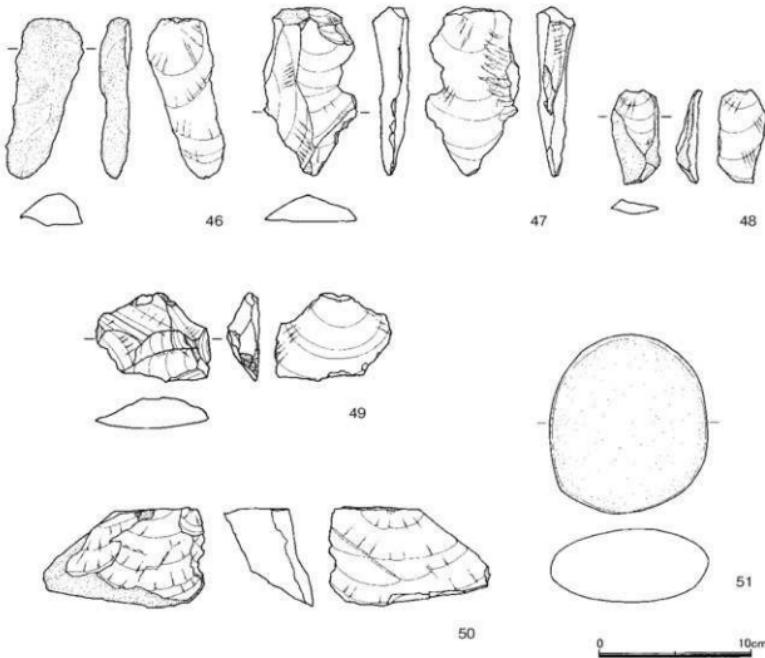


33

第50図 石製品6



第51図 石製品7



第52図 石製品 8



3区遠景



弥生土器 第1類



弥生土器 第2類



弥生土器 第3類

## 写真図版



完掘状況 (F-5グリッド)



完掘状況 (F・G-5グリッド)



完掘状況 (G・H-6・7グリッド)



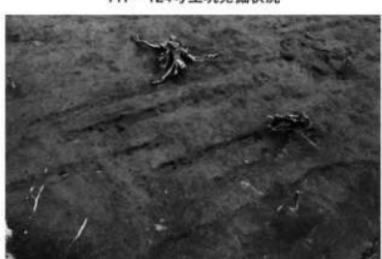
35~43号土坑完掘状況



117~124号土坑完掘状況



113号土坑完掘状況



完掘状況 (I-7グリッド)



完掘状況 (J-8グリッド)

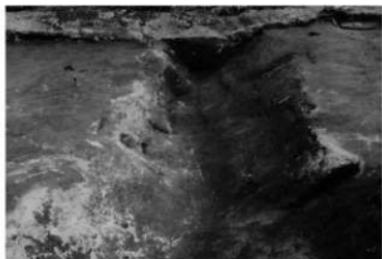
図版2 1区調査2



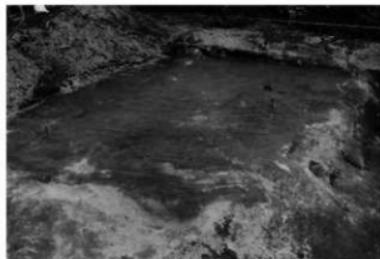
1号沢西南側完掘状況



1号沢半截状況



1号沢北東側完掘状況



完掘状況(H-1グリッド)



136号溝状造構完掘状況



136号溝状造構完掘状況



136号溝状造構半截状況(北側)



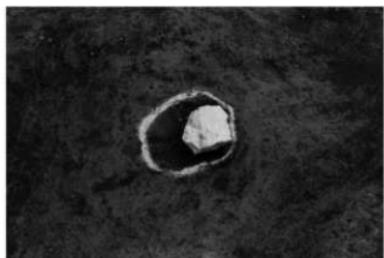
136号溝状造構半截状況(南側)



6号土坑半截状况



6号土坑 遗物出土状况



3号土坑 检出状况



2号土坑 检出状况



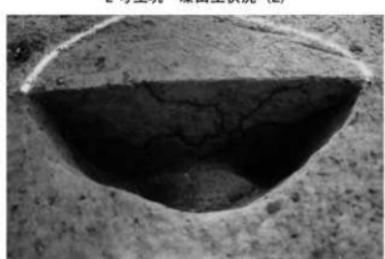
2号土坑 碟出土状况 (1)



2号土坑 碟出土状况 (2)



86号土坑完掘状况



353号土坑半截状况

図版4 2区調査2・3区調査1



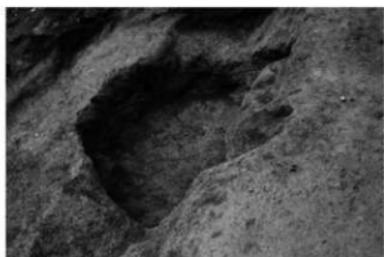
遺構検出状況（2区南側）



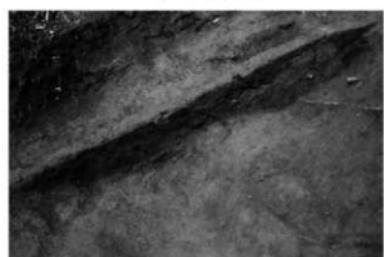
遺構完掘状況（2区南側）



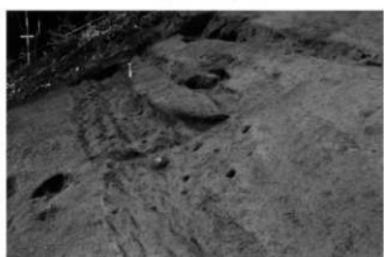
301号土坑半截状況



301号土坑完掘状況



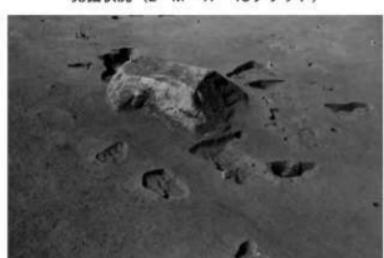
359号土坑半截状況



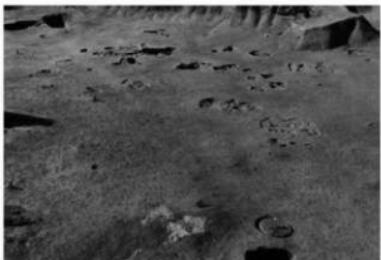
完掘状況（L・M-17・18グリッド）



完掘状況（V-19・20グリッド）



完掘状況（U-21・22グリッド）



完掘状況 (T-22・23グリッド)



完掘状況 (S・T-22・23グリッド)



2号沢完掘状況 (上面)



2号沢完掘状況 (下面)



2号沢半截状況



2号沢半截状況



2号沢半截状況



完掘状況 (V-26・27グリッド)

圖版 6 3區調查 3



1号住居状遺構 遺物出土状況



1号住居状遺構 遺物・焼土検出状況



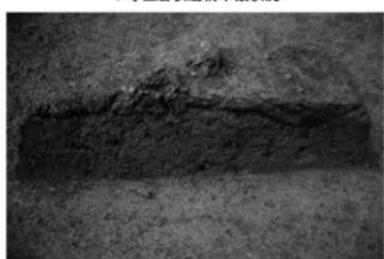
1号住居状遺構 遺物出土状況



1号住居状遺構 半截状況



1号住居状遺構 4号焼土集中半截状況



1号住居状遺構 5号焼土集中半截状況



1号住居状遺構完掘状況



199号土坑半截状況



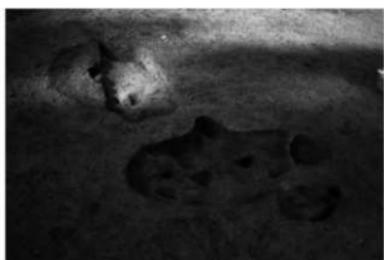
163号土坑半截状況（東西）



163号土坑半截状況（南北）



163号土坑完掘状況



279・282号土坑完掘状況



遺物出土状況



完掘状況 (K-L-14-15グリッド)

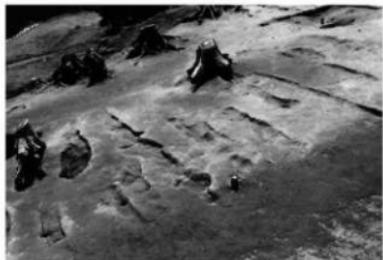


完掘状況 (J-14グリッド)

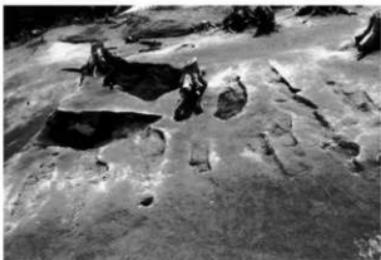


完掘状況 (J-13グリッド)

図版8 4区調査2



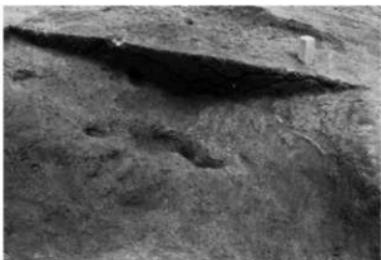
完掘状況 (K-12・13グリッド)



完掘状況 (K-12・13グリッド)



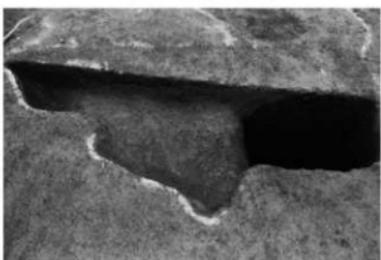
完掘状況 (J-9・10グリッド)



71号溝状遺構半截状況



369号土坑半截状況



376号土坑半截状況



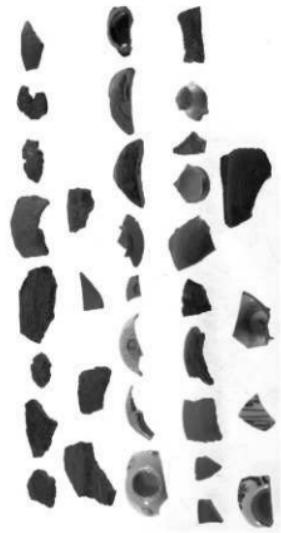
372号土坑半截状況



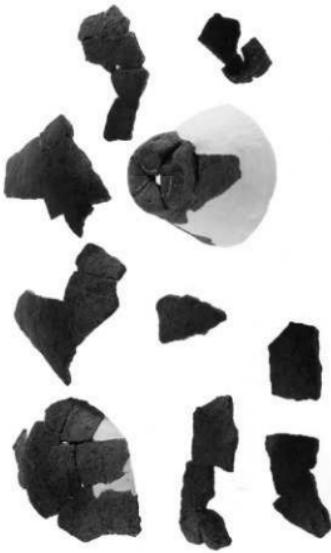
370号土坑半截状況



1·2区出土遗物



3区出土遗物



1号住居状遺構出土遺物



1号住居状遺構出土遺物

圖版10 出土遺物2



4区出土遺物

1・3区出土剝片類



1・3区出土剝片類

金属製品 (第44図4)



錢貨 (第44図12)

鉢端玉 (第44図5)



赤生土器底部 (第42図55)



赤生土器底部 (第42図46)



第45図1



第45図4



第46図11



第46図10



第45図6



第45図3



第45図7



第47図13



第47図12



第46図8



第46図9



第50図29



第46図10+11



第47図12+13



第45図5



第49図22



第50図27



第49図26



第49図23

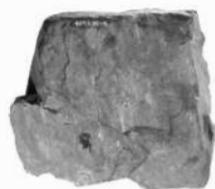


第49図20



第49図21

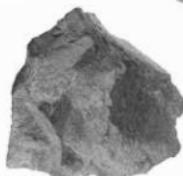
図版12 出土遺物 4



第49図18



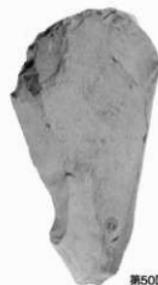
第48図15



第48図17



第47図14



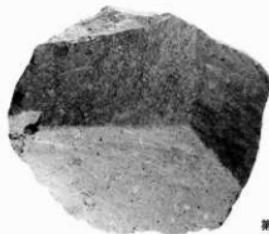
第50図24



第49図19



第50図25



第48図16

## 報告書抄録

ふりがな	てんしょうじいせき							
書名	天正寺遺跡							
副書名	国道139号線（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第248集							
著者	網倉邦生							
発行者	山梨県教育委員会 国土交通省 甲府河川国道事務所							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923 TEL 055-266-3016							
発行年月日	2007年10月31日							
ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m <sup>2</sup>	調査原因
		市町村	遺跡番号					
てんしょうじ 天正寺 遺跡	山梨県都留市 井倉字赤沢平 地内	204	100	35° 33' 39"	138° 56' 9"	平成17年7月22日 ～平成17年11月2日 (平成17年度調査) 平成18年6月21日 ～平成18年7月28日 (平成18年度調査)	4,236m <sup>2</sup> 調査対象面積 (4,452m <sup>2</sup> )	道路 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天正寺遺跡	集落跡	縄文	土坑5基	土器・石器	
	集落跡	弥生	住居状遺構1基	土器・石器・剥片	
	畠跡	中世以降	土坑30基・ 溝状遺構81条	陶磁器・鉄砲玉・金属製品	溝状遺構は、畠の間の凹地 である。

### 山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第248集

## 天正寺遺跡

国道139号線（都留バイパス）建設に伴う発掘調査報告書

平成19年10月24日印刷

平成19年10月31日発行

編集	山梨県埋蔵文化財センター
	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923
	Tel 055-266-3016 Fax 055-266-3882
	<a href="http://www.prefyamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm">http://www.prefyamanashi.jp/barrier/html/maizou-bnk/index.htm</a>
発行	山梨県教育委員会
	国土交通省 甲府河川国道事務所
印刷	株式会社ヨネヤ